

JFA news

3 NO.455
2022.
情報号

特集

日本フットサル の未来

北澤豪 JFAフットサル委員長
日本フットサルのビジョン
フットサルの魅力
～稲葉洸太郎フットサル普及担当コーチ

 adidas



想像を超えていけ。

PREDATOR

EDGE

プレデター エッジ

CONTENTS

特集

日本フットサルの未来

- 004 **北澤豪** JFAフットサル委員長
- 006 **日本フットサルのビジョン**
～小西鉄平 JFA フットサルテクニカルダイレクター
- 010 **フットサルの魅力**
～稲葉洸太郎 フットサル普及担当コーチ

【日本代表】

- 057 **AFC女子アジアカップインド2022**
なでしこジャパンの戦い
池田太監督インタビュー

【特別企画】

- 018 **JFAグラスルーツ対談**
桶川クイーンズ少女サッカークラブ(後編)
- 069 **AFCエモーションプロジェクト(後編)**
小野剛 JFA副技術委員長インタビュー

【連載】

- 020 隔月連載 **JFAホットスポット**
『JFAシニアフェスティバル』の展開
- 052 隔月連載 **私とフットボール**
中川英治
「指導者として積み上げた知恵と言葉を磨き、選手たちと歴史をつくる」
- 055 隔月連載 **ビーチサッカーナビ**
茂怜羅オズ ビーチサッカー日本代表監督
「変化する世界のビーチサッカー」
- 056 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「絶望を救う励まし」

◎ JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

◎ JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

◎ JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

【REPORT】

- 013 JFAスモールサイドゲーム ガイドライン策定
- 014 学校体育サポートの取り組み

【記録集】

- 038 皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会

【大会・試合】

- 062 皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会
- 064 日本女子フットサルリーグ2021-2022
- 066 FUJIFILM SUPER CUP 2022
- 067 2022明治安田生命Jリーグ開幕
- 016 日本サッカーミュージアム
- 017 サッカーファミリー広場
- 021 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告
- 026 会議レポート
- 032 DATA BOX
- 048 蹴球通信
- 072 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix

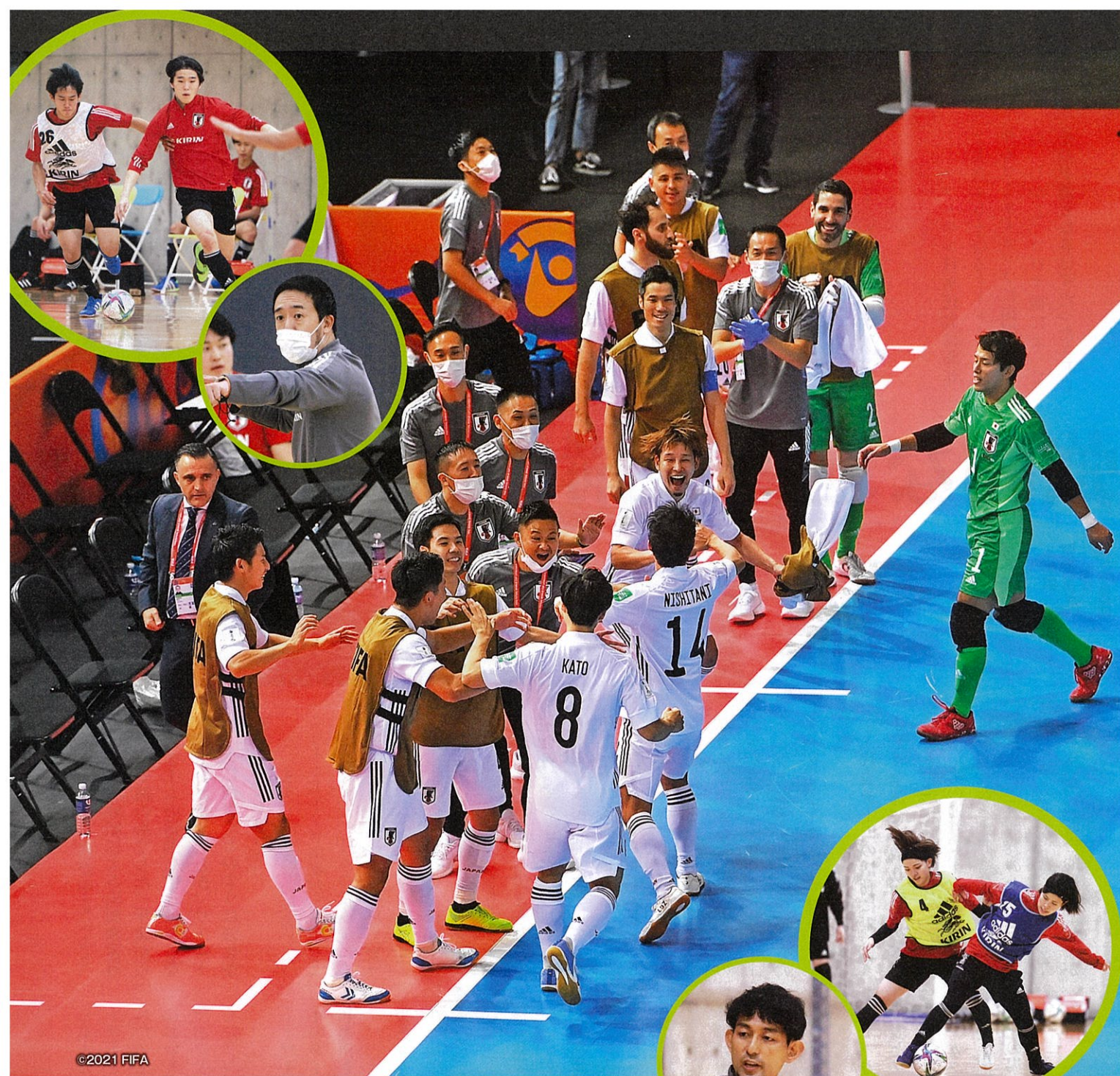


JFAnewsを印刷する際に排出されたCO₂は「やまなし県有林活用温暖化対策プロジェクト」によって創出されたクレジットを活用し、カーボンオフセットしています。この取り組みを通じてJFAは地球温暖化防止に貢献しています。





dunhill



©2021 FIFA

[特集] 日本フットサルの未来

連携を強化し、 さらなる高みへ

FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021でベスト16となったフットサル日本代表。2021年11月にはブルーノ・ガルシア前監督の後を引き継ぎフットサル日本代表監督に木暮賢一郎が就き、フットサル日本女子代表監督には須賀雄大が就任した。

新体制となった日本フットサル界はこれまで培った経験や財産をどのように未来につなげていくのか。

今号の特集では、日本サッカー協会（JFA）の北澤豪フットサル委員長に日本フットサルの現状と今後のビジョンを、小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターには代表チームの強化、選手育成、指導者養成、普及の各施策について聞くほか、稲葉洸太郎フットサル普及担当コーチにフットサルの魅力や普及のための新たな構想などを聞いた。

2016年3月に日本サッカー協会（JFA）フットサル委員会の委員長に就任して以降、日本フットサルをけん引してきた北澤豪氏（JFA理事）。この2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で思うように活動できない状況が続いているが、これまでどのように取り組み、そして、これからどのような道を進むのか。北澤委員長に話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年2月14日

自分たちの方向性を信じて
さらに追求していく

——フットサル日本代表は昨年、2大会ぶりとなるFIFAフットサルワールドカップに出場しました。しかし、コロナ禍によって、その予選となるはずだったAFC

強固な地盤を構築する

使命 北澤豪 JFAフットサル委員長

フットサル選手権が中止になり、過去の大会成績による出場権獲得という異例の形でした。年頭から代表チームの活動も中止になるなど厳しい状況でしたが、ワールドカップに向けてどのように強化を進めたのでしょうか。

北澤 まず、これまでの成績によってワールドカップ出場が決まったことに関しては、日々の積み重ねの重要性をあらためて認識しました。しっかりとやってきて良かった、と。

チームの強化については、やはりどれだけ強化試合を行えるか、ということが大切になります。対戦経験を通して研ぎ澄まされた感覚を養っていきますから。ですから、これまでJFAが築いてきた各国との関係やブルーノ・ガルシア前監督のネットワークをフルに活用し、ポルトガルやアルゼンチン、スペインなどの強豪国と国際親善試合を組みました。フットサルのつながりだけでなく、フットボール全体としてJFAが培ってきたものが生きたと思っています。

——代表チームの活動に限らず、JFA全体での取り組みが大きかった、と。

北澤 その通りです。医学委員会はもちろん、JFA全体で感染症対策などそれぞれのセクションで行ってきたことを集約し、できない判断を的確に下しながら

に進めることができました。フットサルを含め、この2年間に行われた各カテゴリーの国際親善試合において、JFAが成熟した組織であるということを示せたのではないのでしょうか。

——ワールドカップでは2012年のタイ大会以来となるラウンド16進出を果たしました。

北澤 スペインやブラジルなど優勝を争うチームを相手に、相手が少し慌てるような状況にまで追い込んだ、そういう戦いができるようになったことができました。われわれの方向性や積み重ねてきたことは間違いではなかったと実感しました。ただし、成績でいえば1勝しかしていない。ハイレベルな試合の中で展開を読む力や、ポイントとなる局面でもっと積極的に仕掛けていくことなど、まだ足りない部分はあります。とはいえ、今大会で見えた課題はポジティブなものです。自分たちがやっていることを信じて、さらにそれを追求していきます。

——一方、U-20フットサル日本代表とフットサル日本女子代表は、それぞれAFC U20フットサルアジアカップとAFCフットサル女子選手権が中止になるなど貴重な強化の場を失ってしまいました。

北澤 U20アジアカップはその年代でしか出場できない大会ですの

で、非常に残念です。この機会を失ったことによる影響がないように、われわれも対応していかねばならないと考えています。

女子は、日本女子フットサルリーグ（女子Fリーグ）や地域リーグなど各所で選手やチーム、関係者が「自分たちが女子フットサル界を支える」という強い思いを持って取り組んでいます。今回は残念ながらAFC選手権が中止となっただけでしたが、選手たちには、次は自分が代表に入るんだという意欲を持ち、努力を重ねてほしいと思います。

この2年間、今できることは何かということを探りながら活動してきました。複数の大会が中止となりましたが、選手は常に野心を持っていきます。その野心をプレーで発揮しながら、チームの強化を図るには、トレーニングを重ねていく必要があります。そういう意味でも、フットサル専用アリーナがある高円宮記念JFA夢フィールドができたことは、本当に大きなことです。

アジアでは常に優勝を
目指さなければならぬ

——昨年11月に、フットサル日本代表に木暮賢一郎監督が、女子代表に須賀雄大監督がそれぞれ就任しました。選任の狙いを教えてください。

フットサルの それが自分の



昨年11月にフットサル日本代表監督に就任した木暮監督(右)とフットサル日本女子代表監督に就任した須賀監督(左)。チームはそれぞれ新たな目標に向けて進んでいる

北澤 日本人を日本代表監督に据えるということは5年前から考えていました。もちろん、日本人に拘っているわけではなく、今もブルーノ前監督と連絡を取り合うなど、海外の経験豊富な指導者から学ぶという視点も持っています。

フットサル日本代表の強化の傍ら、ブルーノ前監督に日本人監督を育ててほしいという話をしていた中で木暮賢一郎と鈴木隆二がコーチとしてチームに加わり、活動してきました。海外の指導者も含めて人選を考えてきましたが、実績や考え方、今後のビジョンなど多くの点から木暮監督を新たな指揮官として迎え入れることにしました。

須賀監督は日本代表のコーチも兼任します。女子代表の前監督である木暮監督とコミュニケーションを図りながら、新しい風を吹き込んでほしい。彼は長くフウガドルすみだの監督を務めてきた実績もありますし、戦略家でもあるので、その手腕を存分に発揮してくれると期待しています。

——日本代表は今年10月にAFCフットサルアジアカップクウェート2022が控えており、4月にその予選が行われます。

北澤 アジアでは常に優勝を目指さなければなりません。1月末にトレーニングキャンプを実施し、地区予選と同じような日程で調整し

ながら中2日でトレーニングマッチを行いました。新たな試みでしたが、手応えを感じています。日本が強い国であり続けるためには、3大会連続でワールドカップに出場できる選手を育てていかなければなりません。そういうことも意識して木暮監督にはチームづくりを進めてほしいと伝えています。

——U-19代表や女子代表は今年、国際大会がありませんが、どのように強化を進めていきますか。

北澤 代表チームは象徴となる存在です。全ての選手がそのことをより意識できるようにしたいと思っています。木暮監督がU-19代表監督を兼任する理由もそこにあります。コーチングスタッフ間で

常に情報を収集し、それを共有して中期的なプランで若手を成長させていく。女子もそうですが、情報の管理と地域との連携は今後、さらに力を入れていかなければならない部分だと考えています。

適材適所で 揺るがない組織を

——2016年3月にフットサル委員長に就任されました。当時は、日本がフットサルワールドカップ出場を逃した直後で、委員長は「まずは代表強化から」とおっしゃっていました。この6年間、どのようにフットサル界の改革を進めてきたのですか。

北澤 代表強化が重要なことに変わりはありません。ただ、あらゆるものが健全でなければ物事の進歩が難しくなる、と感じています。ですから、代表強化だけでなく育成、普及、指導者養成と全ての部門に適材を配置して改革を進めてきました。この6年間で日本のフットサル界は成熟した組織になってきたと思います。

——今後、どのようにフットサル界を発展させていこうと考えていますか。

北澤 現在、JFA内でもフットサルに関わる人たちが増えてきており、彼らの経験やスキルを生かすことにより物事をスムーズに進められています。特にフットサル界をけん引してきた人材は貴重です。例えば、元フットサル日本代表の高橋健介は代表コーチに、稲葉洗太郎は普及担当コーチに就任しました。そういう人材を組織の中できちんと生かしていくことで、強化も育成も普及もより進んでいくはず。フットサルもサッカー同様、結果が求められる勝負の世界ですが、揺るがない組織、健全な環境が整っていれば、たとえワールドカップ出場を逃すこと

——フットサル委員会とFリーグや女子Fリーグとの連携についてはどのようにお考えですか。

北澤 より強い結び付きが必要だと考えます。それぞれの管轄はありますが、撤退するクラブが出た

り、大会がなくなってしまうというところは絶対に避けなければなりません。フットサルがより魅力的な競技となり強化が進められるように、現場で起こっていることや選手層、クラブの指導指針などを共有していくことが大切です。それは各リーグだけでなく、地域に対しても同じことが言えます。

——今後、どのようにフットサル界を発展させていこうと考えていますか。

北澤 より強い結び付きが必要だと考えます。それぞれの管轄はありますが、撤退するクラブが出た



特集 日本フットサルの未来

日本フットサルのビジョン

～小西鉄平 JFA フットサルテクニカルダイレクター

FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021を終え、フットサルナショナルコーチングスタッフ体制が再編成された。世界における日本フットサルの現在地と世界大会における成果・課題の報告をはじめ、新体制における目的と「代表強化」「育成」「指導者養成」「普及」各部門での取り組み、今後のビジョンについて小西鉄平JFAテクニカルダイレクターに話を聞いた。

○オンライン取材日：2022年2月17日



©2021 FIFA via Getty Images

2021年のFIFAフットサルワールドカップでは世界の強豪と互角の戦いを演じた(写真はグループステージ第2節のスペイン戦)

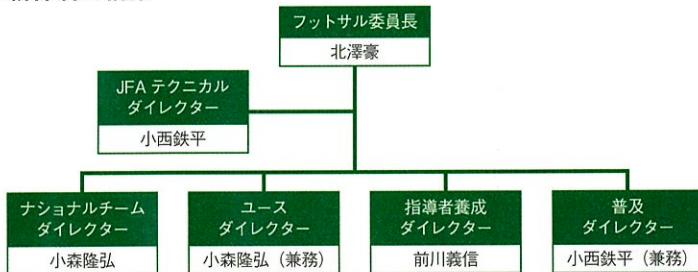
日本人監督に任せることができたのは、歴代監督も含めたりレレーの中で多くの経験や知見が得られ、日本のフットサル界全体が成長したからだと思っています。

小西 間違いなく成長していると思います。一つは今回、日本代表のコーチングスタッフを日本人のみで構成できたことが挙げられます。近年、サッポ監督、ミゲル・ロドリゴ監督、ブルーノ・ガルシア監督と3人の監督に指揮していただきましたが、日本のフットサルは、経験豊富な外国人監督や日本代表選手として海外経験のある選手たちの経験や知識に頼らざるを得なかったと思います。

——日本のフットサルは現在どのような状態にあると考えていますか。

イントロダクション
オールジャパン体制は日本フットサルの成長の証し

新体制の構築



	フットサル日本代表	U-20 フットサル日本代表	フットサル日本女子代表
監督	木暮賢一郎	木暮賢一郎	須賀雄大
コーチ	高橋健介 須賀雄大	高橋健介 インストラクターより	インストラクターより
GK コーチ	内山慶太郎	内山慶太郎 GK プロジェクトより	内山慶太郎 GK プロジェクトより
フィジカル コーチ	馬場源徳	フィジカルフィットネス プロジェクトより	フィジカルフィットネス プロジェクトより

小西 努力が必要な領域は普及です。データ上ではサッカーやフットサルを楽しむ人の数は横ばい、もしくは減ってきています。その点は日本サッカー協会(JFA)全体で改善していくべき課題ですが、フットサル界で貢

——課題はあるのでしょうか。

す。また、指導者養成の領域においてもフットサルの基本を教えられる体制が整備され、そこで学んだ指導者の方々の努力によって育ってきた選手たちがフリーゲの舞台に立ち、日本代表に選ばれたりといった事例が少しずつ増え、早い段階でサッカーからフットサルに転向する選手も増えてきて、トップレベルの年齢層が大きくなりました。



2021年11月にフットサル日本代表新体制が発表された。左から小西ダイレクター、須賀監督、木暮監督、北澤委員長

献できる部分もあると思いますので、今後は普及部門にも重きを置いて取り組んでいくことにしました。直接的なアプローチができていなかったのは事実ですので、そこを見直すことが課題の一つだと考えています。

——今後の発展に向けて、中期的、長期的なプランがあれば教えてください。

小西 明確な目標として定めているのは、2036年のFIFAフットサルワールドカップ優勝です。そこに向けて代表、育成、指導者養成、普及の4部門がそれぞれのタスクをこなし、連携するための体制をつくりました。2036年に優勝するためには4年ごとのワールドカップでベスト8以上の成績を残し続けることが重要で、そのためには若い選手の台頭が必要であるということが過去のデータから出ています。ワールドカップに複数回出場している選手が主力を担うチームでなければ優勝は難しいというデータもある

りますので、選手を発掘して育成し、着実にU-20代表、日本代表へとつながるようにしていきたい。それが中・長期的なビジョンです。

代表強化

**明確な目標の達成へ
大会を想定した試合を**

——昨年のワールドカップではグループステージでスペインと互角の戦いを見せましたが、ラウンド16でブラジルに敗れました。日本代表は今、世界のどの位置にいますか。

小西 ワールドカップのベスト16が現在地だと思います。ワールドカップで優勝したポルトガルや準優勝したアルゼンチンの場合、多くがヨーロッパの主要リーグでプレーしていますが、日本人ではまだ少ない。そう考えると、選手個々がさらにレベルアップし、多くの選手が年齢が若いときにヨーロッパや世界のトップリーグでプレーするような状況にならなければと思っています。

——先ほども話にありましたが、木暮賢一郎新監督が就任するなどナショナルコーチングスタッフも一新しました。この狙いを教えてください。

小西 現体制には入っていませんが、ブルーノ監督、鈴木隆二コーチ、下地達朗フィジカルコーチという素晴らしいスタッフや選手たちのおかげでベスト16という成績を残すことができました。ただし、ワールドカップを戦ったチームは強度の高い守備と組織的な攻撃を

2022年~2024年までの目標(男子)

項目	具体的な目標
強化	・ワールドカップ常時ベスト8以上 ・多くの選手がU-20代表から昇格 ・代表ラージリストデータベース作成 ・強化担当者会議の新設
育成	・全国ユースリーグ設立 ・9地域トレセン設立 ・18歳トップチームデビュー ・20歳代表デビュー ・各地域有望選手リストのデータベース作成
普及	・フットサルアカデミー設立 ・コンビネーションフェスティバルの実施 ・年間カレンダーの検討と作成 ・各地域FA主催講習会の実施 (フットサルC級やワークショップ)
指導者養成	・教本制作 ・S級新設 ・GKライセンス ・AFCライセンスとの互換 ・UEFAライセンスとの関係強化

2022年~2024年までの目標(女子)

項目	具体的な目標
強化	・AFC女子フットサルアジアカップ優勝 ・インドアゲームズ優勝(2023年) ・代表レベルの国際試合の実施 ・ラージリストを活用したオフザピッチでの強化策の実施 (クラブと連携し、フィジカルやGK、専門ポジションにて選手強化)
育成	・U-18代表チームの発足 ・U-18全国大会発足
普及	・U-15世代のフットサルフェスティバルの設立 ・フットサルアカデミーの設立
指導者養成	・女性指導者の質と量の向上 ・インストラクターグループへの女性指導者の積極的な登用

軸としており、ブルーノ監督のプレーモデルに依存してしまいました。それでベスト16に到達しましたが、その先に行くためには、個人が局面で下す判断がチーム全体の決断になり、組織としてプレーしているような形になっていかなければなりません。そのような指導ができる人材として、また豊富な経験を生かして、育成の部分も含めて個々の選手へのアプローチに長け、強みとして指導できる木暮監督にお願いすることにした。

——歴代の外国人監督は何を残し、それをどのように次の世代に継承していくと考えているのでしょうか。

小西 外国人監督の皆さんからは、フットサルではどのような戦略を立ててプレーすべきか、その戦略をマスターするためにどんな戦術が必要なのか、といった全体的な部分を学ぶことが非常に多かった。また、戦術的な観点や具体的なアクションの方法、そのアクションを取るための思考回路など、アカデミックに体系化されたもの、いわば「教科書」

を学ばせていただきました。その教科書をどうやって試合にアレンジさせていくかが、これからやらなければならないことだと思っています。

——コロナ禍の影響により難しい状況が続きますが、どのような強化プランを考えていますか。

小西 試合をしながら強化していく方針を採る予定です。今までは監督が提示するプレーモデルを吸収し、コンビネーションを高めるために月1回、国内合宿などを行うなど、活動の回数や頻度を重視していましたが、今からは少し方針を変え、年に4回ぐらいあるインターナショナルマッチデーに比重をかけ、大会のシミュレーションができる枠組みで強化していくことにしました。コロナ禍の影響で海外遠征やワールドカップベスト8以上の国とのマッチメイクができない、大会に即したスケジュールで実施するのが難しいなどの課題に直面していますが、現場スタッフの工夫とFリーグの協力もあり、1月の長期合宿ではFリーグのクラブと本番さながらの

トレーニングマッチを行うことができました。もともとは海外に行く予定でしたが国内合宿に切り替え、小森隆弘ナショナルチームダイレクター、木暮監督、手嶋将馬チームマネージャーとともに早急にプランをつくり変えることができました。

——女子代表はターゲットとなる大会がない1年になります。

小西 まず監督の交替についてですが、木暮監督が率いてくれた18年からの3年間で、女子代表は戦術面やプレーの考え方、代表のプレーモデルが各クラブにまで幅広く浸透しました。それを継続するため、また女子フットサル環境を整備を促進するために、Fリーグでの実績があり、木暮監督とも良い関係性を築けるであろう須賀雄大監督にお願いしました。今年はターゲットとなる大会がない中で活動となりますが、その中で目指すべきは日々の成長であり、やがて開催されるAFC女子フットサルアジアカップで絶対に優勝することです。新型コロナウイルスが収束すれば世界大会なども開催されるでしょうから、そのための準備を怠らないように、ということを選手の皆さんには話しています。

育成

育成年代の発掘へ データベース化を図る

——育成における現在の課題と、今後のプランを教えてください。

小西 課題は二つあって、まずは選手のデー

タベースがないこと。全国9地域にどのような有望選手がいて、その選手たちがどのような進路をたどっていくかが把握できていないんです。そこで、今年から20歳以下の選手たちのデータベース化を始めました。1月のJFA全日本U-15フットサル選手権大会、JFA全日本U-15女子フットサル選手権大会に指導者養成グループのインストラクターを派遣し、彼らに有望と思われる選手を挙げてもらい、ウェブフォームに入力してもらいました。今後はJFAバーモントカップ全日本U-12フットサル選手権大会やJFA全日本U-18フットサル選手権大会などでもデータの充実を図る予定です。

もう一つの課題は、そうした育成年代の選手たちの活動環境が整っていないことです。リーグ戦の環境があり、そこで活躍した選手たちが集まって切磋琢磨できる機会を、年代表別の活動以外にも増やさなければならぬと思っています。そこで、今年から東西のU-18トレセンをスタートさせる予定と

なっています。

——フットサルをプレーしていた選手がサッカーに専念するなど、なかなか定着しないことも課題となるのではないのでしょうか。

小西 われわれのビジョンでは、U-12やU-15世代はサッカーとフットサルの垣根を低くし、自由

に行き来できる環境を目指しています。子どもたちが将来の夢として何を掲げるかは本人の自由ですし、フットサルに誘導するつもりもありません。サッカーもフットサルも楽しめる環境を提供し、そこに適切な形で大人が関わり、選手が自分の意思で行きたいと思える方向に導くことが必要だと思っています。

——19年まで開催していたフットサルタレントキャラバンの再開予定はあるのでしょうか。

小西 代表チームのモデルを各クラブにも浸透させたいという狙いで、Fリーグデビジョン1のクラブのトップやサテライトチームと女子Fリーグの選手を対象に、代表のコーチングスタッフによるトレーニングを実施していました。また、9地域のU-18の選手には、U-20代表チームの結成に向けて若い年代の選手を把握するため、そしてそこでのトレーニング



1月に開催されたU-15年代の全国大会から選手のデータベース化に着手した(左はJFA第27回全日本U-15フットサル選手権大会、右はJFA第12回全日本女子フットサル選手権大会)

グ内容を全国に広めてもらうためにキャンプを実施していました。ですが、今は代表での活動も充実し、理解も深まってきたと思いますので、モデルの浸透から選手の発掘へとシフトチェンジさせていく段階に入っています。ただ、従来のキャラバンでは各地域への負担も掛かりますし、キャラバンの将来像として構想していたものがトレセン活動ですので、今後はそこに注力していこうと考えています。

——フットサルGKキャンプは21年度も実施しました。こちらの手応えはいかがでしたか。

小西 GKは特別なポジションですので、明確な意図を持って指導していくことが重要です。若い世代ではサッカーからフットサルへの転向が多いポジションでもありますが、最近ではJクラブから「この選手はフットサルに向いていると思うからキャンプに呼んでほしい」という声を掛けていただくこともありま

す。サッカーの基準に照らすと、上背はないけど、足元の技術はうまいし、身体能力も高い。性格もプロ向きという選手に来てもらうための場所としても、GKキャンプを活用したいと思っています。また、内山慶太郎GKコーチが代表でやられているメソッドを指導者の皆さんに理解していただき、チームに展開していただくことも目的としています。

指導者養成

**新ライセンスの創設へ
専門知識を学んでもらおう**

——指導者ライセンスは08年にC級、11年にB級、17年にA級の養成講習会を開設しました。指導者養成の意義を教えてください。

小西 国際舞台で活躍できる日本人指導者を養成したいというのが大きな目的です。今は24年にフットサルS級ライセンスを開設すべくプロジェクトを立ち上げ、月1回ぐらゐのペースでミーティングをしています。アジアサッカー連盟(AFC)はコロナ禍になる前からプロライセンス創設の準備をしていて、それが開設された場合はAFCのそれと互換性のあるライセンスとなります。AFCの大会で指揮を執るために必要になるので、早めに準備したいということで進めています。ただ、世界に出るとヨーロッパサッカー連盟(UFFA)などに目が向くと思うので、UEFAライセンスとの互換性については議論を重ねているところです。

——GKライセンスも新設する予定があるとのことでした。

小西 今年、GKのC級ライセンスを2コース、スタートさせることが決まっています。先ほどのGKキャンプの話にもつながるんですが、特別なポジションなので専門的知識のある指導者が必要です。また、育成のチームにGKコーチがいるケースも少ないため、主にフィールドプレーヤーを指導するコーチたちがGKの知識を持つためにも、早めにGKライセンスをつくりたいと考えていました。昨年、内山GKコーチを中心にプロジェクトを立ち上げ、川俣則幸JFA GKプロジェクトリーダーからいろいろ教えていただきながら、フットサルでできること、できないことなどの議論を重ねて、ようやく開催できる運びとなりました。

——指導者養成をさらに充実させていくために必要なことは何でしょうか。

小西 実は、フィジカルフィットネスプロジェクトも立ち上げました。フットサルはフットボール競技なので、サッカーに比べて足関節のけがが多くなります。けが予防のためには何をしなければいけないのか、フットサルのフィジカルコーチはどんな役割を持つのかをまとめたいですし、各年代におけるフィジカル能力の数値化などもプロジェクト内でやろうと考えています。代表チームへの人材派遣も行っていて、フットサル日本代表には馬場源徳さん、昨年末のU-20の代表合宿にはフィジカルフィットネスプロジェクトの代表として佐藤亮さんをフィジカルコーチ、インストラクターグループからは豊島明さんをアシスタントコーチとして派遣しました。

普及

**小学生がフットサルに
触れる機会を増やす**

——現在、行っている普及の取り組みを教えてください。

小西 各地域FAとの協働で、フットサルのフェスティバルを開催したいというのが一つの具体的な目標です。それに向けて、元フットサル日本代表の稲葉洗太郎さんに普及担当コーチとして入っていただきました。稲葉コーチがプレーを見せたり、言葉で伝えたりしながらフットサルの魅力をキッズ年代に伝えていくというのがフェスティバルの目的で、できれば春休みが終わるころまでにトライアルを実施したいと考えています。

——フットサルを広めていくためには何が必要だと考えていますか。

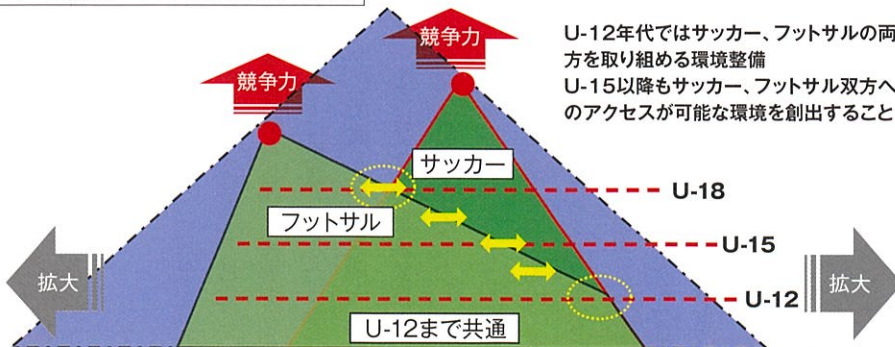
小西 全ての小学生がフットサルに触れることができる環境整備が大切だと思っています。極端に言えば、学校教育のカリキュラムに組み込まれていることが最も近道になると思うのですが、まずはできることを着実に進めることが大切ですので、フェスティバルでサッカーチームの皆さんにフットサルのピッチやボールでのプレーを経験してもらって、その楽しさや少人数でできるお手軽感を経験してほしいと思っています。

——日本のサッカーファミリーに伝えたいことはありますか。

小西 フットサルはサッカーとは違う、という議論になりがちですが、われわれの考えはそうではなく、フットサルもサッカーも楽しんでプレーし、少しずつ自分に合う競技に進んでほしい。小さい頃からビーチサッカーもやってほしいし、フットサル、サッカーに加えてバスケットボールやバレーボールでもいいですし、いろいろな競技を経験し、自分に合うものを選んでほしいと思います。

JFAフットサルビジョン(2016年作成)

- ・フットサルを通じた社会貢献
- ・フットサル代表チームによる夢や希望、勇気を与える
- ・フットボールの、スポーツとしての価値拡大への貢献



フットサルでフットボール界に新風を



フットサルの魅力

稲葉洸太郎 フットサル普及担当コーチ

長くフットサル日本代表をけん引してきた稲葉洸太郎さんが2021年12月、日本サッカー協会（JFA）のフットサル普及担当コーチに就任した。新たな役割を担うにあたっての意気込みやフットサルの魅力を聞いた。

○オンライン取材日：2022年2月7日

サッカーの6倍 ボールに触れられる

——フットサル普及担当コーチに就任された経緯を教えてください。

稲葉 2020年に選手として一線を退いた後、田嶋幸三JFA会長と今後のことなどをお話しさせていただいたときに、「小さい子どもたちにフットサルをやらせたい」というお話をうかがいました。世界を見ると、 Neymar

やイニエスタといったスター選手たちもフットサルでボールの扱いに慣れてからサッカーに移行していくというトレンドがあります。日本にもそういう文化を取り入れたいという話をしていただき、お引き受けすることにしました。

——トップ・オブ・トップでの指導ではなく、普及に力を入れるのですね。

稲葉 自分の中では、「日本フットサル界を大きくする」という決意を持って選手生活に区切りをつけた部分がありました。フットサルをレベルアップさせるには、底辺を拡大すること、フットサルという競技をより多くの人が知ってもらうことが重要であって、私もそこに関わりたいという思いを抱いていました。

——そういう思いを抱き続けた理由は。

稲葉 「選手たちのプレー環境を改善したい」という思いが根底にあります。私は大学4年生のときに初めてフットサル日本代表に招集されたのですが、当時はFリーグもなく、日本代表でも社会人として働いている選手が大半を占めていました。「フットサル界はこの先、大丈夫のかな」という不

安を抱きながらも、「自分がフットサルを盛り上げて下の世代にこの競技の素晴らしさを継承するんだ」と勝手に決意しました（笑）。クラブに所属しながら個人スポンサーをつけたり、個人競技のように企業プロ選手になったり、Fリーグが創設されるまで自分なりに環境を整えてきたつもりでした。しかし、いざ一線を退くとなったとき、日本のフットサルは依然としてメディア露出が少なく、世間の認知度もまだ低く、私が思い描いていたようには盛り上がっていませんでした。日本のフットサルがレベルアップするには、競技そのものの向上はもちろん、周囲に認知してもらい、試合を見てもらい、人気を高めていくことが不可欠です。そして、そのためにはフットサルのパイを広げることがやはり必要なのです。同時にそれはJFAが掲げている、2050年までに「サッカーファミリーが1000万人になる」「FIFAワールドカップを日本で開催し、日本がその大会で優勝する」と

いった目標とリンクするものだという確信もありました。

——強い思いがあつての、今回の就任なんですね。

稲葉 この2年間、フットサルの長所を客観的に捉え、それがどうサッカー選手の育成につながり、フットボールの人口を増やすことに直結するかを考えました。それを言語化するため小西鉄平JFAフットサルテクニカルダイレクターらと相談した上で、JFAの技術委員のメンバーにフットサルの長所や育成年代でフットサルを取り入れることのメリットを説明する機会をいただきました。

——技術委員の方々の反応はいかがでしたか。

稲葉 皆さん、肯定的でした。特に良い反応を示してくれたのが技術的な部分です。フットサルはピッチが狭い分、選手がボールに触れる回数はサッカーの6倍とも言われています。ボールに触れる頻度が上がるということは、判断する回数も増えますし、そこで頭を使い、多くの成功体験と失敗体験を積むことにもつ

ながります。

小さい子どもはボールがバウンドして顔の近くに来ると怖がることもありますが、フットサルのボールは弾みにくいためトラップがしやすく、足元にピタッと止められるので、ボールを止めるまでに相手に囲まれるというストレスがなく、すぐに次のプレーに移行し、相手との1対1やパスの駆け引きをたくさんすることができます。その駆け引きの中にフットサル特有のボールの持ち方やコンビネーションでの崩し方、ポジションの方法などがあるので、レベルが上がってくればそれらを伝えていくこともできます。また、ポジションも複雑ではないので初歩的なポジショナルプレーも身に付けられます。フットサルだけに専念してほしいという意図はなく、週に1回でもフットサルをやってみるとそこで新しい発見があり、サッカーに生きるのではないかと思うからです。

サッカーの取っ掛かりとしてフットサルを始めてほしい

——今後どのようにフットサルを普及していこうとお考えですか。

稲葉 四つの層にアプローチしていきたいと考えています。一つ目の層は、フットボールを始め

て間もないU-8・U-10年代で、ボールを蹴ることや上達していく喜びを味わってもらい、さまざまな技術を楽しく身に付けてもらうことが目的です。

二つ目はU-15年代の女子です。この層には中学校進学とともに活動の場を失う女子選手がたくさんいます。私も文京LBレディース（東京ユナイテッド女子チーム）で女子の指導に携わる中で、U-15年代の女子選手がサッカーを継続するための場所を探しているケースが多いということを感じました。その点、フットサルならばスペースを取りませんし、5人がそろえば一つのチームを組むことができます。女子選手のための環境をできる限り整え、フットボールを続けられるように部活動やクラブチームなどでサポートができないかと模索しています。

三つ目は高体連やユース、ブロのクラブとの連携です。フットサルには、狭いスペースを少数で崩していくアイデアが豊富にあります。例えば、2人で相手守備陣を突破するとき、ワン

ツーパスだけでなく、相手の対応や場所・状況によってそこから6〜7通りのオプションがあり、それらをフットサル選手たちはみんなが定型文のように体現することができません。それは一人だけではできないプレーであり、互いの共通理解が必須となります。ワンツーは誰でも知っている動きですが、その誰でも知っている種類の幅を広げることで、パスの出し手と受け手の連係次第で相手を崩すことができます。こうしたヒントを伝えることが目的の一つですが、こちらからサッカーから取り入れるべき要素を学び、積極的に連携を図ればと思います。

四つ目はエンジョイ志向の若男女です。フットボールの魅力は年齢や性別を問わず、みんなが気軽に楽しめることです。世間では「個サル」（個人参加型フットサル）という文化も根付いています。これらは「生涯現役」を推奨するJFAのビジョンにも結びつきます。フットボールをより身近に感じてもらうための働きかけをJFAの皆さんと意見交換しながら考えていく構えです。

——四つのうち、まず着手すべきはどの層ですか。

稲葉 一つ目の層にあたるU-8・U-10年代です。巡回指導やフェスティバルでは、JFAとしてフットサルの有用性をより分かりやすく伝えることが重要です。もちろん、既に自分のチームでフットサルの練習を導入している指導者もいると思いますが、まだそこにアンテナを張っていない指導者もいるでしょう。そうした人々に向けてフットサルの長所や、なぜフットサルがサッカーに役立つかを丁寧に説明できればと考えています。

フットサルでは、よく足裏を使ってボールを運んだり、トラップしたりすることがあるので、ボールをこねるイメージを抱いている指導者も多いのではないのでしょうか。そんなことはありません。サッカー同様、レベルが上がるほど素早い判断とシンプルなプレーが求められます。私自身の経験を踏まえた上で正しい情報を伝えられれば指導者に響くと思います。

——U-8・U-10年代には、レベルを問わずフットサルを紹介

していきたいということですか。

稲葉 その通りです。JFAキックプロジェクトの一員として各都道府県のサッカー協会の方たちと行動を共にする中で、さまざまな経験をさせていただきました。今後はフットサル普及担当コーチとしてもサポートしながら、子どもたちがサッカーに親しむための取っ掛かりとして、「フットサルも盛り込んではどうか」という提案もさせていただく考えです。

JFAも47都道府県サッカー協会もサッカーの競技人口を増やすという共通の課題を抱えています。ボールにたくさん触れることができ、またボールを蹴りたいと思ってもらう意味で、フットサルは魅力的なツールになり得ると思います。

——稲葉さんには、フットサルとサッカー両方の指導に携わった経験があります。

稲葉 スクールや母校の暁星中学校での指導も含め、18歳のときから20年以上、サッカーとフットサルの指導に関わってきました。サッカーの現場では、現在、

未就学児からU-12年代、U-15年代、女子の指導に当たっています。Fリーグのフットサルチームの指導もさせていただいており、ここ数年はフットサルとサッカーの長所を生かした練習のメニューづくりに力を入れていきます。これまでに各カテゴリーを指導してきたことで、年代に応じた伝えるべき要素が異なるということ把握しているのもアドバンテージかと思えます。今後の活動でもフットサルとサッカー両方の長所を伝えていくつもりです。

失敗に終わろうと何度もチャレンジできる

——あらためて、フットサルの魅力は何だと思えますか。

稲葉 常にゴールを目指せるところがですね。相手のゴールが近い分、守ついても良い形でボールを奪えばすぐに得点に結びつきます。当然、シュートシーンもたくさん訪れるので、やはり常にゴールの匂いがするところがフットサルの一番の魅力だと思います。

繰り返しですが、育成年代の選手にとっては、とにかく

ボールにたくさん触れることがメリットです。相手との駆け引きを迫られるシーンや、判断する頻度も本場に多い。GK(ゴレイロ)を除くとピッチには4人しかいないため、チームとして良い形でボールを保持するためには、自分がどのポジションを取るべきかという感覚もおのずと養われます。U-12年代のチームを見ても、よく練習しているチームは「再現性が高い」連携プレーで多彩なバターンの攻撃を見せてくれます。こうした再現性のある攻撃も、それが失敗に終わろうと何度もチャレンジできるというフットサルの特性があるからかもしれません。

——フットサルを見る側には、どんなところを楽しんでもらいたいですか。

稲葉 スピーディーな試合展開です。GKですらゴールを狙うほど選手の得点意識は高い。本場に目まぐるしく展開が変わり、少しでも目をそらすとその間に点が入ることもあるくらい、スピード感あふれています。攻守の入れ替わりや一つ一つのプレーを見るだけでも価値があります。

フットサルの魅力を見る側に伝える、という部分でいいますと、今後のフェスティバルなどでは自分やFリーグの選手たちが実際に目の前のピッチに立って、「フットサルの技術を駆使すればこういうことができる」という見本を披露したいと思っています。ピッチが5面あるとしたら、そのうちの1面で自分たちがお手本を見せながら参加者と対戦する。そこにFリーグの選手が関わっていれば、フェスティバルに来た人たちはFリーグの存在を知り、それをきっかけに、今度は試合に行こうかなと興味を持ってもらうことが第一歩です。

——最後に、フットサル普及担当コーチとしての意気込みをお願いします。

稲葉 JFAの一員として、フットサルの有用性を伝えながら、それをサッカー選手の育成とフットサルの普及につなげるという任務をいただいたことをと

ても光栄に思います。この重責を全うするために、これまで培ってきた経験を多くの人たちに伝えたい。フットサルの長所を味わった選手がその後、サッカーという道に進むか、フットサルを続けるかはその選手に託しつつ、私は根本の部分にアプローチします。フットサルで使う技術はサッカーにも生かすことができます。それを年代やレベルに合わせて伝えることで日本のフットボール界全体を盛り上げたいと思っています。



稲葉コーチがまず取り組もうと考えているのが、U-8・U-10年代へのフットサルの普及。ボールを蹴ることや、上達していく喜びを感じてほしいのだという(写真はイメージ)

JFA スモールサイドゲームガイドライン策定

子どもも大人も楽しい ゲーム環境を目指して

日本サッカー協会（JFA）は2022年1月、U-10（小学4年生以下）年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFA スモールサイドゲームガイドライン」を策定した。本ガイドラインの概要や今後の展開についてレポートする。

トライアルを経て策定 みんなで取り組むものに

U-12（小学6年生以下）年代では、2011年に導入した8人制サッカーが定着している。11人制に比べてボールに関わる頻度が高い8人制は、学童期の子どもたちに適したゲーム環境と言える。

一方で、小学校は6学年と幅広く、またそれぞれの学年でも、学年が下がるほど月齢での発育発達の差は大きく、4月生まれと3月生まれの子どもの成長にも大きな違いが見られる。もちろん個人差があるため、全てに該当するわけではないが、例えばU-12年代とU-10年代を比較した場合、同じ8人制でもU-10年代のゲームでは「ゴールまで遠く、シュートの機会が少ない」「直接プレーに関われない子が多い」など多くの問題が生まれている。

そこでJFAは今年1月、「JFA スモールサイドゲームガイドライン」を発表した。作成に関わった中山雅雄 JFA 普及ダイレクターは「ボールに触れる機会やプレーの関わり頻度を考えると、小学校中学年、低学年は8人制よりも狭いピッチ、少ない人数、もっと簡単なルールで行った方がよい」と話す。

本ガイドラインは、検討段階では「JFA ミニサッカーガイドライン」と呼んでいたが、その後、全国各地で実施したトライアルの実績をもとに整理・構成し直したものとなる。中山ダイレクターは、「あまり聞き馴染みのない『スモールサイドゲーム』という名称にすることで、それが何を指すかを共有していきたい。そして、みんなでゲーム環境改善に向けて、本気で取り組んでいきたいと考えている」と説明する。これまで、低年齢層のゲーム環境は各都道府県や指導者の裁量に委ねられていたが、あらためてJFAが中心となり、共通の理念の下で進めていく。今後は、各地域・都道府県サッカー協会などに同ガイドラインを展開し、その普及とU-10年代の環境整備に取り組む方針だ。

「目の前の子どもにとって正解となるものを、大人があらためて考える必要がある」と中山ダイレクターは話す



「目の前の子どもにとって正解となるものを、大人があらためて考える必要がある」と中山ダイレクターは話す

指導者自身も子どもの成長を楽しむ

ガイドラインでは、成長段階における体力や心身の特性を踏まえた上で、適切なゲームの人数やピッチサイズ、ゴールサイズ、時間、ボールの大きさなどを年代別に定めている。加えて、ピッチマネジャーの役割と配置、ガイドラインに基づいた事業などについても記載している。

しかし、これらはあくまで子どもたちにとって最適なゲーム形式を考えるための一つの基準であり、中山ダイレクターも「ガイドライ



ン通りにやらなければならないということではない」と話す。「子どもたちを一番に考えることを、指導者や大会運営をする大人は忘れてはならない。どうすれば子どもたちがサッカーを楽しみながら成長できるのか、それを関わる大人がみんなでトライしながら考えていこうという狙いが根底にある。目の前の子どもたちに合わせてカスタマイズしてほしい。またルールの枠を超えてしまう子がいたとしても、それを許容する環境をつくっていくことが大切」と強調する。

なお、ガイドラインには8人制と比較したデータがあるが、小学1・2年生の4対4、小学3・4年生の5対5では、いずれもプレーの回数が増え、ドリブル回数に至っては倍増、シュート数や得点数も大幅に増加している。また、選手へのアンケートでも「楽しかった」「たくさん動けた、走れた」「たくさんプレーできた、ボールに触れた」「味方と協力できた」の各項目で評価が向上。スモールサイドゲームの有効性は実証されている。

とはいえ、世界的にも低年齢層のゲーム形式は「絶対」といえる正解は見つかっていない。だからこそ問われるのは、ガイドラインという「形」ではなく一人一人の大人が「子ども中心」をキーワードに、目の前の子どもたちを観察し、向き合うこと。中山ダイレクターは「『子どもが楽しめるように』という考えに対して、『遊びじゃないんだから』という意見があるのも分かる。けれど、良い意味での遊びや緩さは子どもたちの成長に必要と考える。その中で、守るべきものはしっかりと守りながら、子どもたちの能力を最大限に引き出してほしい」と願いを込める。

元日本代表監督のイビチャ・オシム氏の言葉に、「この子たちが明日どんなプレーをするのかを楽しみにできる指導者を育てることが大切」というものがある。子どもたちはサッカーを純粋に楽しむ、そして大人たちも、子どもたちが育っていくのを楽しむ。みんなが楽しめる環境をつくっていくために、このガイドラインを有効活用していくことが求められる。



JFA
スモールサイドゲーム
ガイドラインはこちら



今後、U-10年代のゲーム環境として、全国でスモールサイドゲームが広がっていくことが期待される

学校体育が持つ力を サッカーの普及につなげる



日本サッカー協会（JFA）は、学校体育でのサッカー体験がその後のサッカーとの関わりに大きな影響をもたらすと考え、学校体育をサポートする取り組みを推進している。

2014年には、小学校教員向けに「小学校体育サポート」をスタート。今年新たに中学校教育を対象とした「中学校体育サポート」を始めた。ここでは、小中学校への学校体育サポートの内容やその現状などをレポートする。

体育の授業をサッカーとの 出合いの場にする

中山雅雄 JFA普及ダイレクター

は、「サッカーに触れる人を増やし、愛してくれる人、取り組む人を増やしていく。そしてずっとサッカーに関わり続けてもらうこと。その両面での支

えがサッカーの普及と発展には必要になる」とし、その点で「学校体育は、サッカーとの出合いの場として非常に大事」と熱く語る。

学校でのスポーツ活動は、体育の授業と運動会などの学校行事、部活動がある。JFAは、日本独自の選手育成システムである部活動を支えるべく、『中学校部活動サッカー指導の手引き』など、サッカー指導のガイドラインを展開してきた。

それに加えて、「小学校体育サポート」により、体育の授業もサポートしている。その理由について中山ダイレクターは、「（日本の）義務教育では必ず体育がある。学校でのサッカー体験は、強化・育成や普及にも生きてくる」と話す。

学習指導要領の改訂で サッカーが必修から選択制に

体育の授業は、学習指導要領にその目標や内容が定められている。

1968年のメキシコオリンピックで銅メダルを獲得したのをピークに日本サッカーが低迷していた時代も学校体育ではサッカーが必修となっていた。「学校体育のサッカーで脈々と続いてきたベースがあったからこそ、Jリーグ開幕と同時に爆発的な人気につながった」と中山ダイレクターは口にする。国際サッカー連盟（FIFA）やヨーロッパサッカー連盟（UEFA）でもグラスルーツへのアプローチとして学校でのスポーツ活動を重視し、教員らにサッカーの運動プログラムを配

布しているという。

だが、2008年以降、学習指導要領が改訂され、ボール運動はゴール型、ネット型、ベースボール型の3種類に分類。ゴール型はサッカー、ハンドボール、ポルトボール、タグラグビーなど複数の種目の中から選ぶ形となった。

小学校では一人の教員が全教科を教えるが、中には運動が苦手な教員もいれば、サッカーをしたことがない教員もいて、「サッカーは難しい」「経験がないからどう教えていいかわからない」という声もよく聞かれる。その結果、体育の授業でサッカーが選択されないこともままある。学習指導要領の改訂以降、小学校では、タグラグビーを選択する教員が増えているという話もある。指導も簡単で、子ども同士で作戦を練り、互いに教えることができる上に、男子と女子が一緒に取り組めることもその理由だという。

教員にサッカーの授業を 小学校体育サポートを展開

現状のままでは、子どもたちがサッカーに触れる大きな機会を失うかもしれない。そうした危機感からJFAは2014年、「小学校体育サポート」をスタートさせた。

学校体育の現場では、外部講師、いわゆる各競技の専門家を派遣して授業を行うケースもあり、サッカーでもJクラブのプロ選手や地元サッカークラブの指導者が授業を実施しているところもある。これらも有効ではあるが、JFAが着目したのは小学校

の教員をサポートすることだった。

JFAではまず、小学校体育の全学年に対応した『サッカー指導の教科書』を発刊（2019年に改訂版『新・サッカー指導の教科書』を発刊）。45分の授業で、ウォーミングアップから活動1、活動2、そしてゲームと4段階の流れをつくることをベースに、効率的な場づくり、言語活動の考え方やJFAの持つノウハウを紹介している。サッカー経験がなくても楽しく充実した指導ができるよう、ポイントが詳らかに記されているのが特徴だ。

並行して、小学校体育サポート研修会も開催している。サッカーに苦手意識を持つ小学校教員に体験してもらおう中で授業の進め方や考え方を伝え、積極的に授業にサッカーを取り入れてもらえるようアプローチしている。

研修会は実技60分、講義30分の合計90分で、授業に生かせるような単元計画や指導案などを紹介。「サッカーはルールがシンプルで手軽、そして世界で最も人気があるスポーツ。サッカーそのものが持つ力を生かすことで、さまざまな学びがあるということを提案している」と中山ダイレクターは話す。

講師は、小学校体育サポートへの理解度、共感度を上げるため、主に現役の小学校教員が担当する。参加した教員からは、「運動は苦手だが、新聞ボールを使うことでとてもやりやすくなった。運動が苦手な子でも、得意な子と一緒に楽しめる工夫がなされていた」「褒め言葉やポジティブな言葉が多く、研修会の雰囲気がとても明る

学校体育サポートの取り組み



2021年12月に行われた中学校体育サポート研修会。サッカー指導者の中学校体育教員が集まった

中学校体育サポートを新たにスタート

JFAは、こうした小学校教員への取り組みに続き、中学校教員を対象とした「中学校体育サポート」をスタートさせた。今年1月には「中学校体育サッカー指導の教科書」を発売している。

中学校体育も小学校体育と同様に、球技はゴール型、ネット型、ベースボール型の3種類に分類され、ゴール型はバスケットボール、ハンドボール、サッカーから選択する形となる。一人の担任が全教科を教える小学校とは異なり、中学校は教科担任制だ。しかし、「足よりも手の方がボール扱いは簡単」サッカーはやっている子とやって

なかった「早く子どもたちと体育がしたい、そう思えるような研修だった」などポジティブな感想が寄せられている。今後は、従来の研修会開催に加えて、サッカーの指導者ライセンスを持つ教員を対象にしたリフレッシュ研修会としても活用していく予定だ。

中山雅雄JFA普及ダイレクターは「ほぼ全ての国民が体育の授業を経験するし、それが運動の好き嫌いに影響する。普及と競技力向上の側面からも学校体育は重要な位置づけになる」と話す



いない子の差が大きい」「男女共習（混合）は難しい」といった声は多く、バスケットボールやハンドボールが選ばれやすい。また、サッカー部の顧問を務める体育教員の場合は、部活動と同じように技術指導をしてしまいがちで、ともすると初心者の生徒が楽しめる状況もある。

中山ダイレクターは「中学校教員は学校体育の目的や目標の達成に重きが置かれているため、必ずしもそのスポーツの楽しさを生徒に経験させようと位置付けていない傾向にある。われわれの願いは、教材としてサッカーを選んでもらい、目的や目標を達成しつつ、生徒たちが『体育の授業でやったサッカーが楽しかった』という気持ちになってもらうこと」と語る。

学校体育を通じてスポーツの楽しさを

サッカーだけが特別に技能習得が難しいのだろうか。中山ダイレクターは「手を使えないこと以外は、プレーにほとんど制限がなく、自由度が高い。足を使ってボールを操作する非日常性、ルールがシンプルで直感的にプレーできる簡便性もある」とし、「サッカーの目的はゲームを楽しむことであり、できるだけシンプルな形でゲームをすることが大事」と続ける。

学校の授業でうまくプレーできず、スポーツを嫌いになる子どもも大勢いる。楽しい授業が増えれば、スポーツ自体の発展にもつながっていくだろう

また、ボールをうまく操作することだけが、球技の楽しさではない。例えば、サッカーはインステップキックが蹴れなくても、守備やサポートで貢献できるケースもある。そうしたプレーを教員が認めてあげられたら、生徒はそれぞれの楽しさを味わうことができる。前述した『中学校体育サッカー指導の教科書』では、上記のポイントを踏まえて、単元計画や評価基準、各時間の授業づくりなど、サッカーの授業の展開案を提案している。

昨年末には、中学校体育サポート研修会を実施した。同研修会には、47都道府県サッカー協会（FA）から推薦されたサッカー指導者の中学校体育教員35人が参加。講義・実技に加えて、デイスカッションなどを行った。

書籍紹介

小学校体育 新・サッカー指導の教科書 (東洋館出版社)

小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導を、イラスト・図解を交えて4段階で分かりやすく解説。全学年のサッカー授業に対応している。

<https://www.toyokan.co.jp/products/3651>

中学校体育 サッカー指導の教科書 (東洋館出版社)

単元計画や評価基準、各時間の授業づくりまでを網羅しているほか、授業を一段と興味深くする多数のオプションメニューを紹介。体育の授業はもちろん、部活動の指導にも活用できる。

<https://www.toyokan.co.jp/products/4531>

中学校部活動サッカー指導の手引き

JFAのサッカー部活動に対する考え、練習計画や構成、その頻度と強度、さらに指導上の留意点、安全面の配慮など、部活動を行う上でのさまざまな内容が盛り込まれている。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/guidance.html

日本サッカーミュージアム 11+

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)
Tel: 050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 12:00～17:00(最終入場16:30)
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人:550円、小中学生:300円、幼児:無料
団体(20名様以上)・障がい者の方:
大人450円、小中学生200円
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL https://www.jfa.jp/football_museum/

※臨時休館をしている場合もございますので、JFA公式サイトで最新の開館情報をご確認の上ご来館ください。



なでしこジャパン、SAMURAI BLUEの熱戦を展示品で紹介

AFC女子アジアカップインド2022のサイン入りユニフォームなどを展示

日本サッカーミュージアムでは現在、AFC女子アジアカップインド2022(1月20日～2月6日)に出場したなでしこジャパン(日本女子代表)のサイン入りユニフォーム、レプリカユニフォーム、ADカード、キャプテンマーク、シューズ、大会記念盾を展示している(1階エントランス)。

惜しくもベスト4で大会を終えたが、9大会連続9回目のFIFA女子ワールドカップ出場権を獲得。2023年にオーストラリアおよびニュージーランドで開催される世界大会に挑む。



※展示終了日は未定。予告なく展示物が変わる場合があります。

SAMURAI BLUE、サイン入りユニフォームやシューズを展示

また、1月と2月に行われたFIFAワールドカップカタール2022アジア最終予選(Road to Qatar)でSAMURAI BLUE(日本代表)が着用したユニフォームなども展示中だ(1階エントランス)。

埼玉スタジアム2002で開催された1月27日の中国戦、2月1日のサウジアラビア戦でのサイン入りユニフォームやキャプテンマーク、選手が着用したサイン入りシューズやゴールキーパーグローブなどが並ぶ。両試合で貴重な得点を挙げた伊東純也選手(KRCヘンク/ベルギー)のユニフォームも目にする事ができる。

※展示終了日は未定。予告なく展示物が変わる場合があります。



Jリーグコーナーに2021シーズンMVPのレアンドロ・ダミアン選手の足型が登場!

地下1階のJリーグコーナーでは、歴代Jリーグ年間最優秀選手賞(MVP)受賞選手の足型(ゴールキーパーは手形)の展示スペースに、2021シーズンの得点王とMVPをダブル受賞した、川崎フロンターレのレアンドロ・ダミアン選手の足型が加わった。

展示されている足型と手形はいずれも実寸大。その大きさと存在感は迫力満点だ。



春季特別営業のお知らせ

日本サッカーミュージアムは、3月26日(土)から4月4日(月)まで春季特別営業となります。期間中は無休で、毎日10:00から17:00(最終入場は16:30)まで開館いたします。

※4月5日(火)より通常営業に戻ります。

※新型コロナウイルスの状況などにより、営業時間が急ぎ変更になる場合がありますので、お越しになる前にJFA.jpをご確認いただけますようお願いいたします。

日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2022年3月1日現在

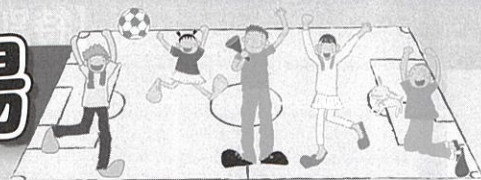
株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
アスカ美装株式会社
カルテック株式会社
キリンビール株式会社
キリンビバレッジ株式会社
KDDI株式会社
広友物産株式会社

株式会社Jリーグ
株式会社ジエブ
株式会社シズオクト
株式会社ジャミング
株式会社スケール
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
株式会社テレビ東京

株式会社電通
株式会社電通ライブ
西鉄旅行株式会社
株式会社野村総合研究所
びあ株式会社
ホテル東京ガーデンパレス
マッシュコーポレーション株式会社

株式会社ムラヤマ
株式会社モルテン
ヤマザキビスケット株式会社

サッカーファミリー広場



Yogibo WEリーグ優勝トロフィー「Women Empowerment Trophy」完成

WEリーグは2月27日、皇后杯JFA第43回全日本サッカー選手権大会の決勝でYogibo WEリーグのトロフィーを初披露した。トロフィーは「Women Empowerment Trophy」と名付けられ、WEリーグの優勝チームに受け継がれていく。

女性の障壁として例えられる「ガラスの天井」。そこから着想を得て作られたトロフィーは、まず、障壁をイメージしたガラスをサッカーボールで壊すことから始まった。壊れた破片は、ガラスの破片を重ね、熱を加えながらねじることで、世界一のリーグを目指すWEリーグの「上昇する力」を表現した。

制作したのは千葉県に本社を置く菅原工芸硝子株式会社で、同社の廃棄ガラスのリサイクル技術を活用したもののだが、実際に手掛けたのはそこに勤めるガラス職人の桑升桃子さんだ。「これから受け継がれていく物を作るというのは初めてで、私自身にとっても大きな挑戦でした」とコメントしている。

世界に一つしかない「Women Empowerment Trophy」。その制作プロセスもWEリーグが目指す「エンパワメント」であり、WEリーグの岡島喜久子チェアも「このトロフィーに込めた私たちの思いをたくさんの方々へ届けたい」と話している。



菅原工芸硝子の職人・桑升桃子さんは「先輩や仲間たちと一緒に、WEリーグの思いをカタチに込めた」とコメント

■優勝トロフィーの制作過程は

WE リーグ公式 YouTube チャンネルで公開中

- 「Yogibo WEリーグ 優勝トロフィー「Women Empowerment Trophy」誕生/ The birth of Women Empowerment Trophy」(2022年2月26日公開)
<https://youtu.be/J1ALDtO1Tsk>
- 「Yogibo WEリーグ 優勝トロフィー「ガラスの天井」を壊す WE LEAGUE trophy breaking "Glass ceiling"」(2021年9月6日公開)
<https://youtu.be/CLIsDanQgKc>



2022シーズンの判定基準「2022 レフェリングスタンダード」の映像を公開

日本サッカー協会(JFA)審判委員会は2022年度もJリーグの協力を得て、選手に求めるプレーや2021シーズンにおける事例に国際サッカー連盟(FIFA)の競技規則に基づく解説を加えた「2022 レフェリングスタンダード」の映像を作成した。

この映像は、Jリーグおよびサッカーに関係する多くの人々が、正しい競技規則の解釈と判定基準の認識を高め、同一の理解を得られるように作成したもの。Jリーグ全クラブおよびメディアをはじめとする関係者に共有される。



【2022 レフェリングスタンダード】

- 0'53～ 選手生命を脅かすようなプレー
- 3'50～ ハンドの反則
- 7'20～ オフサイド
- ベンチマナー
- 決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)

●映像 <https://youtu.be/5Rnwp7s11uY>



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法:
【電話】03-5276-8838
【FAX】廃止
【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TvrV0-Leh64Nomkz4YOCQAYouVhhmW1Vs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link
利用時間: 平日12:00~18:00(土日祝、年末年始等除く)





桶川クイーンズ少女サッカークラブの築根英樹代表（写真中央）と選手の皆さん

人生を豊かにするための 手段としてサッカーがある

グラウンドを 一から手造りで

松田 築根さんが畑を整備して、手造りでグラウンドを整えたと聞きました。

築根 実は以前にも一つグラウンドを造っていて、女子チームのために造ったのが二つ目です。土をならして固めて周りに杭を打ち込んでネットを張り、トイレも設置して、ゴールも持ち込んでラインも引いて……と、全て一から造りました。いずれは天然芝のグラウンドにしたいのですが（笑）。

ここは元々畑だったので、水道が引けないんです。飲み水を確保するために、ダイドーさんに話をし、自動販売機を置いてもらいました。売上が期待できない立地なのですが、クラブの理念を話したら共感してくれて、電線を引く工事も全て請け負ってくれました。ありがたい限りです。近隣の皆さんには事前にあいさつに伺い、グラウンドを造ることを伝えました。幸いにも皆さんに賛同してもらい、中に

日本サッカー協会（JFA）指導普及部グラスルーツ推進グループの松田薫二が、JFAグラスルーツ推進賛同パートナーを訪問して話を聞く「グラスルーツ対談」。前号に続き、埼玉県桶川市を拠点とする桶川クイーンズ少女サッカークラブの築根英樹代表との対談をお送りする。○対談日：2021年10月24日

は「うちから水道を引いてもいいよ」と言ってくれる人もいました。

このグラウンドは、平日は地域に開放しています。お年寄りの方がグラウンドゴルフをやっているようです。私は、普段は会社員として働いていますが、出勤前にグラウンドを見に行くと皆さん楽しんでいる様子が見られます。

松田 クラブづくりにそこまで尽力されたとなると、築根さんとしても続けていく覚悟がいりますね。

築根 本当にそう思います。今のところ、事務手続きや練習試合の手配、チームの指導まで、ほとんど私一人で行っています。他の保護者が「やりますよ」と言ってくれることもあるのですが、それを始めてしまうと当番制があると思って敬遠してしまう人がいたり、子どもが卒業などでやめてしまうと、それに合わせてチームから離れてしまう保護者の方もいるので、自分でできるうちはやろうと思っています。

参加希望のお子さんや保護者がいたとき、まずは「うちは勝ちにくいチームです」と説明します。そ



の子の実力よりも練習への参加率を重視しますし、試合に来たらなるべく全員を出場させるからです。まだ入って間もない子でも、接戦の公式戦に出場させたりしますから。

松田 加入前にチームの方針を説明するのは大事ですね。

築根 そうですね。それに、チー

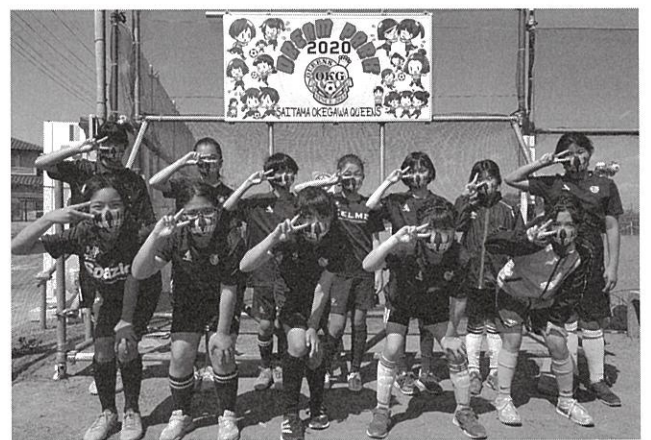
ムを卒業した後もサッカーにこだわる必要はないと思っています。うちの娘は高校生で、サッカーはもうやっていませんが、何か機会があればチームのイベントに顔を出してくれそうです。卒業した後にはテニスに転向して、良い結果を残した子もいます。

このチームの目標は勝つことではなく、楽しむことなんです。楽しんで結果、勝つこともあるでしょう。そして、もちろん負けることもあります。負けたからといって悪いことは何もありません。私も試合中はそんなに大きな声は出しません。選手が楽しむことが第一です。

「親子サッカー」

松田 保護者と子どもがプレーする「親子サッカー」はどういう理由で始めたのですか。

築根 親子サッカーは毎年開催しています。始めたきっかけは、保護者同士の交流がなかったからです。うちは当番制がないので、試合も練習も現地集合、現地解散なのですが、保護者が他の保護者と交流がないと、自分が行けないときに子どもの送迎ができないんです。そこで保護者同士が顔見知りになって連絡を取り合うことがで



きるようになれば、自分が行けないときに他の方をお願いできるだろうなど。

ちなみに、ある子は「うちのお母さん、試合に来ると『ちゃんと走ってない』って言うけど、実際に走るとどれだけ大変なのか知ってほしい!」と言ってますね。確かにそれも一理あるな(笑)。

松田 この先の活動はどのようになっていますか。小中学生のカテゴリがあるようですが、そこからユースなどに広げる予定はあるのでしょうか。

築根 基本的に今の構成のまま活動を続けていくつもりです。高校は、女子サッカー部がある高校

へ進学してもらおうのが一番いいと思っています。このチームを始めたくっかけも、女子サッカー部がある中学校がないことでしたから。広げるとしたら、小学生以下のキッズと、一般女子(成人)ですね。これは最終的に目指したいところです。

うちのチームは学校で他の部活動に入ってもいい。むしろ他の競技や習い事は積極的にやった方がいいと言っています。プライベートで遊びに行くならそれもOK。それによってうちの練習に参加できる子が少なくなったとしても、子どものためになるならその方がいいです。たとえ数人でも、その数人のためにグラウンドを開けてサッカーができる環境を整えることが、

僕がやるべきことだと思っています。学生の自分は勉強ですよ。この年代にサッカーばかりに打ち込んで勉強がおろそかになってしまいうと、サッカーをやめたときに何もなくなってしまう。サッカーで生活ができる人なんてほんの握りで、それが女子ともなればさらにごくわずか。うちのチームの選手たちにはそうなってほしくないんです。

サッカーは人生の一部として重要な役割を持つと思いますが、サッカーが全てになってはいけません。人生を豊かにするための手段としてサッカーがあるのであり、仮にそれがサッカーでなくてもいいのです。子どもたちにはそういう思いを伝えていきたいですね。

■ JFA グラスルーツ推進・賛同パートナー制度



日本サッカー協会(JFA)は、「JFA グラスルーツ推進・賛同パートナー制度」を設けています。これは、「JFA グラスルーツ宣言」に賛同し、賛同パートナーになっていたくことで、グラスルーツサッカーを拡大していくことを目的とした制度です。

同制度は、「引退なし」「補欠ゼロ」「障がい者サッカー」「女子サッカー」「施設の確保」「社会課題への取り組み」という6つのカテゴリーがあり、それぞれのテーマに沿って活動している団体やチームを賛同パートナーとして認定。同賛同パートナーとなった団体やチームの活動を好事例として日本全国に広く紹介することで、グラスルーツサッカーへの理解が深まり、その輪が広がることを期待しています。

日本サッカー協会はこの制度によって、年齢や性差、障がいの有無、国籍などにかかわらず、誰もがレベルや目的に合わせて気軽にサッカーを楽しめる環境を広げていきたいと考えています。

JFA.jp

https://www.jfa.jp/grass_roots/partner/

※情報提供：サカイク (<https://www.sakaiku.jp/>)



JFA ホットスポット

「JFAシニアフェスティバル」の展開

日本サッカー協会 (JFA) 指導普及部
グラスルーツ推進グループ 松田薫二

日本サッカー協会 (JFA) の活動や各委員会、各部の取り組みに焦点を当てた「JFAホットスポット」。第7回は今年1月に千葉県で初開催したJFAシニアフェスティバルについて、指導普及部・グラスルーツ推進グループの松田薫二が紹介する。

青春を共にした仲間と 再びサッカーの楽しさを

今年1月9日、千葉県の高円宮記念JFA夢フィールドで「JFAシニアフェスティバルin千葉」第1回千葉県高校サッカー部OB交流フェスティバル」を開催しました。

JFAは一中期計画2022・2025の重点3領域の一つにシニアを掲げ、「シニアの競技環境の充実」「フェスティバル等各種イベントの企画」などに取り組んでいます。JFAの登録選手数は、第4種 (U-12) が約25万



「とても楽しかった」という声が多く聞かれたシニアフェスティバル。数十年ぶりに一緒にピッチに立つ仲間、対戦チームと共に楽しく汗を流した

人と最多で、その後は高校、大学と進むにつれて減少し、50代では2000人を下回ります。つまり、過去にサッカーをしていた人のほとんどがサッカーをやめてしまうわけです。

受験や就職、転勤、結婚、子育てなどで一度サッカーから離れた人にとって、復帰へのハードルは高いでしょう。しかし、日常的にサッカーをしていなくても年1回ある母校サッカー部の初蹴りには参加する、といった人は意外と多いのです。そうした背景から「非継続者に大きな潜在層があるのではないか」と考えたことが、このフェスティバルを企画したきっかけでした。

目的は、過去にサッカーをされていたシニア年代の皆さんに再びサッカーを楽しんでもらい、生涯スポーツとしてサッカーを楽しむきっかけをつくること。初対面の人たちのコミュニケーションの中に飛び込むのは不安もありますから、仲間からの誘いが有効だと考え、今回は、帰属意識が強いと思われる高校サッカー部のOB・OGを対象にしました。井上龍彦シニア委員長をはじめとする千葉県サッカー協会シニア委員会に実施要項の作成、準備、当日運営まで行っていたこと、本企画を実現させることができました。

真剣さも笑顔溢れる一日に 今後は全国に展開したい

当日は千葉県内の高校サッカー部出身のO-40 (40歳以上)、O-50 (50歳以上)、O-60 (60歳以上) の3カテゴリーで各8チームが参加しました (合同チーム含む)。ハーフコートのピッチで、8人制、交代も自由、1試合20分 (10分ハーフ) で実施しました。

参加した約400人のうち、現在サッカーをしていない人は約100人でした。皆さんが安心してプレーできるようスライディングタックル、ショルダーチャージなど危険なプレーは禁止とし、お

互いけがに注意すること、リスペクトの気持ちを持って参加することを心掛けていただきました。

各カテゴリーで2グループに分かれて1回戦総当たりのリーグ戦を行った後、それぞれのグループの同じ順位同士で順位決定戦を実施し、各カテゴリーの上位3チームに楯と賞状を授与しました。表彰式のプレゼンターを務めたJFAシニアサッカーアンバサダーの金田喜稔さんも飛び入りで試合に参加していました。

好天にも恵まれ、皆さん、サッカーを満喫されていたように思います。ただ、勝利への執念は年齢を経ても変わらないようです (笑)。高校時代に敗れた相手に勝利して喜んだり、負けた悔しさはありつつも、全力でサッカーができることに清々しさを感じられていたりとさまざまでした。アンケートでは、8人制であること、試合時間、試合数などもおおむね好評で、94%の方が開催の継続を希望されていました。参加理由は「OBチームだから」が約7割で最も多く、「久々に仲間会いたかった」も約3割と、出身サッカー部への愛着度というものを今回のフェスティバルを通して再認識することができました。

JFAとしては、今回を一つの

事例として、各都道府県サッカー協会でもシニア年代を対象としたフェスティバルなどを開催していただけたらと思っています。千葉県と同じ方法で実施する必要はなく、それぞれの実情や地域性に応じて参加条件や大会形式なども工夫していただくのが理想です。シニアを対象とした事業に関心のある都道府県協会と協働して、多くの地域に広げていきたいと考えています。

登録していない、あるいは、サッカーをする習慣がないといった人もいましたが、今回のフェスティバルを通じてサッカーを楽しみたいと思われている人が多くいることを実感しました。シニア年代の環境を充実させ、サッカーファミリーの皆さんに生涯を通してサッカーに親んでもらえるような取り組みを展開していきたいです。

■JFAシニアフェスティバルin千葉

【開催概要】

- ・選手数：1チーム12人以上 (※JFA登録は不要)
- ・ピッチの大きさ：ハーフコート
- ・試合方式：8人制、交代自由
- ・試合時間：20分 (10分ハーフ)、ハーフタイム5分
- ・試合球：O-40・O-50は5号球、O-60は軽量5号球

【主な参加条件】

- ・ (原則として) サッカー部OB/OGによるチーム編成
- ・ 女性は年齢問わず
- ・ 可能であれば出身校のユニフォームを着用
- ・ 日常的にプレーしていない人も誘って参加すること

日本サッカー協会（JFA）および各リーグ・連盟等のリリース情報、活動内容を報告します。

日本サッカー協会

『中学校体育 サッカー指導の教科書』を刊行

JFAは『中学校体育 サッカー指導の教科書』を刊行し、1月14日より全国の書店・オンライン書店などで販売を開始した。

同書は、JFA技術委員会普及部が「学校体育サポート」の一環として発行したもので、中学校の保健体育教員を対象とし、単元計画や評価基準、各時間の授業づくりまでを網羅している。学校の体育は、ほぼ全ての国民が履修するもので、子どもたちの健康と日本のスポーツを支える重要な力を持っている。サッカー、スポーツの発展のため、JFAでは、体育やサッカーの授業を苦手とする教員を対象に2014年に小学校版のサッカー指導の教科書を刊行し、小学校体育サポート研修会を開催してきた。今回の『中学校体育 サッカー指導の教科書』発行を機に、中学校体育にもこの活動を広げていく。※30ページに関連記事あり

【中学校体育 サッカー指導の教科書 概要】

著者：公益財団法人日本サッカー協会
発行日：2021年12月25日
販売日：2022年1月14日
価格：定価2,310円（本体価格2,100円）
発行：株式会社東洋館出版社
<https://www.toyokan.co.jp/products/4531>



●本書の構成

- 第1章 サッカー授業の前に知っておきたいこと
- ・サッカーの魅力や特性
 - ・JFAが提案する指導における基本的考え方

第2章 実践 中学校におけるサッカーの授業

- ・JFAが提案する具体的指導内容とその展開
- ・サッカー授業の基本的な考え方
- ・各学年の単元計画／評価規準／展開例／学習カード例
- ・サッカー指導をより充実させるオプションプラン

第3章 教材としてのサッカーの活用

- ・教材としてのサッカーの活用（中学校3年生を対象に）
- ・サッカーの単元を学習するなかで知識とは

●趣旨

「体育の授業でやったサッカーが楽しかった」

サッカーやスポーツの普及、発展を目指すJFAとしての思いはここにある。体育の授業には、学校教育としての目的や目標があり、教材としてのサッカーとなったときに必ずしも楽しさだけを体験させる位置付けではない。それも理解した上でJFAは、体育におけるサッカーの授業の展開方法を提案した。サッカーが専門でない体育の教員を念頭に作成。JFAは、選手の育成、指導者養成、世界で戦う日本代表チームの強化、さらには生涯にわたって誰もがいつでも安心、安全にサッカーを楽しむための環境づくりなど、さまざまな取り組みを行ってきた。サッカー上達のための学習課題や指導者から選手への効果的な働きかけなどは体育授業での教授法とも連動する。

学習指導要領に示されている指導内容について、サッカーの本質に触れ、サッカーの楽しさを多くの人に経験してほしいとの思いを込めて、中学校体育の枠組みや条件に沿う形で、「何を」「どのように」指導するか、一つの提案として本書で提示している。

第4種(U-12年代)登録チームのJFA選手登録を無料化

JFAは2022年より、第4種(U-12)チームに所属するサッカーおよびフットサル選手のJFA登録を無料化する。2月14日6時から開始する登録申請から適用され、これまで700円だった第4種年代のサッカー選手のJFA登録料と、同じく500円だった第4種フットサル選手のJFA登録料は無料となる（JFAチーム登録料、47都道府県サッカー協会などの登録料は対象外）。

JFAは「JFA2005年宣言」に掲げる「JFAの約束2050」の中で「サッカーファミリーが1000万人になる」ことを明記している。その約束を果たすための具体的な施策として、現在、登録者やサッカーファミリー一人一人とのつながりを創出し、フットボールの魅力を感じてもらい取り組みとして「登録制度改革」と「メンバーシップ制度の導入」を柱に据えて改革を進めている。

第4種年代の選手のJFA登録の無料化は、その改革の第一歩となるもの。子どもたちに門戸を広げてサッカー／フットサルの普及・振興を図るとともに、子どもたちがサッカー／フットサルに親しむ中で、心身の健康と豊かな人間性・社会性を身につけることを目的に導入する。

少子高齢化や情報化が進展する現代社会において、スポーツはますます重要なものになっていくとJFAは考えている。中でも未就学年代や小学生年代はスポーツと初めて出会う大切な時期であり、この時期にスポーツの楽しさや価値を伝えることは、子どもたちの心身の健全な発達はもちろん、アスリートとしての成長や豊かな人間形成に大きく影響する。

登録改革の検討を進める中で、第4種年代のチームに多くの未登録の選手が存在するなどの実情が明らかになった。登録制度は、登録者がフットボールを支え合う考えに基づいており、登録料は大会に出場するための参加費ではなく、フットボールの普及活動や選手育成、指導者・審判員の養成、施設整備、フェアプレーやリスペクトの啓発活動などさまざまな活動に生かされている。また、今回の改定の対象外となる47FAの登録料も含め、その考え方は変わらない。

JFAは、第4種の登録を促進する一方で、子どもたちが年齢や成長に合った指導が受けられるよう、キッズリーダークラス、D級コーチ、A級コーチU-12などの指導者養成を推し進めるとともに、キッズフェスティバルやスモールサイドゲームの推進、校庭の芝生化、JFAセーフガーディングポリシーの周知徹底を図るなど、子どもたちが安全に、安心して、サッカー／フットサルに打ち込める環境を広げていく。そして、メンバーシップの在り方を広くサッカーファミリーに理解してもらいながら、サッカーファミリー一人一人とつながるIT基盤システムを構築し、有益な情報やサービスを提供し、サッカーファミリーの充実したサッカーライフをサポートしていく。

【第4種年代のサッカーおよびフットサル選手のJFA登録無料化】

1. 第4種サッカー選手を対象としたJFA登録料の改定
改定前：700円 → 改定後：0円

JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

- 第4種フットサル選手を対象としたJFA登録料の改定
改定前：500円 → 改定後：0円
- 本改定の適用開始日時

2022年2月14日(月)6:00からの登録より適用
※JFAチーム登録料、47FAなどの登録料は本改定の対象外

2022年のJFA指導者養成、JFAアカデミーコーチングスタッフの体制について

2022年のJFA指導者養成、JFAアカデミーコーチングスタッフの体制が決定した(2月1日発表)。JFAユースディベロップメント/JFAコーチの体制については28~29ページ参照。

■2022指導者養成体制

ダイレクター	サブダイレクター	サブダイレクター
西川誠太 (S)	川俣則幸 (S)	木村康彦 (S)
JFA	JFA	JFA

★新任 ☆代表兼務 ()内は保有コーチライセンス

S級	★浮嶋敏 (S)	★奥野俊佑 (S)	西川誠太 (S)	内山篤 (S)	影山雅永 (AFC-Pro)	
	JFA	JFA	JFA	JFA	JFA	
A級ジェネラル	手倉森浩 (S)	鈴木貴浩 (S)	西川誠太 (S)	★三浦佑介 (S)	影山雅永 (AFC-Pro)	★本吉剛 (S)
	JFA	JFA	JFA	JFA	JFA	四国学院大学/JFA
	越田剛史 (S)	望月聡 (S)	星原隆昭 (S)	大畑開 (S取得見込)	☆雷控剛一 (S)	城和憲 (S取得見込)
	北陸大学	びわこ成蹊スポーツ大学	JFA	JFA	JFA	JFA
A級U-15	山口隆文 (S)	鈴木貴浩 (S)	池内豊 (S)	大畑開 (S取得見込)		
	JFA (JFAアカデミー福島)	JFA	JFA (JFAアカデミー福島)	JFA		
A級U-12	宮川真一 (S)	手倉森浩 (S)	星原隆昭 (S)	矢野隼人 (S)		
	JFA (JFAアカデミー熊本宇城)	JFA	JFA	刈谷JY		
B級 JFA/JPFA/女性コース	西川誠太 (S)	手倉森浩 (S)	木村康彦 (S)	★三浦佑介 (S)	鈴木貴浩 (S)	大畑開 (S取得見込)
	JFA	JFA	JFA	JFA	JFA	JFA
	星原隆昭 (S)	加藤賢二 (A)	城和憲 (S取得見込)	★本吉剛 (S)	横道玲香 (A-pro取得見込)	金野結子 (A-pro取得見込)
	JFA/セレッソ大阪	JFA (JFAアカデミー堺)	JFA	四国学院大学/JFA	広島経済大学	JFA (JFAアカデミー福島)
GKインストラクター	三輪由衣 (A-pro取得見込)					
	帝塚山学院大学					
	加藤好男 (S/GK-L3)	川俣則幸 (S/GK-L3)	尾形行亮 (B/GK-L3)	阿部勝弘 (A取得見込/GK-L3)	斎藤武志 (A取得見込/GK-L3)	小山健二 (B/GK-L3)
	JFA	JFA	美咲市立中央小学校	北海道コンサドーレ札幌	モンテディオ山形	横浜FC
	楠本晃義 (A/GK-L3)	岡本理生 (B/GK-L3)	佐々木理 (A/GK-A取得見込)	佐野智之 (A/GK-L3)	中村考宏 (B/GK-L3)	吉田明博 (S/GK-L3)
	LIALL GK ACADEMY	北陸高校	名古屋グランパス	ガンバ大阪	甘日市FC	高松大学
加藤竜二 (S/GK-A取得見込)	☆西入俊浩 (A/GK-L3)	監物政希 (A/GK-L3)	真子秀徳 (B/GK-L2)	大田康雄 (B/GK-L3)	大橋昭好 (S/GK-A取得見込)	
JFA (JFAアカデミー福島)	JFA	JFA (JFAアカデミー今治)	ファジアーノ岡山	愛媛FC	JFA	
末廣亮介 (B/GK-L3)	飛石孝行 (B/GK-L3)	★☆井嶋正樹 (A取得見込/GK-L3)	☆下田崇 (A/GK-L3)	☆高橋範夫 (A/GK-A取得見込)	☆浜野征哉 (A/GK-A取得見込)	
ヴィッセル神戸	V・ファーレン長崎	JFA	JFA	JFA	JFA	
A-Pro	小野剛 (S)	眞藤邦彦 (S)	川俣則幸 (S/GK-L3)	菅野淳 (A/AFC Fit-L2)		
	JFA	JFA	JFA	JFA		

■2022年度 JFAアカデミー コーチングスタッフ体制

★新任 ☆代表兼務 ◎JFAコーチ兼務 ()内は保有コーチライセンス

	福島		熊本宇城
	男子/静岡 (WEST)	男子/福島 (EAST)	男子
チーフコーチ	古賀琢磨 (S)	池内豊 (S)	塚田雄二 (S)
コーチ	☆船越優蔵 (S)	松岡仁司 (A)	◎宮川真一 (S)
	津田恵太 (UEFA-A)	佐藤令治 (B)	藤山卓 (A)
	安部一雄 (S)		
	☆廣山望 (S)		
	◎西脇徹也 (A)		

	福島		熊本宇城
	男子/静岡 (WEST)	男子/福島 (EAST)	男子
GKコーチ	山岸範宏 (A取得見込/GK-L1)	阿部陽輔 (A/GK-L2)	◎墨屋孝 (A/GK-L3)
	高原寿康 (B/GK-L3)		
統括ダイレクター	大橋浩司 (S)		

	福島	堺	今治
	女子	女子	女子
チーフコーチ	山口隆文 (S)	◎加藤賢二 (A)	大野真 (S)
コーチ	◎金野結子 (A-pro取得見込)	込山友 (B)	◎木村リエ (AFC-Pro)
	須藤啓太 (B)	武末彩子 (A取得見込)	植村公亮 (B/GK-L1)
	保坂太雅 (C)		
GKコーチ	◎加藤竜二 (S/GK-A取得見込)	◎榑引実 (B/GK-L3)	◎監物政希 (A/GK-L3)
統括ダイレクター	山口隆文 (S)		

U-21日本代表

AFC U23アジアカップウズベキスタン2022の組み合わせが決定

2月17日、ウズベキスタンのタシケントで6月に開催される「AFC U23 アジアカップウズベキスタン2022」の組み合わせ抽選会が行われ、日本はグループDに入り、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、タジキスタンと同組となった。

【グループステージ組み合わせ】

グループA A1:ウズベキスタン、A2:イラン、A3:カタール、A4:トルクメニスタン

グループB B1:オーストラリア、B2:ヨルダン、B3:イラク、B4:クウェート

グループC C1:韓国、C2:タイ、C3:ベトナム、C4:マレーシア

グループD D1:サウジアラビア、D2:アラブ首長国連邦、D3:日本、D4:タジキスタン

【マッチスケジュール】

●グループステージ (日本のみ)

・第1戦 対 アラブ首長国連邦

6月3日(金) 日本時間 22:00/現地 18:00 (Pakhtakor Stadium)

・第2戦 対 サウジアラビア

6月6日(月) 日本時間 22:00/現地 18:00 (Pakhtakor Stadium)

・第3戦 対 タジキスタン

6月9日(木) 日本時間 22:00/現地 18:00 (Bunyodkor Stadium)

●ノックアウトステージ

・準々決勝

6月12日(日) 日本時間22:00/現地18:00 (Pakhtakor Stadium)

※グループ2位の場合

日本時間25:00/現地21:00 (Lokomotiv Stadium)

※グループ1位の場合

・準決勝

6月15日(水) 日本時間22:00/現地18:00 (Pakhtakor Stadium)

※グループ1位の場合

日本時間25:00/現地21:00 (Bunyodkor Stadium)

※グループ2位の場合

・3位決定戦

6月18日(土) 日本時間22:00/現地18:00 (Pakhtakor Stadium)

・決勝

6月19日(日) 日本時間22:00/現地18:00 (Bunyodkor Stadium)

高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ

2022シーズンのリーグ概要

高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2022が4月2日(土)、3日(日)に開幕する。

本大会は、日本サッカーの将来を担う18歳以下の選手の技術向上と健全な心身の育成を図ることを目的に1990年度から始まった。2011年からノックアウト方式から現在の約7カ月にわたるリーグ形式の「プレミアリーグ」へと移行(2020年はコロナ禍により中止)。

今シーズンは4月2日(土)~12月4日(日)の8カ月間にわたって行わ

れる。今大会からチーム数をEAST / WEST各10チームから各12チームに増やし、新たなステージへ変革する。なお、EAST / WESTリーグの優勝チームが真の日本一を懸けて対戦する「高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2022ファイナル」は12月中旬(会場未定)に開催。プレミアリーグ昇格を決める「高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2022プレーオフ」は12月9日(金)・11日(日)に広島で開催する予定だ。

※その他詳細はJFA公式ウェブサイト参照

JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)

FUJIFILM SUPER CUP 2022 海外放映

Jリーグは、下記の海外放送局・プラットフォームでFUJIFILM SUPER CUP 2022を放映することについて合意・決定した(2月9日発表)。

放映対象は、前回大会に引き続きタイ、マカオ、香港や中東・北アフリカ諸国、また、今大会はインド、パキスタンなどのインド亜大陸7カ国やイタリア、ブラジルが加わり、計36の国・地域となった。タイは、SIAMSPORTのYouTubeチャンネルでの配信に加え、地上波無料TV局であるPPTVで放映。タイの最大手通信事業者AISグループの運営する配信サービスAIS PLAYでも配信された。また、全世界(日本を除く)に向け、Jリーグ公式インターナショナル版YouTubeにおいても生配信した。

【FUJIFILM SUPER CUP 2022放映国・地域】

※()内は放送局・プラットフォーム

・タイ(SIAMSPORT, PPTV, AIS PLAY)

- ・アルジェリア、バーレーン、チャド、コモロ諸島、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、ソマリア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン(Dubai Sports)
- ・インド、ブータン、バングラデシュ、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカ(Fancode)
- ・マカオ(TDM)
- ・香港(i-Cable)
- ・イタリア、ブラジル(OneFootball)
- ・全世界(日本を除く)(Jリーグ公式インターナショナル版YouTubeチャンネル)

2022明治安田生命Jリーグ~海外放映決定およびタイでのプロモーション施策

Jリーグは下記の海外放送局・プラットフォームで2022明治安田生命Jリーグを放映することについて合意・決定した(2月17日発表)。

2022シーズンは、新たにSPOTVとマレーシア、ブルネイ、インドネシア、シンガポールでの放映について合意・決定し、昨シーズン、イタリアで放映していたOneFootballとはブラジルでの放映についても追加で合意・決定。また、Jリーグへの関心度が急速に高まっており、主要市場としても位置付けているタイにおいてはプロモーション施策を首都・バンコクでシーズンを通じて行う予定。

【2022明治安田生命Jリーグ放映国・地域】

国・地域	放送局・プラットフォーム	対象大会
中国	K-BALL	明治安田生命J1リーグ 明治安田生命J2リーグ
香港	i-Cable	明治安田生命J1リーグ 明治安田生命J2リーグ
マカオ	TDM	明治安田生命J1リーグ
マレーシア、ブルネイ	SPOTV/Astro	明治安田生命J1リーグ
インドネシア	SPOTV/MNC, K-Vision	明治安田生命J1リーグ
シンガポール	SPOTV/Starhub, Singtel	明治安田生命J1リーグ
オーストラリア	OPTUS	明治安田生命J1リーグ
イギリス、アイルランド	Premier Sports	明治安田生命J1リーグ
イスラエル	Sport5	明治安田生命J1リーグ
タイ	SIAMSPORT	明治安田生命J1リーグ
ドイツ、スイス、オーストリア	Sportdigital	明治安田生命J1リーグ
セルビア、モンテネグロ、スロベニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、北マケドニア(計6カ国)	SportKlub	明治安田生命J1リーグ
アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、ジョージア、カザフスタン、キルギス、モルドバ、ロシア、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン(計11カ国)	TSG	明治安田生命J1リーグ

国・地域	放送局・プラットフォーム	対象大会
アルジェリア、バーレーン、チャド、コモロ諸島、ジブチ、エジプト、イラン、イラク、ヨルダン、クウェート、レバノン、リビア、モーリタニア、モロッコ、オマーン、パレスチナ、カタール、サウジアラビア、ソマリア、スーダン、シリア、チュニジア、アラブ首長国連邦、イエメン(計24カ国)	Dubai Sports	明治安田生命J1リーグ
イタリア、ブラジル	OneFootball	明治安田生命J1リーグ
日本除く全世界(ニュース権)	SNTV	明治安田生命J1リーグ *ニュース配信のみ

※2022年2月17日時点。下線は2022シーズンからの新規追加

【タイ(バンコク)でのプロモーション施策】

●J. LEAGUE eTuk Tuk (Jリーグ eトゥクトゥク)

J1全18 クラブカラーにラッピングした「eTukTuk(タイの伝統的な電動三輪車)」がバンコク市内を走る。インフルエンサー等にも乗車してもらいSNS投稿を通じて情報を発信し、話題性創出を図る。

●J. LEAGUE THE ROOM BANGKOK

バンコク市内に、ポップアップ型のJリーグショールームを設置し、Jリーグ関連グッズ、写真などを展示。タイ現地のファン・サポーター、インフルエンサー等が集まれるコミュニティを醸成し、SNSを通じての拡散も狙う。

●J. LEAGUE WATCH PARTY

バンコク市内で、現地ファンが集まってJリーグの試合観戦「WATCH PARTY」をできる場を創出。年間を通じて、キーとなるモーメントでの試合を現地のファン・サポーター、メディア、インフルエンサー等が集まって観戦予定。

※全ての施策は現地の新型コロナウイルス感染状況に配慮し実施。詳細はJリーグ公式タイ語版Facebook ページ等にて告知予定。

2022J1参入プレーオフ決定戦の大会方式および試合方式

Jリーグは2022 J1参入プレーオフ決定戦の大会方式および試合方式を下記の通り決定した(2月16日発表)。

【J1参入プレーオフ 大会方式・試合方式】

●開催日程: 1回戦10月30日(日)、2回戦11月6日(日)、決定戦11月13日(日)

●大会方式:

< J2参加クラブ数4の場合 >

各1試合のトーナメント方式にて、明治安田生命J2リーグ年間順位3位~6位のクラブで1回戦、2回戦を行い(3位vs6位、4位vs5位)、その勝者と明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブが決定戦を行う。

<J2参加クラブ数3以下の場合>

各1試合のトーナメント方式にて、明治安田生命J2リーグ年間順位3位～6位のクラブのうち、出場資格を満たしたクラブで、1回戦、2回戦を行い（J2参加クラブ数3の場合、J2下位2クラブで1回戦を行い、その勝者とJ2上位1クラブで2回戦を行う）、その勝者と明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブが決定戦を行う。

●試合会場：1回戦、2回戦ともにJ2リーグ戦上位クラブのホーム、決定戦はJ1クラブのホームで行う。

●試合方式および勝敗の決定：

<1回戦、2回戦>

90分間（前後半各45分）の試合を行い、勝敗が決しない場合は、年間順位の優位性を確保するため、J2リーグ戦年間順位が上位のクラブを勝者とする。

<決定戦>

90分間（前後半各45分）の試合を行い、勝敗が決しない場合は、明治安田生命J1リーグ年間順位16位のクラブを勝者とする。決定戦の勝者は、2023シーズンにJ1リーグに残留または昇格する。

※その他詳細はJリーグ公式サイトを参照（掲載情報は発表時点）

WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)

2021-2022年第8回理事会を開催

WEリーグは2022年2月24日に第8回理事会を開催した。詳細はWEリーグ公式ウェブサイト参照。

【第8回理事会 報告事項】

●WEリーグ新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン
新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを更新した。

【主な更新ポイント】

- ・濃厚接触者の隔離期間がオミクロン株主流の地域においては10日から7日へ短縮
- ・制限付きの試合開催（プロトコル7）の運用
→これまでの「厳戒体制」「超厳戒体制」の名称は使用しない
- ・試合に関するオペレーション（プロトコル7）
→運営、中継等についてJリーグと同様の更新
※感染症対策としての飲水タイムの運用は中止
→メディア対応はWEB会見を継続
※Jリーグは対面式会見へ変更

●WE MEETING

各クラブとチェアが行うWE MEETINGを2月中旬からオンラインで実施した。

【第二回WE MEETING概要】

時間：1時間（オンライン形式）／選手：全員参加／スタッフ：1名はファシリテーター

1. WEリーグから（15分）

- (1)岡島喜久子チェア「前半戦を終えて」
- (2)各クラブの理念推進活動
- (3)WEリーグの現状（WEリーグの取り組み、集客、認知度）

2. ブレークアウトルーム（3部屋に分かれて実施）

- 岡島チェアの部屋
「WEリーグを盛り上げるには 選手の視点で考えてみよう」
- 理念推進の部屋（小林美由紀 理念推進担当）
「WEリーガーになって何が変わったか、何を変えたか、変わろうとしたか」
- クラブとして理念推進 WE ACTION DAY について（クラブ担当者）
「WE ACTION MEETINGで出した課題について」※理念推進に関するトピック（クラブ任意）

3. 感想 各クラブ選手代表者より

●監督フォーラム開催

【開催概要】

第2回WEリーグ監督フォーラム～世界一のリーグを目指して
2月21日（月）13時～15時（オンライン形式）

<アジェンダ>

1. WEリーグ初年度前半を戦っての各監督からの所感
2. フットボールのトレンド（INSTATのデータをもとに）WEリーグの特徴
3. フィジカルフィットネスプロジェクトからの提案
4. 世界一のリーグを目指してディスカッション&提言

<参加者>

- ・小笠原唯志 AC長野パルセイロ・レディース監督
- ・岡本武行 大宮アルディージャ VENTUS監督
- ・北野誠 ノジマステラ神奈川相模原監督
- ・楠瀬直木 三菱重工浦和レディス監督
- ・猿澤真治 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース監督
- ・竹本一彦 日テレ・東京ヴェルディベレーザ監督
- ・半田悦子 ちふれASエルフェン埼玉監督
- ・星川敬 INAC神戸レオネッサ監督
- ・村松大介 アルビレックス新潟レディース監督
- ・小野剛 WEリーグテクニカルアドバイザー・JFA技術副委員長
- ・菅野淳 JFAフィジカル・フィットネスプロジェクトリーダー
- ・佐々木則夫 JFA女子委員長
- ・今井純子 JFA副女子委員長
- ・小林美由紀 WEリーグ理事・理念推進部長

●第3回WE ACTION MEETING開催

【開催概要】

2月22日（火）15：30～17：30（オンライン形式）

参加者：44名（WEクラブ17名、パートナー16名（7社）、メディア5名、WEリーグ3名、登壇者3名）※女性30名、男性14名

- ・オープニング、自己紹介
- ・海外の事例紹介
- ・宿題（解決案）発表～クラブ11、パートナー7（18個の解決案を発表）
- ・すぐに解けそうな課題を探して投稿
- ・「理想のスタジアムを実現するために」グループに分かれてディスカッション
- ・クロージング

2021-22 Yogibo WEリーグ

4月23日(土)に味の素スタジアムでJリーグとWEリーグ初の共催が決定

2021-22 Yogibo WEリーグの第18節日テレ・東京ヴェルディベレーザ対ジェフユナイテッド市原・千葉レディースの試合日時と会場が、4月23日（土）18時および味の素スタジアムに決定した。同日同会場では14

時から2022明治安田生命J2リーグ第11節東京ヴェルディ対ジェフユナイテッド市原・千葉の開催が決定しており、同試合はJリーグとWEリーグ初の共催となる。



公益財団法人日本サッカー協会 2022年度第2回理事会

公式URL <https://www.jfa.jp/>

日本サッカー協会（JFA）は2022年2月10日、2022年度第2回理事会をオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|----------------------------------|--|
| 1 評議員推薦加盟団体規則 改正 …………… P26 | 3 プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則等の改正 …… P27 |
| 2 懲罰規程および司法機関組織運営規則 改正 …………… P26 | 4 日本サッカー後援会 会員表彰 …………… P27 |

評議員推薦加盟団体規則 改正

1月29日に開催された臨時評議員会において、新たに下記の団体を評議員推薦加盟団体とすることが承認された。それに伴い、関連規則である評議員推薦加盟団体規則を改正する。

【新たに評議員推薦加盟団体に追加された団体】

※1月臨時評議員会にて承認済

- 一般財団法人日本ビーチサッカー連盟
- 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
- 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
- 特定非営利活動法人日本サッカー指導者協会

【改正する規則】

評議員推薦加盟団体規則

（改正前）

第2条 本協会は、評議員候補者を評議員会に推薦できる団体（以下、評議員推薦加盟団体という。）として、次の団体を認める。

- (1) 都道府県サッカー協会（計47）
- (2) 公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下、「Jリーグ」という。）
- (3) Jリーグ所属クラブ（評議員を選任する定時評議員会の開催時において、J1リーグに所属するクラブ。計18）
- (4) 一般社団法人日本フットボールリーグ
- (5) 一般社団法人日本女子サッカーリーグ
- (6) 一般財団法人日本フットサル連盟
- (7) 一般財団法人全日本大学サッカー連盟
- (8) 一般財団法人全国社会人サッカー連盟

- (9) 公益財団法人全国高等学校体育連盟
- (10) 一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟
- (11) 公益財団法人日本中学校体育連盟
- (12) 一般社団法人日本プロサッカー選手会

（改正後）

第2条 本協会は、評議員候補者を評議員会に推薦できる団体（以下、評議員推薦加盟団体という。）として、次の団体を認める。

- (1) 都道府県サッカー協会（計47）
- (2) 公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下、「Jリーグ」という。）
- (3) Jリーグ所属クラブ（評議員を選任する定時評議員会の開催時において、J1リーグに所属するクラブ。計18）
- (4) 一般社団法人日本フットボールリーグ
- (5) 一般社団法人日本女子サッカーリーグ
- (6) 一般財団法人日本フットサル連盟
- (7) 一般財団法人全日本大学サッカー連盟
- (8) 一般財団法人全国社会人サッカー連盟
- (9) 公益財団法人全国高等学校体育連盟
- (10) 一般財団法人日本クラブユースサッカー連盟
- (11) 公益財団法人日本中学校体育連盟
- (12) 一般社団法人日本プロサッカー選手会
- (13) 一般財団法人日本ビーチサッカー連盟
- (14) 公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ
- (15) 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
- (16) 特定非営利活動法人日本サッカー指導者協会

懲罰規程および司法機関組織運営規則 改正

懲罰規程および司法機関組織運営規則を改正する。改正の主なポイントは下記の通り。

- (1) 出場資格の無い選手の出場に対する懲罰（該当箇所：懲罰規程3-3）
出場資格の無い選手が試合に出場した場合の懲罰に関する規定について、表現を明確化し、違反の該当性の判断と懲罰の適用につき安定性を確保する。
- (2) 不服申立可能な懲罰に関する規定（該当箇所：懲罰規程第36条）
不服申立可能な懲罰に関する規定に関して、現行では、不服申立可能な懲罰を列挙する形式の規定となっているが、FIFA等の規程を踏まえ、これを

不服申立不可となる懲罰を列挙する形へと変更する。

- (3) 選手の登録や契約等に関するルールの違反に関する所管機関を明確化（該当箇所：懲罰規程第14条第2項、司法機関組織運営規則第3条等）
選手の登録や契約等に関する各種規則への違反については規律委員会が所管することを明確化する。
- (4) JFA主催試合における懲罰問題への対応（該当箇所：懲罰規程第16条第2項）
天皇杯等のJFA主催試合（名義主催は除く）における懲罰問題に関しては、現状、各大会で大会規律委員会を設置し対応しているが、これらについて、大会の判断により、JFA規律委員会が直接管轄することができるようにす

左ページ左上へ続く

る(別添資料参照)。

(5) 弁明の機会の付与(該当箇所:懲罰規程第20条)

適正手続きの観点から、懲罰手続きにおいては被処分者に意見を述べる機会を与えられなければならない。この点が現行規程では「事情聴取」として調査機関側を主体とする手続きとして定められているため、これを是正し、より被処分者の権利保護に主眼を置いた「弁明の機会の付与」という手続きに変更する。また、同時に、対面による聴取を原則とする現行規定を変更し、FIFA規則等と同様に、書面による弁明も許容とする。

(6) 時効の設定(該当箇所:懲罰規程第23条の3)

現行規程では、時効(公訴時効)の定めがないが、時間の経過によって処罰の必要性も薄まることや証拠の散逸により調査が困難になること等を踏まえ、FIFA規則に倣い、時効を設定する。競技及び競技会に関する違反行為は

原則2年、その他の事案は原則5年、重大事案(八百長や汚職等)は10年と定める。

(7) 「サッカー関連活動」の定義(該当箇所:懲罰規程(参考資料2))

「サッカー関連活動の停止・禁止」の懲罰を科す場合に、禁止される活動の範囲がしばしば問題となることから、AFC規則等も参考にしつつ、これに含まれる活動を指針として示す。

(8) チーム又は選手等によるその他の違反行為(該当箇所:懲罰規程3-7)

現行規定では、本条項の適用に当たって「JFA規律委員長の事前承認」を要件としているが、この要件を廃止するもの。

(9) その他

その他、各種表現や手続きの適正化に伴い、修正する。

プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則等の改正

各種規則(プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則 他7規則)について、表現等の適正化、誤植の訂正、実際の運用や手続きの反映等のための改正を行う。

【対象となる規則】

- (1) プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則(以下「プロサッカー選手規則」)
- (2) 女子プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則
- (3) プロフットサル選手の契約、登録および移籍に関する規則
- (4) サッカー選手の登録と移籍等に関する規則(以下「サッカー選手規則」)
- (5) フットサル選手の登録と移籍等に関する規則
- (6) ユニフォーム規程
- (7) 和解あっせんに関する規則
- (8) 仲介人に関する規則

【主な改正点】

- イ 時限措置条項の期間終了に伴う削除(プロサッカー選手規則2-1⑤他)
- ロ 電子契約への対応(プロサッカー選手規則1-2①、サッカー選手規則第6条他)
- ハ 実際の運用や手続きに合わせた文言修正
(プロサッカー選手規則1-6③(3)、1-2②⑤他、和解あっせんに関する規則第6条他)
- ニ 各種登録申請時における必要書類の変更(プロサッカー選手規則5-1①②他)
- ホ 各種申請料の明示(サッカー選手規則第15条、ユニフォーム規程第6条第2項)
- ヘ 条文番号のズレの訂正(仲介人に関する規則第5条)
- ト その他各種の表現の適正化

日本サッカー後援会 会員表彰

1977年の一般財団法人日本サッカー後援会の発足以降、同団体から日本代表強化等のために毎年交付金をいただいております。その累計は約18億円に上る。ついでには、日本サッカー後援会会員の長年の援助に対する感謝として、下記の通り表彰する。

(1) 日本サッカー後援会会員在籍30年表彰

- ① 対象: 日本サッカー後援会会員として30年在籍した方
- ② 贈呈品: 2022年中に日本代表戦1試合ご招待および記念楯
- ③ 被表彰者: 40名
- ④ 備考: 2008年度より表彰実施

※過去実績(直近10年): 2021年21名、2020年26名、2019年28名、2018年16名、2017年20名、2016年16名、2015年13名、2014年23名、2013年12名、2012年12名

(2) 日本サッカー後援会会員在籍40年表彰

- ① 対象: 日本サッカー後援会会員として40年在籍した方
- ② 贈呈品: 2022年中に日本代表戦1試合ご招待および記念楯
- ③ 被表彰者: 8名
- ④ 備考: 2016年度より表彰実施

※過去実績: 2021年13名、2020年13名、2019年35名、2018年29名、2017年なし、2016年41名

【参考】日本サッカー後援会からの交付金収入(過去10年)

2012年度 48,000千円(JFA 32,000千円、なでしこリーグ5,000千円、日本

	フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2013年度	50,000千円(JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2014年度	55,000千円(JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2015年度	55,000千円(JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円、こころのプロジェクト1,000千円)
2016年度	55,000千円(JFA 35,000千円(内、こころのプロジェクト1,000千円、指導者養成海外研修留学費用10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、日本フットサル連盟10,000千円)
2017年度	59,000千円(JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟8,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)
2018年度	57,000千円(JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟6,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)
2019年度	57,000千円(JFA 35,000千円(内、指導者養成事業10,000千円)、JFA夢フィールド建設寄付1,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟5,000千円、日本ビーチサッカー連盟1,000千円)

次ページ左上へ続く



2020年度 55,000千円 (JFA 35,000千円 (内、指導者養成事業10,000千円)、
なでしこリーグ5,000千円、JFL 5,000千円、フットサル連盟5,000
千円、障がい者サッカー連盟5,000千円)

2021年度 50,000千円 (JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、JFL
5,000千円、フットサル連盟5,000千円、障がい者サッカー連盟
5,000千円)

報告事項

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者) …… P28 | 5 中学校体育サポート研修会 …… P30 |
| 2 男子ユースディベロップメント体制 …… P28 | 6 『中学校体育 サッカー指導の教科書』刊行 …… P30 |
| 3 女子ユースディベロップメント体制 …… P29 | 7 2021年度1級審判インストラクター認定審査 …… P30 |
| 4 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新) …… P29 | 8 裁定委員会に関する懲罰 …… P30 |

47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ(技術担当専任者)

47都道府県サッカー協会における技術担当者の専任化については、2019年10月理事会において47都道府県サッカー協会(FA)向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会が審査した結果、右記の通り新たに1FAで決定した。

今後、未定となっているFAについて、申請があり次第、審査を行う。

既存配置FA : 27FA
今回決定したFA : 1FA
合計 : 28FA

【技術担当者専任化承認者一覧】(専任者配置FA数: 28/47FA)

FA名	名前	保有ライセンス
秋田県	栗原英毅	A級ジェネラル

男子ユースディベロップメント体制

1月理事会にて報告した「2022年男子ユースディベロップメント体制 ユース育成体制(JFAコーチ/FAコーチ)」(2月1日にリリース配信)について、追加メンバーを下記の通り選任した。

JFAコーチ サブ(北海道担当)

- ・北原次郎(きたはら じろう)
- ・徳田恒徳(とくだ つねのり)

※上記2名は1月理事会で女子ユースディベロップメント体制にて報告済み。男子も兼務となりあらためて報告するもの。

<2022年度 ユースディベロップメント体制(JFAコーチ/FAコーチ)>

ダイレクター	サブダイレクター	
影山雅永(AFC-Pro)	星原隆昭(S)	☆菅野淳(A/AFC Fit-L2)
JFA	JFA	JFA/フィジカルフィットネス担当

☆=代表兼務、★=新任、下線=追加 ()内アルファベットは保有コーチライセンス

地域名	チーフ	サブ		サブ/GK担当		FAコーチ				
		サブ	サブ	サブ	GK担当	FAコーチ	FAコーチ	FAコーチ	FAコーチ	
北海道	鈴木貴彦(S)	北原次郎(S)	★徳田恒徳(A)	尾形行亮(B/GK-L3)	阿部勝弘(A取得見込/GK-L3)	藤代隆介(北海道)(S)				
	JFA	北海道 コンサドーレ札幌	ASC北海道U-15	美唄市立 中央小学校	北海道 コンサドーレ札幌					
東北	手倉森浩(S)	★都修一(A)		斎藤武志(A取得見込/GK-L3)	☆高橋範夫(A/GK-A取得見込)	石村英俊(青森県)(A)	鳴尾直軌(岩手県)(S/GK-L1)			
	JFA	モンテディオ山形		モンテディオ山形	JFA					
関東	★三浦佑介(S)	土橋正樹(A)		小山健二(B/GK-L3)	★楠本晃義(A/GK-L3)	原田精一郎(茨城県)(A)	中村楽(群馬県)(A/GK-L3/Ph-C)	中田康人(東京都)(S)	中村元彦(神奈川県)(A/A-12)	
	JFA	浦和レッズ		横浜FC	LIALL GK ACADEMY	保坂不二夫(山梨県)(S)	山崎茂雄(埼玉県)(S)			
北信越	木村康彦(S)			岡本理生(B/GK-L3)	大橋昭好(S/GK-A取得見込)	有田一矢(新潟県)(S/A-12)	奥野誠一郎(福井県)(A)	鮎田敏(長野県)(A/A-12)		
	JFA			北陸高校	JFA					
東海	内山篤(S)	矢野隼人(S)		佐々木理(A/GK-A取得見込)	大橋昭好(S/GK-A取得見込)	樋口士郎(三重県)(A)	松永英機(岐阜県)(S)			
	JFA	刈谷JY		名古屋グランパス	JFA					
関西	星原隆昭(S)	望月聡(S)	★六車拓也(A)	佐野智之(A/GK-L3)	★末廣亮介(B/GK-L3)	北村嘉之(京都府)(A)	森村紀夫(滋賀県)(A/A-12/A-15/GK-L3/FTS-C)	佐藤貴則(和歌山県)(A)		
	JFA	びわこ 成蹊スポーツ大学	セレッソ大阪	ガンバ大阪	ヴィッセル神戸					
中国	大畑開(S取得見込)	★沢田謙太郎(S)		中村考宏(B/GK-L3)	真子秀徳(B/GK-L2)	吉川尚男(鳥取県)(A/A-12)	上野敏夫(島根県)(A)	神戸昌宏(岡山県)(A/A-12/GK-L3/AFC Fit-L2取得見込)	戸根徹典(広島県)(A/GK-L1)	
	JFA	サンフレッチェ広島		甘日市FC	ファジアーノ岡山	小野明(山口県)(S/A-12)				

左ページ左上へ続く



地域名	チーフ	サブ	サブ/GK担当		FAコーチ			
四国	★本吉剛 (S) 四国学院大学/JFA		吉田明博 (S/GK-L3) 高松大学	大田康雄 (B/GK-L3) 愛媛FC	羽地登志晃 (徳島県) (A)	八木邦靖 (愛媛県) (A)	和泉茂徳 (高知県) (S)	
	城和憲 (S取得見込) JFA	★道下亨 (A) アビスパ福岡	宮川真一 (S) JFA (JFAアカデミー熊本宇城)	墨屋孝 (A/GK-L3) JFA (JFAアカデミー熊本宇城)	飛石孝行 (B/GK-L3) V・ファーレン長崎	大久保毅 (鹿児島県) (A/A-15)		
担当地域なし	西脇徹也 (A) JFA		川俣則幸 (S/GK-L3) JFA	加藤好男 (S/GK-L3) JFA				
	☆菅野淳 (A/AFC Fit-L2) JFA/フィジカルフィットネス担当	☆矢野由治 (B/AFC Fit-L2) JFA/フィジカルフィットネス担当	☆★村岡誠 (B/AFC Fit-L2) JFA/フィジカルフィットネス担当	田口哲雄 (UEFA-B・A取得見込) JFA	檜崎正剛 (B/GK-L2) 名古屋グランパス			

女子ユースディベロップメント体制

1月理事会にて報告した「2022年女子ユースディベロップメント体制」(2月1日にリリース配信)について、追加メンバーを下記の通り選任した。

JFAコーチ女子担当(東海担当)

・那須麻衣子(なす まいこ)※2021年度から継続

<2022年度 ユースディベロップメント体制/JFAコーチ(女子担当)>

チーフコーチ	サブチーフコーチ		
清瀬一剛 (A) JFA	加藤賢二 (A) JFAアカデミー堺	木村リエ (AFCPro) JFAアカデミー今治	能仲太司 (A) JFA

GKチーフコーチ	GKサブチーフコーチ
☆西入俊浩 (A/GK-L3) JFA	☆井嶋正樹 (B/GK-L3) JFA

☆=代表兼務、★=新任、下線=追加 ()内アルファベットは保有コーチライセンス

地域名	チーフ/サブチーフ	コーチ		GK担当	
北海道	鈴木貴浩 (S) JFA	北原次郎 (S) 北海道コンサドーレ札幌	★徳田恒徳 (A) ASC北海道U-15		本村俊三 (B/GK-L2) 札幌大谷学園
	松田哉 (A) JFA				
東北	山路嘉人 (S) マイナビ仙台	伊藤圭 (A) 東北環境管理			安齋和之 (B/GK-L3) ふたば未来学園高等学校
	仲野浩 (A) JFA	松下潤 (A取得見込) 小美玉スポーツクラブ	四方菜穂 (B) 大和シルフィードU-18	★鈴木木乃実 (A取得見込) ちふれASエルフェン埼玉	宇津江智保 (A取得見込/GK-L2) 群馬県サッカー協会
関東	白井貞義 (S) JFA				★磯上まみ (B/GK-L2) ノジマステラ神奈川相模原
	※中国地域兼務				
北信越	清瀬一剛 (A) JFA	西村陽介 (A) 医療法人雨宮病院			諏訪雄大 (B/GK-L2) JAPANサッカーカレッジ
	山口小百合 (A) 清水フットボールクラブ女子	江後賢一 (A) NGUラブリッジ名古屋	那須麻衣子 (B) 伊賀FCノノ/三重県民共済生活協同組合	★浦田敏己 (A) 静岡SSUアスレジーナ	調整中
関西	加藤賢二 (A) JFAアカデミー堺	☆狩野倫久 (S) SAGAWA SHIGA FC	三輪由衣 (A-pro取得見込) 帝塚山学院大学	谷口祐樹 (A) 奈良県立欽傍高校	櫛引実 (B/GK-L3) JFAアカデミー堺
	横道玲香 (A-pro取得見込) 広島経済大学	白井貞義 (S) ※関東地域兼務	★平川由美 (A取得見込)		唐島和義 (B/GK-L3) ※中国地域兼務
四国	木村リエ (AFCPro) JFAアカデミー今治	★鈴木香菜 (A取得見込) FC今治			監物政希 (A/GK-L3) JFAアカデミー今治
	★佐野佑樹 (A) JFA	嶋田正照 (S) 鳳凰高校	利光ちはる (A) カティオーラフットボールクラブ	松岡卓 (A) アスフィード熊本U-15	☆井嶋正樹 (A取得見込/GK-L3) JFA
九州		☆宮本ともみ (S級取得見込) JFA	金野結子 (A-pro取得見込) JFAアカデミー福島・女子		☆西入俊浩 (A/GK-L3) JFA
	担当地域なし				加藤賢二 (S/GK-A取得見込) JFAアカデミー福島・女子

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

【更新】

申請者(施設所有者): つくば市

施設名: フットボールスタジアムつくば(茨城県つくば市山木1562)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2065RS+U-06-E (Be)

公認期間: 2022年2月10日~2025年2月9日

公認番号: 第082号

次ページ左上へ続く

皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会 記録集

第2部 全試合公式記録

7 1回戦

愛媛FCレディース | JFAアカデミー福島
0 [前半0-1 後半0-2] 3

●2021年11月27日 10:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]小野田伊佐子[副審]藤又美沙希/田中真輝[第4の審判員]吉田成夫 ●マッチコミッショナー:田中亨 ●観衆:85人

[GK] 1 三田一紗代 → HT(21)三木良美	[GK] 1 服部茜沙香 [DF] 2 佐藤朱莉 → 89'(11)中村晏実	出 場 選 手	[DF] 13 村上朱音 [DF] 19 佐藤比香理 → 68'(3)上村彩華	[DF] 4 石川璃音 [DF] 6 佐々木里緒 → 89'(17)金成瑞那	[DF] 15 吉岡心 → 66'(5)内村心優	[DF] 27 荒島彩佳 [DF] 32 平塚万貴 → 80'(6)阪本末周	[DF] 16 松本苑佳 → 90'(34)安藤百合香	[DF] 8 松本苑佳 [MF] 15 鈴木紗理 [MF] 16 仲松叶実 [FW] 18 横山亜依 [FW] 26 桜井由衣香 → 80'(29)今蔵綾乃	[DF] 12 伊藤実咲 → 85'(5)津永佳琳 [MF] 27 山田優衣 [FW] 7 小松優希 → 62'(26)川口あみ [FW] 8 山口紗矢	出 場 選 手	[DF] 5 朝倉陽菜 [DF] 7 運輸真琴 [DF] 15 太田芽依 [DF] 17 月東優季乃 [DF] 20 玉村如捺 [MF] 8 野嶋彩未 [MF] 14 福富真菜 → 90+3'(24)梶井風薫	[MF] 10 藤原美咲 → 73'(27)菅野希咲 [FW] 10 千葉玲海菜 [FW] 23 河部真依	得点 90+1'千葉玲海菜(0-1)
------------------------------	--	------------------	---	--	-----------------------------	--	--------------------------------	---	---	------------------	---	--	-----------------------

8 1回戦

静岡SSUアスレジーナ | FCふじぎくろ山梨
2 [前半2-1 後半0-1] 2
PK10-9

●2021年11月27日 14:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分、延長30分、PK戦 ●[主審]岩本穂花[副審]内田康介/鈴木麗男[第4の審判員]間島美奈子 ●マッチコミッショナー:白井郁夫 ●観衆:189人

[GK] 21 高橋美春 [DF] 4 塩澤優 [DF] 8 渡辺彩香 → 88'(10)平野麻美	[GK] 1 ツァイ・ミンロン [DF] 3 松岡沙由理 [DF] 5 高山紗希 [DF] 7 工藤麻生 [DF] 13 鈴木和直 [MF] 8 田中里穂 [MF] 9 金井奈苗 → 延後前(19)広沢実佳子	出 場 選 手	[DF] 22 小泉玲奈 [DF] 26 彦坂桃花 [MF] 2 山田優衣 [MF] 13 高島尚音 [MF] 15 原海七 [MF] 23 藤原加奈 [FW] 7 森田和伽 → HT(11)三輪玲奈	[MF] 16 南條里緒 [MF] 16 辻野友実子 [MF] 17 井原美波 → 延後前(15)成谷亜実	[FW] 18 三好茜 → 99'(9)土屋津津季	[FW] 10 清水千陽 → 118'(1)中塚理加	得点 23'南條里緒(0-1)、82'辻野友実子(2-2)	[先]20、230、90、220、100、260、110、40、130、150、210	PK 130、80、30、190、110、100、210
--	---	------------------	---	--	------------------------------	-------------------------------	----------------------------------	---	---------------------------------

9 1回戦

ニッパツ横浜FCシーガルズ | 北海道文教大学附属高校
8 [前半4-0 後半4-0] 0

●2021年11月28日 13:00 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]伊藤美奈子[副審]田中真輝/山崎真菜[第4の審判員]藤又美沙希 ●マッチコミッショナー:倉田泰明 ●観衆:140人

[GK] 19 越後希波 [DF] 2 高村ちさと [DF] 5 吉田風沙 [DF] 8 宮下七海 [DF] 28 富田美波 [MF] 6 権野貴子 → HT(27)沖野のせり	[GK] 12 河瀬望乃加 [DF] 2 鶴岡みのり [DF] 8 中島智香 [DF] 23 生井千晶 → 74'(3)河瀬悠良	出 場 選 手	[DF] 7 小林ひなた → 73'(26)丸尾梨菜	[DF] 4 金井里和 [MF] 7 及川小枝 [MF] 9 宮下侑奈 → 62'(15)高谷こころ	[MF] 13 内田美鈴 → 59'(17)今田怜那	[MF] 11 猪又月菜 → 80'(6)小橋沙弥	[MF] 16 小須田璃菜 [MF] 20 小原由梨愛 → HT(24)渡辺璃那	[FW] 11 平川杏奈 → 65'(18)片山由菜	[FW] 15 権野貴子(1-0)、29'38'51'54'平川杏奈(2-0)(3-0)(5-0)(6-0)、44'小林ひなた(4-0)、61'沖野のせり(7-0)、71'片山由菜(8-0)	得点
--	--	------------------	-------------------------------	---	-------------------------------	------------------------------	--	-------------------------------	---	----

4 1回戦

追手門学院高校 | JAPANサッカーカレッジレディース
3 [前半1-1 後半2-5] 6

●2021年11月27日 13:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]横田碧[副審]岡田司/坂下みら[第4の審判員]小竹恵美 ●マッチコミッショナー:谷内浩仁 ●観衆:102人

[GK] 1 西尾今日子 [DF] 2 島野杏梨 [DF] 3 東優希 [DF] 4 小堀菜緒 [DF] 10 徳弘海羽 [MF] 5 森早苗 [MF] 9 安田直生 → 72'(6)草水胡桃	[GK] 1 土屋咲繪 [DF] 2 宛崎香 [DF] 3 鈴木優心 [DF] 4 大貴楓夏 [DF] 5 大井花鈴 [MF] 7 面来佑夏 [MF] 10 伊藤凜莉 [MF] 20 袖留木咲希 [FW] 8 山本菜桜 [FW] 11 北沢明未 [FW] 13 杉川萌佳 → 86'(9)岩田こむぎ	出 場 選 手	[MF] 14 石橋花子 [MF] 15 藤田祐穂 → 61'(21)庄司佐和子	[FW] 8 中内花咲 [FW] 11 太田風砂	得点 28'63'64'太田風砂(1-1)(2-2)(3-2)	5'53'66'76'山本菜桜(0-1)(1-2)(3-3)(3-6)、73'北沢明未(3-4)、75'袖留木咲希(3-5)
---	--	------------------	--	-----------------------------	------------------------------------	--

5 1回戦

コノミヤ・スベランツァ大阪高槻 | 神奈川大学
3 [前半2-0 後半1-1] 1

●2021年11月28日 13:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]荒木裕里香[副審]山口鈴佳/片山卓博[第4の審判員]達川結樹 ●マッチコミッショナー:館野宏之 ●観衆:100人

[GK] 31 辻美穂 [DF] 4 宮地明日翔 [DF] 5 谷本景 [DF] 17 左子五月 [DF] 24 高橋悠 [MF] 8 中野真奈美 → 84'(13)永木真理子	[GK] 19 松井里央 [DF] 17 小野奈菜 [DF] 21 若杉千里子 [DF] 60 吉田優菜 [DF] 77 中館郁帆 [MF] 10 望月麻央 [MF] 39 川北美空 [MF] 73 加田菜 → 86'(3)本多実夏子	出 場 選 手	[MF] 14 渡邊佳奈美 [MF] 16 澤田由佳 → 62'(9)島田善愛	[MF] 28 猿間美佳 → 84'(18)朝井出祐子	得点 3'77'谷本景(1-0)(3-0)、21'中野真奈美(2-0)	79'若杉千里子(3-1)
--	---	------------------	---	--------------------------------	--	---------------

6 1回戦

ノルディア北海道 | 藤枝順心高校
0 [前半0-1 後半0-2] 3

●2021年11月27日 11:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]山内恵美[副審]松永祐貴/渡邊恵太[第4の審判員]西野崇 ●マッチコミッショナー:大畑政典 ●観衆:208人

[GK] 1 青柳麻理鈴 [DF] 4 湊明穂 [DF] 13 丸形梨恵 [DF] 15 大沼萌百葉 → HT(14)上村咲菜	[GK] 1 小野未織 [DF] 5 井手ひなた [DF] 20 中井佑姫奈 [MF] 4 吉田美優 [MF] 10 窓岩日菜 → 86'(6)河村菜奈	出 場 選 手	[MF] 13 浅田幸子 [MF] 14 安藤麻耶 [MF] 25 久保真生 → 75'(7)栗田桃子	[FW] 9 齋藤花菜 → 75'(28)高岡澤	[FW] 15 山田歩美 → 75'(23)濱野ひびき	[FW] 19 宇野麗衣 → 61'(20)姜美蘭	得点 36'齋藤花菜(0-1)、56'正野瑠菜(0-2)、65'山田歩美(0-3)
---	---	------------------	--	-----------------------------	--------------------------------	------------------------------	--

1 1回戦

ヴィアティン三重レディース | 筑波大学
0 [前半0-0 後半0-1] 1

●2021年11月28日 10:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]上田千尋[副審]上野剛史/小竹恵美[第4の審判員]川上泰子 ●マッチコミッショナー:南靖夫 ●観衆:100人

[GK] 1 切畑琴乃 [DF] 3 市川苑佳 [DF] 6 坂崎奏 [DF] 13 長谷川優 [DF] 17 南知穂 [MF] 10 森文乃 [MF] 12 伊藤実咲 → 85'(5)津永佳琳	[GK] 1 清村珠幸 [DF] 5 朝倉陽菜 [DF] 7 運輸真琴 [DF] 15 太田芽依 [DF] 17 月東優季乃 [DF] 20 玉村如捺 [MF] 8 野嶋彩未 [MF] 14 福富真菜 → 90+3'(24)梶井風薫	出 場 選 手	[MF] 27 山田朱珠 [FW] 7 小松優希 → 62'(26)川口あみ [FW] 8 山口紗矢	[MF] 33 森本梨梨 [FW] 10 千葉玲海菜 [FW] 23 河部真依	得点 90+1'千葉玲海菜(0-1)
--	--	------------------	---	---	-----------------------

2 1回戦

大和シルフィード | 徳山大学
0 [前半0-0 後半0-0] 0
PK0-3

●2021年11月27日 11:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分、延長30分、PK戦 ●[主審]的崎睦子[副審]曾我忍/川口琢士[第4の審判員]大木剛志 ●マッチコミッショナー:中熊光義 ●観衆:91人

[GK] 1 水口茉優 [DF] 2 菅能夏海 [DF] 3 西山春香 [DF] 4 武田津美 [MF] 7 櫻谷岬 [MF] 17 平岡瑞希 [MF] 19 梅津美絵 [MF] 23 島村友妃子 → 延前前(25)早狩夏葉	[GK] 1 湯浅里香子 [DF] 3 原田結奈 [DF] 4 松久保美子 [DF] 13 八田七海 [DF] 15 池澤のあ [MF] 2 中村友香 [MF] 8 杉岡真里奈 → 94'(17)川瀧麗	出 場 選 手	[MF] 10 伊藤玲奈 [MF] 11 矢島由芽叶 [MF] 16 榎原美瑠 → 90+1'(18)宮武里奈	[FW] 11 堀江江 → 70'(20)白井未来	[FW] 15 須惠貴裕子	警告 118'須田胡桃	PK 20、40、100
--	--	------------------	--	------------------------------	---------------	----------------	-----------------

3 1回戦

ディアヴォロッソ広島 | 福岡J・アンクルス
0 [前半0-0 後半0-0] 1

●2021年11月28日 14:00 ●Axisバードスタジアム ●試合時間:90分、延長30分 ●[主審]馬場成美[副審]可成孝多/住谷正樹[第4の審判員]加藤恭子 ●マッチコミッショナー:馬場真一 ●観衆:76人

[GK] 19 内藤友花 [DF] 2 池崎愛 [DF] 3 安東麻耶 [DF] 4 石川詩織 [DF] 16 川越あさ [MF] 7 西尾麻奈美 [MF] 9 岡野有里子 [MF] 10 赤嶺美月 [MF] 13 今井新那 → 114'(6)西園雪乃	[GK] 1 朝山美帆 [DF] 5 成合雄 [DF] 5 宮川真莉乃 → 77'(20)河野瑠奈	出 場 選 手	[DF] 16 岡未沙子 [DF] 16 和田莉愛 [DF] 23 林玲花 [MF] 3 相田くら [MF] 6 浮田音音 → 延後前(24)藤崎愛乃	[MF] 15 山崎萌子 [FW] 11 足立美梨子	[MF] 7 須田綾香 [MF] 22 平坂咲希 [FW] 13 根本梨香子	得点 116'平坂咲希(0-1)
---	--	------------------	--	-------------------------------	--	---------------------

16 1回戦 ASハリマアルビオン 仙台大学

5 [前半1-0 後半4-0] 0

●2021年11月27日 13:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]井口朋恵[副審]高橋陸/山崎真菜[第4の審判員]高橋明史 ●マッチコミッショナー:倉田泰明 ●観衆:123人

[GK] 21 高木恵生 [DF] 6 吉田紫穂 → 85'(3)恒益奉実	出 場 選 手	[GK] 12 釜坂慧 [DF] 4 金子紗季 [DF] 6 三条理緒 [DF] 11 山口歌子 [DF] 18 渡邊さくら [MF] 7 加藤愛 [MF] 8 豊後彩香 → 63'(9)後藤渚月 [MF] 10 千葉園子 → 88'(26)嶋林美花 [MF] 11 巴月優希 → 80'(19)北山夢佳 [MF] 18 中野里乃 → 85'(4)小島和希子 [MF] 25 高橋楓姫 → 85'(16)米田早希 [FW] 7 本多由佳 → 25'(9)新堀華波	[GK] 20 津田明日翔 [DF] 2 樋口佳那子 [DF] 9 的場望杏 [DF] 23 遠見リカコ [DF] 30 岡村陽莉莉 [MF] 11 神門泰奈 [MF] 34 長谷原彩音 → 73'(28)桂亜依 [FW] 19 加井菜月 → HT(25)平岩依々菜 [FW] 27 梅菜々笑 → HT(18)矢野梨紗 [FW] 31 辻原莉音 → 73'(29)加藤未来
---	------------------	--	---

41'中野里乃(1-0)、76'高橋楓姫(2-0)、78'千葉園子(3-0)、得点
84'85'巴月優希(4-0)(5-0)

17 1回戦 NGUラブリッジ名古屋 東海大学付属福岡高校

4 [前半2-0 後半2-1] 1

●2021年11月28日 11:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]園師えりな[副審]山下真依/杉山貴洋[第4の審判員]間島美奈子 ●マッチコミッショナー:小花浩司 ●観衆:103人

[GK] 1 都倉瑠里 [DF] 3 瀧倉春陽 [DF] 4 伊藤優海 [DF] 14 長谷川朋佳 [DF] 17 清水あかね [DF] 25 平尾愛穂 → 83'(29)阿部理絵 [MF] 5 安部由希子 → 68'(20)市川実季 [MF] 6 高島瑠里子 → HT(9)竹林佑真 [MF] 10 三浦桃 [FW] 8 市原理奈 → HT(23)水野亜美 [FW] 18 江崎杏那 → 57'(7)田島光代	出 場 選 手	[GK] 1 池田帆希 [DF] 2 津田杏桜子 [DF] 3 小緑瑠夏 [DF] 5 井上麗叶 [DF] 8 吉村あかり [MF] 6 梅崎彩芭 [MF] 7 西川綾子 → 78'(18)中村亜海 [MF] 10 香椎彩香 → 54'(16)山名映理 [FW] 9 松崎こころ [FW] 11 上永ひかり	[GK] 25 小栗栞遥 [DF] 2 秋山来実 [DF] 3 松村紗弥 [DF] 4 浜浦美鐘 [DF] 15 川崎幸来 [DF] 17 低田紀良莉 [MF] 6 松永一紗 [MF] 7 松田愛莉 → 80'(13)石橋春果 [MF] 10 人見有樹 [FW] 8 金銅望海 → 83'(11)杉本美和 [FW] 9 西山菜々
--	------------------	--	--

10'江崎杏那(1-0)、19'市原理奈(2-0)、49'51'竹林佑真(3-1) 得点
(4-1) 46'西川綾子(2-1)

18 2回戦 伊賀FCくノ一三重 筑波大学

4 [前半3-0 後半1-0] 0

●2021年12月5日 13:30 ●日東インコースタジアム丸岡(丸岡スポートランド) サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]的崎隆子[副審]尾尾里梨/山口鈴佳[第4の審判員]河野由依 ●マッチコミッショナー:広部雅之 ●観衆:125人

[GK] 16 藤田涼加 [DF] 3 東菜月 [DF] 13 宮迫たまみ [DF] 26 中村ひかる → HT(2)常田菜那 [DF] 29 秦美結 [MF] 4 鈴木千尋 [MF] 5 西川明花 [MF] 7 森仁美 → 79'(22)西林里恵 [MF] 10 杉田亜未 → 87'(9)沖野くれあ [MF] 20 三橋明香 → HT(11)小川志保 [MF] 24 島野美央 → 69'(17)常田麻友	出 場 選 手	[GK] 1 清村珠幸 [DF] 7 運輸真琴 [DF] 15 太田芽依 → HT(33)森本菜梨 [DF] 17 戸東優季乃 [DF] 20 玉村如捺 [DF] 24 梶井風薫 → 79'(16)押鴨毅 [MF] 8 野嶋彩未 [MF] 14 福富真菜 [FW] 5 朝倉陽菜 → 57'(27)菅野希咲 [FW] 10 千葉玲海菜 [FW] 23 河部真依 → 90+2'(4)谷井沙樹	[GK] 25 大熊直 [DF] 2 内田果譽 [DF] 3 鈴木京響 [DF] 13 菅野向日葵 [DF] 15 池田藍子 [MF] 4 伏谷香穂 → 56'(18)岩下楓 [MF] 5 塚本美来 [MF] 6 谷口真由 → 70'(19)大塚彩希 [MF] 7 福山美優 [MF] 10 山崎綾乃 [FW] 11 錦織美紀
---	------------------	---	---

2'43'森仁美(1-0)(3-0)、17'90+2'西川明花(2-0)(4-0) 得点

13 1回戦 ヴィアマテラス宮崎 ディオッサ出雲FC

1 [前半0-2 後半1-0] 2

●2021年11月28日 14:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]曾根未宇[副審]小出裕美/石原良徳[第4の審判員]森井郁大 ●マッチコミッショナー:川島健 ●観衆:183人

[GK] 15 馬場ひなの [DF] 11 橋谷伊織 [DF] 14 島田綾子 [DF] 21 坂本理保 [DF] 25 倉谷也海 [MF] 6 切通真央 → 67'(20)伊藤こゆき [MF] 7 有馬りこ [MF] 8 嘉数飛鳥 [MF] 16 福丸智子 [FW] 4 永野桃子 [FW] 17 齋藤夕真	出 場 選 手	[GK] 1 長竹亜依 [DF] 2 井上葉月 [DF] 4 伊藤明里 [DF] 7 坂田絵里 [DF] 8 友近真那 [MF] 5 住徳彩 [MF] 10 定国佳奈 → 87'(6)山本早織 [MF] 13 浅海早希 [MF] 14 市原佳菜 → 90'(11)神山ゆい [MF] 25 多田彩華 [FW] 9 清野彩 → 79'(17)柳瀬絵莉	[GK] 20 津田明日翔 [DF] 2 樋口佳那子 [DF] 9 的場望杏 [DF] 23 遠見リカコ [DF] 30 岡村陽莉莉 [MF] 11 神門泰奈 [MF] 34 長谷原彩音 → 73'(28)桂亜依 [FW] 19 加井菜月 → HT(25)平岩依々菜 [FW] 27 梅菜々笑 → HT(18)矢野梨紗 [FW] 31 辻原莉音 → 73'(29)加藤未来
---	------------------	---	---

52'島田綾子(1-2) 得点 27'清野彩(0-1)、38'坂田絵里(0-2)
77'伊藤こゆき 警告

14 1回戦 日体大FIELDS横浜 SEISA OSAレリア湘南FC

0 [前半0-0 後半0-1] 1

●2021年11月28日 14:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]近藤恭子[副審]北沢倫章/川田昇太[第4の審判員]渡邊惠太 ●マッチコミッショナー:井上有利江 ●観衆:87人

[GK] 30 八木実有 [DF] 3 全平莉紗 → HT(24)田村かのん [DF] 5 富岡千宙 [DF] 6 松永未衣奈 [DF] 11 久保田明未 [MF] 14 高原天音 → 51'(33)知久奈菜穂 [MF] 16 金子麻優 [MF] 23 渡部麗 [MF] 25 加藤ゆあ [FW] 9 大西若菜 [FW] 20 谷口清夏 → 61'(35)三浦晴香	出 場 選 手	[GK] 1 浅越千裕 [DF] 2 夏目萌由 [DF] 20 阿久井泉 [DF] 23 鈴木真央 → 74'(25)國部碧 [DF] 30 山本侖 [MF] 4 高橋未希 [MF] 7 遠藤彩枝 [MF] 11 鈴木陽笑 → 86'(6)山室佳代 [MF] 14 加藤弥紀 → 74'(10)塩野海風 [FW] 9 高橋沙矢香 [FW] 15 長山萌花 → 90+3'(22)武莉子	[GK] 25 小栗栞遥 [DF] 2 秋山来実 [DF] 3 松村紗弥 [DF] 4 浜浦美鐘 [DF] 15 川崎幸来 [DF] 17 低田紀良莉 [MF] 6 松永一紗 [MF] 7 松田愛莉 → 80'(13)石橋春果 [MF] 10 人見有樹 [FW] 8 金銅望海 → 83'(11)杉本美和 [FW] 9 西山菜々
---	------------------	--	--

64'八木実有 警告 得点 64'遠藤彩枝(0-1)

15 1回戦 吉備国際大学Charme岡山高梁 日テレ東京ヴェルディメニーナ

1 [前半1-1 後半0-1] 2

●2021年11月28日 11:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]安浪陽子[副審]大谷美瑛/中村豪[第4の審判員]森井郁大 ●マッチコミッショナー:清水達哉 ●観衆:95人

[GK] 1 杉野陽咲 [DF] 3 余田清華 [DF] 4 鷗木瑠南 [DF] 5 阿部楓子 → 76'(10)加戸由佳 [DF] 13 西川紗奈 → 56'(16)板倉楓 [MF] 2 岡田愛海 → 61'(17)川名遥香 [MF] 7 川名みのり [MF] 8 小山莉奈 [MF] 40 逸見桃子 [FW] 10 西村智恵 [FW] 24 古谷優理亜 → 76'(15)中村怜愛	出 場 選 手	[GK] 1 野田にな [DF] 5 池上聖七 [DF] 15 本多桃華 [DF] 21 松岡瑛菜 [DF] 37 青木夕菜 [MF] 7 木村彩那 [MF] 8 大山愛笑 [MF] 11 松永未夢 [MF] 14 真城美春 [FW] 9 橋渡百花 [FW] 10 土方麻椰	[GK] 25 大熊直 [DF] 2 内田果譽 [DF] 3 鈴木京響 [DF] 13 菅野向日葵 [DF] 15 池田藍子 [MF] 4 伏谷香穂 → 56'(18)岩下楓 [MF] 5 塚本美来 [MF] 6 谷口真由 → 70'(19)大塚彩希 [MF] 7 福山美優 [MF] 10 山崎綾乃 [FW] 11 錦織美紀
--	------------------	---	---

17'逸見桃子(1-0) 得点 43'土方麻椰(1-1)、59'大山愛笑(1-2)

10 1回戦 オルカ鴨川FC 大阪体育大学

4 [前半3-0 後半1-0] 0

●2021年11月27日 10:30 ●日東インコースタジアム丸岡(丸岡スポートランド) サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]柳彩乃[副審]山口鈴佳/荒木裕里香[第4の審判員]清水明美 ●マッチコミッショナー:栗森政一郎 ●観衆:105人

[GK] 16 暁清流 [DF] 4 鶴見隼香 [DF] 5 新井純奈 → 84'(3)成岡真鈴 [DF] 27 山幅あや → 59'(8)深澤里沙 [MF] 2 渡部那月 [MF] 6 南山千明 [MF] 7 浦島里紗 [MF] 18 児玉羅 [FW] 10 吉良知夏 → 84'(19)正野可葉子 [FW] 20 河野有希 → 84'(22)田幸望 [FW] 25 山田彩未 → 59'(9)齋藤彩花	出 場 選 手	[GK] 20 津田明日翔 [DF] 2 樋口佳那子 [DF] 9 的場望杏 [DF] 23 遠見リカコ [DF] 30 岡村陽莉莉 [MF] 11 神門泰奈 [MF] 34 長谷原彩音 → 73'(28)桂亜依 [FW] 19 加井菜月 → HT(25)平岩依々菜 [FW] 27 梅菜々笑 → HT(18)矢野梨紗 [FW] 31 辻原莉音 → 73'(29)加藤未来	[GK] 25 小栗栞遥 [DF] 2 秋山来実 [DF] 3 松村紗弥 [DF] 4 浜浦美鐘 [DF] 15 川崎幸来 [DF] 17 低田紀良莉 [MF] 6 松永一紗 [MF] 7 松田愛莉 → 80'(13)石橋春果 [MF] 10 人見有樹 [FW] 8 金銅望海 → 83'(11)杉本美和 [FW] 9 西山菜々
---	------------------	---	--

19'35'吉良知夏(1-0)(2-0)、43'山田彩未(3-0)、83'深澤里沙 得点
沙(4-0)

11 1回戦 早稲田大学 四国学院大学香川西高校

4 [前半0-0 後半4-0] 0

●2021年11月27日 14:30 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]杉本美里[副審]大森啓子/福吉海偉[第4の審判員]大本剛志 ●マッチコミッショナー:岡野雅夫 ●観衆:150人

[GK] 16 石田心菜 [DF] 2 船木和夏 [DF] 5 後藤若葉 [DF] 22 夏目歩実 [MF] 6 プラフ・シャーン → 82'(17)井上萌 [MF] 7 蔵田あかり → 68'(30)築地育 [MF] 8 並木千夏 → 82'(20)浦部美月 [MF] 10 加藤希 [MF] 18 三谷和華奈 → 68'(26)木南花菜 [FW] 11 高橋雛 [FW] 15 吉野真央 → 75'(12)黒柳美裕	出 場 選 手	[GK] 25 小栗栞遥 [DF] 2 秋山来実 [DF] 3 松村紗弥 [DF] 4 浜浦美鐘 [DF] 15 川崎幸来 [DF] 17 低田紀良莉 [MF] 6 松永一紗 [MF] 7 松田愛莉 → 80'(13)石橋春果 [MF] 10 人見有樹 [FW] 8 金銅望海 → 83'(11)杉本美和 [FW] 9 西山菜々	[GK] 25 小栗栞遥 [DF] 2 秋山来実 [DF] 3 松村紗弥 [DF] 4 浜浦美鐘 [DF] 15 川崎幸来 [DF] 17 低田紀良莉 [MF] 6 松永一紗 [MF] 7 松田愛莉 → 80'(13)石橋春果 [MF] 10 人見有樹 [FW] 8 金銅望海 → 83'(11)杉本美和 [FW] 9 西山菜々
--	------------------	--	--

50'58'74'吉野真央(1-0)(2-0)(4-0)、60'三谷和華奈(3-0) 得点

12 1回戦 アンジュヴィオレ広島 ヴィアナイテ市原千葉レディースU-18

3 [前半2-1 後半1-0] 1

●2021年11月28日 11:00 ●Axisバードスタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]宮崎真理[副審]大權雄太郎/若原大輝[第4の審判員]熊澤祐 ●マッチコミッショナー:松山博明 ●観衆:124人

[GK] 16 田中幸奈 [DF] 3 小川優花 [DF] 6 松田遥奈 [DF] 8 坂中澤 [DF] 26 島村公美子 [MF] 2 冨田実佑 [MF] 7 本藤理佐 → 89'(4)有田佳奈 [MF] 10 神田若帆 [MF] 22 新城舞 → 89'(14)松田早和 [MF] 28 川崎咲耶 → 82'(18)竹ノ谷好美 [FW] 23 吉谷茜音 → 70'(24)杉原遥波	出 場 選 手	[GK] 25 大熊直 [DF] 2 内田果譽 [DF] 3 鈴木京響 [DF] 13 菅野向日葵 [DF] 15 池田藍子 [MF] 4 伏谷香穂 → 56'(18)岩下楓 [MF] 5 塚本美来 [MF] 6 谷口真由 → 70'(19)大塚彩希 [MF] 7 福山美優 [MF] 10 山崎綾乃 [FW] 11 錦織美紀	[GK] 25 大熊直 [DF] 2 内田果譽 [DF] 3 鈴木京響 [DF] 13 菅野向日葵 [DF] 15 池田藍子 [MF] 4 伏谷香穂 → 56'(18)岩下楓 [MF] 5 塚本美来 [MF] 6 谷口真由 → 70'(19)大塚彩希 [MF] 7 福山美優 [MF] 10 山崎綾乃 [FW] 11 錦織美紀
--	------------------	---	---

34'神田若帆(1-1)、35'吉谷茜音(2-1)、68'川崎咲耶(3-1) 得点 2'錦織美紀(0-1)

第2部 全試合公式記録

25 2回戦

アンジュヴィオレ広島 | ディオッサ出雲FC
3 [前半2-0 後半1-0] 0

●2021年12月4日 10:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカースタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]横田碧[副審]山口鈴佳/河野由依[第4の審判員]小竹恵美 ●マッチコミッショナー:南靖男 ●観衆:65人

[GK] 16 田中幸奈 [DF] 3 小川優花 [DF] 6 松田遥奈 [DF] 8 阪中澤 [DF] 26 島村公美子 [MF] 2 冨田実術 [MF] 7 本藤理佐 [MF] 9 神田若帆 [MF] 22 新城舞 [MF] 27 川崎咲耶 [MF] 28 川崎咲耶 [FW] 23 吉谷茜音 → 70'(24) 杉原遥波	出 場 選 手	[GK] 1 長竹亜依 [DF] 2 井上葉月 [DF] 4 伊藤明里 [DF] 7 坂田絵里 → 67'(6) 山本早織 [DF] 8 友近真那 [MF] 5 佐藤彩 [MF] 10 定岡佳奈 → 62'(17) 柳瀬絵莉 [MF] 13 浅海早希 [MF] 14 市原佳菜 [MF] 25 多田彩華 [FW] 9 清野彩	出 場 選 手
1' 神田若帆(1-0)、36' 川崎咲耶(2-0)、77' 島村公美子(3-0)	得点		
54' 島村公美子	警告		

26 2回戦

SEISA OSALレイア湘南FC | 日テレ東京ヴェルディメニーナ
1 [前半1-3 後半0-2] 5

●2021年12月4日 13:45 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]稲葉里美[副審]手代木直美/山崎真菜[第4の審判員]三坂麻紀 ●マッチコミッショナー:宮本正紀 ●観衆:51人

[GK] 1 浅越千裕 [DF] 2 夏目明由 [DF] 20 阿久井泉 → 62'(3) 池座綾花 [DF] 23 鈴木真央 [DF] 30 山本伶 [MF] 4 高橋未希 → 79'(6) 山室佳代 [MF] 7 遠藤彩穂 [MF] 11 鈴木陽笑 [MF] 14 加藤弥紀 [FW] 9 高橋沙矢香 [FW] 15 長山萌花 → 62'(28) 国吉花吏埜	出 場 選 手	[GK] 1 野田にな [DF] 3 坂部幸菜 [DF] 5 池上聖七 [DF] 15 本多桃華 → 76'(4) 熊谷美布 [DF] 37 青木夕菜 [MF] 7 木村彩那 [MF] 8 大山愛実 [MF] 11 松永未夢 → 88'(28) 須長穂乃果 [MF] 14 眞城美春 [FW] 9 橋渡百花 → 79'(13) 川口歩夢 [FW] 10 土方麻椰	出 場 選 手
15' 長山萌花(1-2)	得点	3' 眞城美春(0-1)、12' 41' 土方麻椰(0-2)、1-3、48' 53' 松永未夢(1-4)(1-5)	

27 2回戦

ASハリマアルビオン | NGUラブリッジ名古屋
4 [前半0-1 後半4-0] 1

●2021年12月4日 14:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]赤木陽美[副審]谷添大地/福吉海偉[第4の審判員]足立正輝 ●マッチコミッショナー:清水達哉 ●観衆:301人

[GK] 1 垣内愛菜 [DF] 3 恒益泰実 [DF] 8 武田裕季 [DF] 13 大久保明 [DF] 15 杉田めい → 15'(24) 増田玲那 [MF] 5 小池快 [MF] 10 千葉園子 [MF] 11 巴月優希 [MF] 18 中野里乃 [MF] 25 高橋楓姫 → 79'(17) 岡倉海香 [FW] 9 新堀華波 → 87'(26) 嶋林美花	出 場 選 手	[GK] 1 都倉瑠里 [DF] 3 瀧倉春陽 [DF] 4 伊藤優海 → 87'(29) 阿部理絵 [DF] 14 長谷川朋佳 [DF] 17 清水あかね [DF] 25 平尾愛穂 [MF] 5 安部由希子 [MF] 6 高島瑠里子 → HT(9) 竹林佑真 [MF] 10 三浦桃 [FW] 8 市原理奈 → 77'(23) 水野亜美 [FW] 18 江崎杏那	出 場 選 手
50' 高橋楓姫(1-1)、67' 新堀華波(2-1)、85' 90+4' 千葉園子(3-1)(4-1)	得点	20' 高島瑠里子(0-1)	

22 2回戦

JFAアカデミー福島 | 静岡SSUアスレジーナ
0 [前半0-0 後半0-0] 0
PK4-5

●2021年12月4日 10:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分、延長30分、PK戦 ●[主審]井口朋恵[副審]勝又美沙希/田中真輝[第4の審判員]平塚将哲 ●マッチコミッショナー:田中亨 ●観衆:63人

[GK] 1 服部茜汐香 [DF] 2 佐藤朱莉 [DF] 4 石川璃音 [DF] 6 佐々木里緒 [DF] 16 古賀塔子 [MF] 7 林愛花 → 103'(3) 石川くらら [MF] 8 濱野穂乃香 → HT(23) 木村未来 [MF] 10 太田萌咲 [MF] 14 谷川萌々子 [MF] 15 吉岡心 → 60'(22) 樋口梨花 [FW] 9 松窪真心	出 場 選 手	[GK] 21 高橋美春 [DF] 4 塩澤優 [DF] 8 渡辺彩香 → 60'(20) 宮下愛深 [DF] 26 彦坂桃花 [MF] 2 山田優衣 [MF] 13 高島純音 [MF] 15 原海七 → HT(11) 三輪玲奈 [MF] 22 小泉玲奈 [MF] 23 藤原加奈 → 112'(9) 土屋佑津季 [FW] 7 森田和加 → 68'(3) 全九翔子 [FW] 18 三好直 → 80'(10) 平野麻美	出 場 選 手
104' 松窪真心	警告		

23 2回戦

ニッパツ横浜FCシーガルズ | オルカ鴨川FC
0 [前半0-0 後半0-1] 1

●2021年12月5日 10:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカースタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]馬場成美[副審]荒木裕里香/横田碧[第4の審判員]小竹恵美 ●マッチコミッショナー:栗森政一郎 ●観衆:113人

[GK] 19 越後希波 [DF] 2 高村ちさと [DF] 5 吉田風沙 [DF] 8 宮下七海 [DF] 28 冨田美波 [MF] 6 権野貴子 → 90+3'(27) 沖野るせり [MF] 7 小林ひなた → 58'(18) 片山由菜 [MF] 16 小須田瑠菜 [MF] 20 小原由梨愛 → 70'(29) 室井胡心 [FW] 11 平川杏奈 [FW] 13 内田美鈴	出 場 選 手	[GK] 16 晴浦流 [DF] 2 渡部那月 [DF] 4 鶴見綾香 [DF] 5 新井純奈 [DF] 27 山崎あや [MF] 6 南希 [MF] 7 浦島千明 [MF] 18 児玉耀 [MF] 20 河野有希 → 90+2'(25) 山田彩未 [FW] 9 齊藤彩花 → 60'(8) 深澤里沙 [FW] 10 吉良知夏	出 場 選 手
	得点	86' 浦島里紗(0-1)	

24 2回戦

スフィーダ世田谷FC | 早稲田大学
1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2021年12月5日 13:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]山内恵美[副審]杉野吉寿/田中真輝[第4の審判員]三坂麻紀 ●マッチコミッショナー:田中亨 ●観衆:111人

[GK] 1 石野妃芽佳 [DF] 2 根本彩夏 [DF] 4 戸田歩 [DF] 5 渡辺瑞希 [DF] 16 奈良美沙季 [MF] 11 長崎茜 [MF] 13 金子ゆい [MF] 15 三本紗矢香 [FW] 7 中山さつき → 78'(22) 村上真生 [FW] 9 堀江美月 → 74'(23) 伊藤綾花 [FW] 10 大竹麻友 → 89'(14) 瀧下まひる	出 場 選 手	[GK] 1 近澤滯菜 [DF] 2 船木和夏 [DF] 5 後藤若菜 [DF] 22 夏目歩実 [MF] 6 プラフィヤーン [MF] 7 蔵田あかり → 54'(18) 三谷和華奈 [MF] 8 並木千夏 [MF] 10 加藤希 [FW] 9 廣澤真穂 [FW] 11 高橋雛 [FW] 15 吉野真央 → 61'(30) 築地育	出 場 選 手
28' 堀江美月(1-0)	得点		

19 2回戦

徳山大学 | 福岡J-アンクラス
0 [前半0-1 後半0-1] 2

●2021年12月4日 11:00 ●兵庫県立三木総合防災公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]杉本美里[副審]足立正輝/中村豪[第4の審判員]谷添大地 ●マッチコミッショナー:岡野雅夫 ●観衆:89人

[GK] 1 湯浅里香子 [DF] 3 原田結奈 [DF] 4 松久優子 [DF] 13 八田七海 [DF] 15 池澤のあ → 81'(20) 近藤千寛 [MF] 2 中村友香 [MF] 8 杉岡里奈 [MF] 10 伊藤玲奈 → 69'(26) 松井優佳 [MF] 11 矢島由芽叶 [MF] 16 椎原恵美瑠 → 69'(9) 久山玲奈 [FW] 7 谷穂花 → HT(17) 川満麗	出 場 選 手	[GK] 1 朝山美帆 [DF] 4 成合雄 [DF] 10 岡本沙子 [DF] 16 和田莉愛 [MF] 6 浮田琴音 [MF] 7 須田綾香 → 90+1'(11) 矢野アツマ由基利 [MF] 22 平坂咲希 [MF] 23 林玲花 [MF] 24 藤崎愛乃 [FW] 3 相田さくら → 90+1'(2) 安田早希 [FW] 13 根本梨香子 → 78'(19) 宮本樹奈	出 場 選 手
	得点	24' 相田さくら(0-1)、62' 須田綾香(0-2)	

20 2回戦

セレッソ大阪堺レディース | JAPANサッカーカレッジレディース
8 [前半3-0 後半5-0] 0

●2021年12月4日 13:30 ●日東シンコースタジアム丸岡(丸岡スポーツランド) サッカースタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]荒木裕里香[副審]藤尾里梨/坂下みら[第4の審判員]清水明美 ●マッチコミッショナー:谷内浩仁 ●観衆:124人

[GK] 27 西中麻穂 → HT(1) 福永絵梨香 [DF] 3 田畑晴菜 [DF] 4 筒井梨香 [DF] 7 荻久保優里 [DF] 13 百瀬実結香 → 63'(5) 前川美紀 [DF] 22 白垣つとむ → HT(17) 中谷莉奈 [MF] 6 松本芹己 [MF] 14 高和芽衣 [MF] 18 宮本光梨 → 63'(15) 古澤留衣 [FW] 10 小山史乃観 [FW] 16 岩本まりの → 83'(8) 田中智子	出 場 選 手	[GK] 1 土屋咲繪 → HT(21) 清水美来 [DF] 2 兜崎香 [DF] 3 鈴木優心 [DF] 4 大貫楓夏 [DF] 5 大井花鈴 [MF] 7 面来佑夏 [MF] 10 伊藤藤莉 [MF] 20 柚留木咲希 → 79'(6) 森田心 [FW] 8 山本葉桜 [FW] 11 北沢明夫 [FW] 13 砂川莉里佳 → 84'(9) 岩田こむぎ	出 場 選 手
10' 18' 81' 90+3' 小山史乃観(1-0)(3-0)(7-0)(8-0)、16' 66' 田畑晴菜(2-0)(6-0)、48' オウングール(4-0)、54' 中谷莉奈(5-0)	得点		

21 2回戦

コノミヤスベランツ大阪高槻 | 藤枝順心高校
2 [前半0-2 後半2-1] 3

●2021年12月5日 10:30 ●セイホクパーク石巻 石巻フットボール場 ●試合時間:90分 ●[主審]園師えりな[副審]勝又美沙希/山崎真菜[第4の審判員]佐藤紀夏 ●マッチコミッショナー:宮本正紀 ●観衆:98人

[GK] 31 辻美穂 [DF] 4 宮地明日翔 [DF] 5 谷本景 [DF] 17 左子五月 [DF] 24 高橋悠 [MF] 8 中野真奈美 [MF] 10 保坂のどか → 85'(9) 島田音愛 [MF] 14 渡邊佳奈美 → HT(13) 永木真理子 [MF] 16 澤田由佳 → 80'(19) 北浦美帆 [MF] 28 狭間美佳 → 31'(26) 小桃桃華 [FW] 22 森田あやめ → 85'(18) 朝井出祐子	出 場 選 手	[GK] 1 小野未織 [DF] 4 吉田美優 [DF] 5 井手ひなた [DF] 14 安藤麻耶 [DF] 20 中井佑姫奈 [MF] 13 浅田幸子 [MF] 15 山田歩美 → 70'(22) 加島希夏 [MF] 25 久保真生 [FW] 9 齋藤花菜 [FW] 10 窓若日菜 [FW] 17 正野瑠菜	出 場 選 手
60' 中野真奈美(1-3)、66' 森田あやめ(2-3)	得点	28' 正野瑠菜(0-1)、36' 齋藤花菜(0-2)、53' 久保真生(0-3)	
	警告	43' 齋藤花菜	

34 4回戦

三菱重工浦和レズレディース | 伊賀FCくノ一三重
1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2021年12月25日 14:00 ●ケーズデンキスタジアム水戸 ●試合時間:90分 ●[主審]井脇真理子[副審]高橋早織/山内恵美[第4の審判員]門井美由紀 ●マッチコミッショナー:中野俊 ●観衆:629人

[GK] 1 池田咲紀子	出	[GK] 16 藤田涼加	出
[DF] 3 南萌華	場	[DF] 2 常田菜那	場
[DF] 4 佐々木蘭	選	→ 90'(9)沖野くれあ	選
[DF] 7 高橋はな	手	[DF] 3 東菜月	手
[DF] 11 清家貴子		[DF] 13 宮迫たまみ	
[MF] 8 猶本光		[DF] 29 秦美結	
[MF] 10 安藤梢		[MF] 4 鈴木千尋	
[MF] 18 柴田華絵		[MF] 5 西川明花	
[MF] 19 塩越柚歩		[MF] 7 森仁美	
[FW] 9 菅澤優衣香		→ 90'(6)乃一綾	
→ HT(16)水谷有希		[MF] 10 杉田亜未	
[FW] 24 島田芽依		[MF] 24 島野美央	
		→ 89'(20)三橋明香	
		[FW] 11 小川志保	
87'清家貴子(1-0)	得点		
	警告	62'常田菜那	

35 4回戦

ちふれASエルフェン埼玉 | アルビレックス新潟レディース
0 [前半0-1 後半0-1] 2

●2021年12月25日 11:00 ●長野スタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]草刈和江[副審]手代木直美/岩本穂花[第4の審判員]森広博 ●マッチコミッショナー:磯谷正人 ●観衆:555人

[GK] 1 浅野菜摘	出	[GK] 1 平尾知佳	出
[DF] 16 浅田真理奈	場	[DF] 19 田中美和	場
→ 66'(7)山本絵美	選	[DF] 15 イ・ヒョギョン	選
[DF] 20 岸みのり	手	[DF] 4 三浦紗津紀	手
[DF] 6 瀬野有希		[DF] 14 北川ひかる	
[DF] 13 又吉果奈		[MF] 20 山谷瑠香	
→ 87'(9)山本菜桜美		→ 62'(5)川村優理	
[MF] 24 吉田莉胡		[MF] 16 園田悠奈	
[MF] 2 木下菜		[MF] 17 滝川結女	
[MF] 5 瀬戸口梢		[MF] 10 上尾野辺めぐみ	
[MF] 23 中村ゆしか		[FW] 11 道上彩花	
→ 66'(14)加藤千佳		[FW] 8 石瀬萌実	
[FW] 29 祐村ひかる		→ 34'(6)茨木美都葉	
[FW] 8 河野朱里			
	得点	43'山谷瑠香(0-1), 48'茨木美都葉(0-2)	

36 4回戦

ノジマステラ神奈川相模原 | セレッソ大阪堺レディース
2 [前半0-1 後半2-2] 3

●2021年12月25日 14:00 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分 ●[主審]宮崎真理[副審]朝倉みな子/稲葉里美[第4の審判員]中村翔太 ●マッチコミッショナー:山下和良 ●観衆:765人

[GK] 1 久野吹雪	出	[GK] 27 西中麻穂	出
[DF] 5 大賀理紗子	場	→ HT(21)山下莉奈	場
[DF] 6 松原有沙	選	[DF] 22 白垣うの	選
→ 88'(3)石田みなみ	手	[DF] 7 中智子	手
[DF] 22 伊東珠梨		[DF] 4 筒井梨香	
[DF] 6 北方沙映		[DF] 7 荻久保優里	
[MF] 10 脇阪麗奈		[DF] 13 百瀧実結香	
[MF] 18 福住青空		[MF] 6 松本奈己	
→ 56'(17)小林海音		[MF] 18 宮本光梨	
[MF] 11 佐々木本和		[MF] 14 高和芹夏	
→ 71'(7)平田ひかり		[MF] 10 小山史乃	
[MF] 24 西郡菜優		[FW] 3 田畑晴菜	
→ 71'(19)石田千尋		[FW] 16 岩本まりの	
[FW] 20 松本菜奈加		→ 83'(17)中谷莉奈	
[FW] 28 ロベス・サンディ			
81'松本菜奈加(1-3), 84'脇阪麗奈(2-3)	得点	21'松本奈己(0-1), 72'高和芹夏(0-2), 74'小山史乃(0-3)	
	警告	36'松本奈己	

31 3回戦

スフィーダ世田谷FC | アンジュヴィオレ広島
2 [前半2-1 後半0-0] 1

●2021年12月12日 13:00 ●真岡市総合運動公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]上田千尋[副審]馬場成美/田井楓[第4の審判員]齊藤清美 ●マッチコミッショナー:玉井朗 ●観衆:190人

[GK] 1 石野妃芽佳	出	[GK] 16 田中幸奈	出
[DF] 2 根本彩夏	場	[DF] 2 冨田実侑	場
[DF] 5 渡辺瑞穂	選	→ 86'(18)竹ノ谷好美	選
[DF] 4 戸田歩	手	[DF] 8 阪中澤	手
[DF] 16 奈良美沙季		[DF] 26 島村公美子	
[MF] 15 三本紗久香		[DF] 6 松田遥奈	
[MF] 13 金子ゆい		[MF] 7 本藤理佐	
[MF] 11 長崎茜		[MF] 28 川崎咲那	
[FW] 10 大竹麻友		[MF] 5 山岸夢歩	
[FW] 9 堀江美月		→ 53'(24)杉原遥波	
→ HT(20)櫻本芹菜		[MF] 22 新城舞	
[FW] 7 中山さつき		[MF] 10 神田若帆	
→ 76'(22)村上真生		[FW] 23 吉谷茜音	
10'大竹麻友(1-0), 45+1'堀江美月(2-1)	得点	24'吉谷茜音(1-1)	

32 3回戦

日テレ・東京ヴェルディメニナ | ASハリマアルビオン
2 [前半1-1 後半1-0] 1

●2021年12月11日 14:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]柳彩乃[副審]伊藤実奈子/曾根未宇[第4の審判員]高島昌康 ●マッチコミッショナー:大畑政典 ●観衆:163人

[GK] 1 野田にな	出	[GK] 1 垣内愛菜	出
[DF] 3 坂部幸菜	場	[DF] 3 恒益泰実	場
[DF] 4 熊谷美希	選	→ 79'(16)米田早希	選
[DF] 5 池上聖七	手	[DF] 8 武田裕季	手
[DF] 37 青木夕菜		[DF] 13 大久保萌	
[MF] 7 木村彩那		[DF] 24 増田玲那	
[MF] 8 大山愛実		[MF] 5 小池快	
[MF] 11 松永未夢		[MF] 10 千葉園子	
[MF] 14 真城美春		→ 79'(30)川野愛華	
[FW] 9 種彦百花		[MF] 18 中野里乃	
[FW] 10 土方麻那		→ 84'(4)小島和希子	
		[MF] 25 高橋楓実	
		→ 71'(6)吉田紫穂	
		[FW] 9 新垣華波	
		[FW] 11 巴月優希	
		→ 84'(2)沼田倫子	
31'池上聖七(1-0), 74'土方麻那(2-1)	得点	41'千葉園子(1-1)	
	警告	73'吉田紫穂	

33 4回戦

サンフレッチェ広島レジーナ | マイナビ仙台レディース
2 [前半1-0 後半1-0] 0

●2021年12月25日 14:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:90分 ●[主審]小泉朝香[副審]中本早紀/赤木陽美[第4の審判員]加藤恭子 ●マッチコミッショナー:猿澤茂 ●観衆:852人

[GK] 1 木福瑠那	出	[GK] 16 松本真未子	出
[DF] 2 松原優菜	場	[DF] 14 國武愛美	場
[DF] 6 左山桃子	選	→ 59'(19)佐藤楓	選
[DF] 4 中村楓	手	[DF] 3 市瀬菜々	手
[DF] 5 川島あおい		[DF] 4 高平美優	
[MF] 7 木島はるな		[MF] 27 矢形海優	
→ 65'(17)大内梨央		[MF] 7 隅田凜	
[MF] 18 松原志歩		→ 59'(25)船木里奈	
[MF] 10 近賀ゆかり		[MF] 11 長野風花	
[FW] 26 立花葉		[MF] 22 万屋美穂	
→ 90+2'(13)谷口木乃実		[MF] 27 福田ゆい	
[FW] 9 上野真実		[FW] 9 宮澤ひなた	
→ 90+2'(19)齋原みず稀		[FW] 8 池尻菜由	
[FW] 11 中嶋淑乃		[FW] 20 白木星	
→ 70'(20)島袋奈美恵		→ 59'(17)武田菜々子	
45+1'松原志歩(1-0), 52'近賀ゆかり(2-0)	得点		

28 3回戦

伊賀FCくノ一三重 | 福岡J・アンクラス
7 [前半2-0 後半5-0] 0

●2021年12月11日 13:30 ●真岡市総合運動公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]小野田伊佐子[副審]井口朋恵/大平沙織[第4の審判員]阿久津弘美 ●マッチコミッショナー:中村雅 ●観衆:128人

[GK] 16 藤田涼加	出	[GK] 1 朝山美帆	出
→ 71'(1)竹下奏彩	場	[DF] 13 根本梨香子	場
[DF] 2 常田菜那	選	→ 68'(19)宮本樹奈	選
[DF] 13 宮迫たまみ	手	[DF] 16 和田莉愛	手
→ 68'(22)西林里恵		[DF] 4 成合鐘	
[DF] 29 秦美結		[DF] 10 岡未沙子	
[DF] 3 東菜月		[MF] 23 林玲花	
[MF] 4 鈴木千尋		[MF] 7 須田綾香	
[MF] 24 島野美央		[MF] 22 平坂咲希	
→ 59'(6)乃一綾		[MF] 15 奥田真歩	
[MF] 7 森仁美		→ HT(5)宮川真莉乃	
→ 68'(20)三橋明香		[FW] 6 浮田琴音	
[MF] 5 西川明花		[FW] 3 相田さくら	
→ 59'(9)沖野くれあ		→ 68'(11)矢野アンダ由嘉利	
[MF] 10 杉田亜未			
[FW] 11 小川志保			
10'森仁美(1-0), 24'56'杉田亜未(2-0)(4-0), 53'島野美央(3-0), 59'西川明花(5-0), 67'沖野くれあ(6-0), 89'三橋明香(7-0)	得点		

29 3回戦

セレッソ大阪堺レディース | 藤枝順心高校
4 [前半2-0 後半2-0] 0

●2021年12月11日 11:00 ●藤枝総合運動公園サッカー場 ●試合時間:90分 ●[主審]松尾久美子[副審]杉本美里/一木千広[第4の審判員]竹内清人 ●マッチコミッショナー:臼井郁夫 ●観衆:408人

[GK] 27 西中麻穂	出	[GK] 1 小野未織	出
→ 81'(21)山下莉奈	場	[DF] 4 吉田美優	場
[DF] 4 筒井梨香	選	→ 35'(22)加島希夏	選
[DF] 7 荻久保優里	手	[DF] 5 井手ひなた	手
[DF] 13 百瀧実結香		[DF] 14 安藤麻那	
→ 73'(5)前川美紀		[DF] 20 中井佑姫奈	
[DF] 22 白垣うの		[MF] 10 窓若日菜	
→ 65'(8)田中智子		[MF] 25 久保田真生	
[MF] 6 松本奈己		→ 81'(19)鈴木心菜	
[MF] 14 高和芹夏		[MF] 26 青井麻衣	
[MF] 18 宮本光梨		[FW] 9 齋藤花菜	
[FW] 3 田畑晴菜		→ 60'(28)高岡澤	
→ 65'(17)中谷莉奈		[FW] 15 山田歩美	
[FW] 10 小山史乃		[FW] 17 正野瑞菜	
[FW] 16 岩本まりの		→ 60'(30)下吉優衣	
32'松本奈己(1-0), 45+1'小山史乃(2-0), 55'高和芹夏(3-0), 66'百瀧実結香(4-0)	得点		

30 3回戦

静岡SSUアスレジーナ | オルカ鴨川FC
0 [前半0-1 後半0-0] 1

●2021年12月11日 10:30 ●真岡市総合運動公園 陸上競技場 ●試合時間:90分 ●[主審]近藤恭子[副審]山内恵美/門井美由紀[第4の審判員]齊藤清美 ●マッチコミッショナー:金嶋典之 ●観衆:149人

[GK] 21 高橋美春	出	[GK] 16 暁清流	出
[DF] 4 塩澤優	場	[DF] 5 新井純奈	場
[DF] 8 渡辺彩香	選	[DF] 4 鶴見綾香	選
→ 79'(20)宮下愛深	手	[DF] 27 山崎あや	手
[DF] 26 彦坂桃花		[DF] 2 渡部那月	
[MF] 2 山田優衣		[MF] 7 浦島里紗	
[MF] 13 高島尚音		[MF] 6 南山千明	
[MF] 15 原海七		[MF] 18 児玉耀	
→ HT(11)三輪玲奈		[FW] 20 河野有希	
[MF] 22 小泉玲奈		→ 57'(25)山田山田未	
[MF] 23 藤原加奈		[FW] 10 吉良知夏	
[FW] 9 土屋佑季		→ 90'(19)正野可菜子	
→ HT(3)金丸翔子		[FW] 9 齊藤彩花	
[FW] 18 三好茜		→ 57'(8)深澤里沙	
→ 79'(10)平野麻美			
	得点	32'浦島里紗(0-1)	

第2部 全試合公式記録

43 準々決勝

日テレ・東京ヴェルディベレーザ | ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

0 [前半0-1 後半0-2] 3

●2021年12月29日 13:00 ●アースケア敷島サッカー・ラグビー場
●試合時間:90分 ●[主審]千葉恵美[副審]宮崎真理/小野田伊佐子
[第4の審判員]井脇真理子 ●マッチコミッショナー:高橋信光 ●観
衆:465人

[GK] 1 田中桃子	出	[GK] 1 清水菜
[DF] 2 清水梨紗	場	[DF] 14 大熊環
[DF] 3 村松智子	選	→ 82'(21)石田菜々海
[DF] 33 岩清水梓	手	[DF] 4 林香奈絵
→ 67'(6)宮川麻都		[DF] 3 市瀬千里
[DF] 13 松田紫野		[MF] 5 田中真理子
[MF] 7 中里優		[MF] 8 岸川奈津希
→ HT(5)菅野奏音		→ 90+1'(25)藤尾さらら
[MF] 8 三浦成美		[MF] 6 今井裕里奈
[MF] 20 木下桃香		[MF] 2 藤代真帆
[MF] 14 北村菜々美		[MF] 10 鶴川実歩
→ 85'(11)遠藤純		→ 69'(7)南野亜里沙
[FW] 10 小林里歌子		[MF] 13 曾根七海
→ 85'(18)岩崎心南		→ 69'(18)安齋結花
[FW] 9 植木理子		[FW] 20 大澤春花
→ 67'(19)山本柚月		→ 82'(23)広瀬桜
	得点	42'大澤春花(0-1)、72'藤代真帆(0-2)、81'今井裕里奈(0-3)

40 4回戦

INAC神戸レオネッサ | 日テレ・東京ヴェルディメニナ

1 [前半0-0 後半1-2] 2

●2021年12月25日 11:00 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分 ●[主審]松尾久美子[副審]緒方実央/安陽陽子[第4の審判員]光田智乙 ●マッチコミッショナー:辺見康裕 ●観衆:551人

[GK] 18 山下杏也加	出	[GK] 1 野田にな
[DF] 19 竹重杏歌理	場	[DF] 37 青木夕菜
[DF] 5 三宅史織	選	[DF] 3 坂部幸菜
[DF] 16 西川彩華	手	[DF] 4 熊谷美希
[MF] 6 伊藤美紀		[DF] 5 池上聖七
[MF] 7 中島依美		[MF] 7 木村彩那
[MF] 17 成宮唯		[MF] 14 真城美香
[MF] 2 守屋都弥		[MF] 8 大山愛笑
→ HT(23)浜野まいか		[MF] 11 松永未夢
[FW] 10 杉田紀和		[FW] 9 橋渡百花
[FW] 9 田中美南		[FW] 10 土方麻那
→ HT(8)阪口朝乃		
[FW] 11 高瀬愛実		
79'浜野まいか(1-1)	得点	57'土方麻那(0-1)、89'橋渡百花(1-2)

37 4回戦

AC長野パルセイロレディース | 日テレ・東京ヴェルディベレーザ

0 [前半0-3 後半0-1] 4

●2021年12月25日 14:00 ●長野Uスタジアム ●試合時間:90分 ●[主審]兼松春奈[副審]吉澤久恵/井口朋恵[第4の審判員]菅賢太郎 ●マッチコミッショナー:上條一正 ●観衆:1,055人

[GK] 1 池ヶ谷夏美	出	[GK] 1 田中桃子
[DF] 2 肝付萌	場	[DF] 2 清水梨紗
[DF] 17 岡本祐花	選	[DF] 3 村松智子
[DF] 3 五嶋京香	手	[DF] 33 岩清水梓
[DF] 5 大河内友貴		→ HT(6)宮川麻都
→ HT(23)中貝夢		[DF] 13 松田紫野
[MF] 30 國澤志乃		[MF] 7 中里優
→ 61'(18)岩崎心南		[MF] 8 三浦成美
[MF] 18 伊藤めぐみ		[MF] 20 木下桃香
[MF] 8 住来菜夢		[MF] 14 北村菜々美
[MF] 10 瀧澤千聖		→ 68'(11)遠藤純
→ 56'(15)瀧澤莉央		[FW] 10 小林里歌子
[MF] 28 福村雪乃		→ 61'(19)山本柚月
→ 37'(19)藤田理子		[FW] 9 植木理子
[FW] 29 川船暁海		→ 61'(5)菅野奏音
→ 37'(14)泊志穂		
	得点	11'北村菜々美(0-1)、33'植木理子(0-2)、34'小林里歌子(0-3)、73'山本柚月(0-4)

44 準々決勝

大宮アルディージャVENTUS | 日テレ・東京ヴェルディメニナ

0 [前半0-1 後半0-3] 4

●2021年12月29日 16:03 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分 ●[主審]朝倉みな子[副審]高橋早織/吉澤久恵[第4の審判員]兼松春奈 ●マッチコミッショナー:辺見康裕 ●観衆:567人

[GK] 1 望月ありさ	出	[GK] 1 野田にな
[DF] 26 杉澤海星	場	→ 90'(16)ウルフジェンカ結束
→ 61'(19)村社沙理		[DF] 37 青木夕菜
[DF] 5 乗松瑠華	選	[DF] 3 坂部幸菜
[DF] 3 鮫島彩	手	[DF] 4 中村楓
[DF] 2 坂井優紀		[DF] 5 池上聖七
[MF] 25 村上真帆		[MF] 7 木村彩那
→ 87'(16)環愛季		[MF] 14 真城美香
[MF] 24 源間葉月		[MF] 8 大山愛笑
→ 61'(27)高橋美夕紀		[MF] 11 松永未夢
[MF] 7 山崎円美		→ 87'(13)川口歩奏
→ HT(29)野口彩佳		[FW] 9 橋渡百花
[MF] 13 仲田歩夢		→ 86'(28)須長穂乃果
→ 87'(11)小島ひかる		[FW] 10 土方麻那
[FW] 9 井上綾香		
[FW] 8 上辻佑実		
	得点	34'土方麻那(0-1)、51'大山愛笑(0-2)、57'橋渡百花(0-3)、80'松永未夢(0-4)

41 準々決勝

サンフレッチェ広島レジーナ | 三菱重工浦和レッズレディース

0 [前半0-0 後半0-2] 2

●2021年12月29日 13:03 ●ヤンマースタジアム長居 ●試合時間:90分 ●[主審]曾根末宇[副審]緒方実央/藤田美智子[第4の審判員]松尾久美子 ●マッチコミッショナー:山本弘之 ●観衆:1,001人

[GK] 1 木福瑠那	出	[GK] 1 池田咲紀子
[DF] 2 松原優菜	場	[DF] 11 清家貴子
→ 17'(13)谷口木乃実		→ 82'(24)島田芽依
[DF] 6 左山桃子	選	[DF] 7 高橋はな
[DF] 4 中村楓	手	[DF] 3 南萌華
[DF] 5 木崎あおい		[DF] 4 佐々木萌
[MF] 7 川島はるな		[MF] 10 安藤梢
→ 71'(19)齋原みず稀		[MF] 18 柴田華絵
[MF] 18 松原志歩		[MF] 16 水谷有希
[MF] 10 近賀ゆかり		→ 72'(2)藤代真帆
→ 61'(23)柳瀬楓葉		[FW] 8 深澤里沙
[FW] 26 立花葉		→ 81'(25)山田彩未
[FW] 9 上野真実		[FW] 9 齊藤彩花
→ 45+2'(17)大内梨央		→ 61'(20)河野有希
[FW] 11 中嶋淑乃		[FW] 20 大澤春花
→ 61'(20)島袋奈美恵		→ 90'(18)安齋結花
	得点	80'猪本光(0-1)、90+3'菅澤優衣香(0-2)

38 4回戦

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース | オルカ鴨川FC

1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2021年12月25日 11:00 ●広島広域公園第一球技場 ●試合時間:90分 ●[主審]藤田美智子[副審]萩原麻衣子/荒木裕里香[第4の審判員]岩村真斗 ●マッチコミッショナー:谷本和之 ●観衆:348人

[GK] 1 清水菜	出	[GK] 16 晚清流
[DF] 14 大熊環	場	[DF] 5 新井純奈
[DF] 4 林香奈絵	選	[DF] 4 鶴見綾香
[DF] 3 市瀬千里	手	[DF] 27 山幡あや
[MF] 5 田中真理子		[DF] 2 渡部那月
[MF] 8 岸川奈津希		[DF] 6 南山千明
[MF] 6 今井裕里奈		[MF] 7 浦島里紗
[MF] 24 城和怜奈		[MF] 18 児玉耀
→ 72'(2)藤代真帆		[FW] 8 深澤里沙
[MF] 10 鴨川実歩		→ 81'(25)山田彩未
→ 90'(25)藤尾さらら		[FW] 9 齊藤彩花
[MF] 7 南野亜里沙		→ 61'(20)河野有希
→ 72'(13)曾根七海		[FW] 10 吉良知夏
[FW] 20 大澤春花		
→ 90'(18)安齋結花		
	得点	65'鴨川実歩(1-0)

45 準決勝

三菱重工浦和レッズレディース | セレッソ大阪堺レディース

1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2022年1月5日 16:03 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]兼松春奈[副審]坊園真琴/萩原麻衣子[第4の審判員]宮崎真理 ●マッチコミッショナー:玉井朗 ●観衆:783人

[GK] 1 池田咲紀子	出	[GK] 21 山下莉奈
[DF] 11 清家貴子	場	[DF] 22 白垣うの
[DF] 7 高橋はな	選	→ HT(8)田中智子
[DF] 3 南萌華	手	[DF] 4 筒井梨香
[DF] 4 佐々木萌		[DF] 7 荻久保優里
[MF] 18 柴田華絵		[DF] 13 百瀧実結香
[MF] 10 安藤梢		[DF] 14 北川ひかる
[MF] 16 水谷有希		[MF] 16 園田悠奈
[MF] 8 猪本光		[MF] 20 山古瑠香
[MF] 19 塩越柚歩		→ 71'(5)川村優理
[FW] 9 菅澤優衣香		→ 79'(23)山本結菜
		[MF] 17 滝川結女
		[MF] 6 茨木美都葉
		[FW] 11 道上彩花
		[FW] 10 上尾野辺めぐみ
	得点	69'山小史乃観(0-1)

42 準決勝

アルビレックス新潟レディース | セレッソ大阪堺レディース

0 [前半0-0 後半0-1] 1

●2021年12月29日 13:00 ●サンガスタジアム by KYOCERA(京都府立京都スタジアム) ●試合時間:90分 ●[主審]一木千広[副審]中本早紀/桐原純子[第4の審判員]小泉朝香 ●マッチコミッショナー:松山博明 ●観衆:706人

[GK] 1 平尾知佳	出	[GK] 21 山下莉奈
[DF] 19 田中美和	場	[DF] 22 白垣うの
→ 90'(9)見野楓香		→ 82'(8)田中智子
[DF] 15 イヒョギョン	選	[DF] 4 筒井梨香
[DF] 4 三浦紗津紀	手	[DF] 7 荻久保優里
[DF] 14 北川ひかる		[DF] 13 百瀧実結香
[MF] 16 園田悠奈		[MF] 18 宮本光梨
[MF] 20 山古瑠香		[MF] 14 高和芹夏
→ 71'(5)川村優理		[MF] 6 松本奈己
→ 79'(23)山本結菜		[FW] 3 田畑晴菜
[MF] 17 滝川結女		[FW] 16 岩本まりの
[MF] 6 茨木美都葉		→ 90+3'(17)中谷莉奈
[FW] 11 道上彩花		[FW] 10 山小史乃観
[FW] 10 上尾野辺めぐみ		
	得点	69'山小史乃観(0-1)

39 4回戦

大宮アルディージャVENTUS | スフィーダ世田谷FC

2 [前半0-1 後半2-0] 1

●2021年12月25日 11:00 ●ケースデンキスタジアム水戸 ●試合時間:90分 ●[主審]杉野杏紗[副審]桐原純子/伊藤実奈子[第4の審判員]成田裕之 ●マッチコミッショナー:本吉喜和 ●観衆:701人

[GK] 1 望月ありさ	出	[GK] 1 石野妃芽佳
[DF] 26 杉澤海星	場	[DF] 2 根本彩夏
[DF] 5 乗松瑠華	選	[DF] 5 渡辺瑞穂
[DF] 3 鮫島彩	手	[DF] 4 戸田歩
[DF] 2 坂井優紀		[DF] 16 奈良美沙季
→ 65'(19)村社沙理		[MF] 15 三本紗矢香
[MF] 25 村上真帆		[MF] 11 金子ゆい
[MF] 24 源間葉月		[MF] 11 長崎茜
→ 54'(27)高橋美夕紀		[FW] 10 中山まひる
[MF] 7 山崎円美		→ 85'(14)瀧下まひる
→ 90'(25)藤尾さらら		[FW] 20 櫻本芹菜
[MF] 13 仲田歩夢		→ 81'(9)堀江美月
→ 90+3'(11)小島ひかる		[FW] 7 中山さつき
[FW] 9 井上綾香		[FW] 7 村上真生
[FW] 8 上辻佑実		
	得点	10'オウンゴール(0-1)

第3部 参加48チーム・登録選手

- 1 INAC神戸レオネッサ
- 2 星川敬
- 3 18回目 / 6回
- 4 4回戦
- 5 武仲麗依・守屋都弥・牛島理子・三宅史織・伊藤美紀・中島依美・阪口萌乃・田中美南・杉田妃和・高瀬愛実・京川舞・羽座紀梓・西川彩華・成宮唯・山下杏也加・竹重杏歌理・長江伊吹・菊池まりあ・浜野まいか・水野路奈・ファン アヒョン・ロスニアズマン・後藤三知・戸根有野里・山下沙耶香・川上然

- 1 サンフレッチェ広島レディース
- 2 中村伸
- 3 初出場
- 4 進々決勝
- 5 木福瑠那・松原優菜・呉屋絵理子・中村楓・木崎あおい・左山桃子・川島はるな・増矢理花・上野真実・近賀ゆかり・中嶋淑乃・谷口木乃実・山口千尋・小川愛・久保田晴香・大内梨央・松原志歩・齋原みず稀・鳥袋奈美恵・藤田七海・柳瀬楓菜・内田好美・塩田満彩・立花菜・福元美穂

なでしこリーグ1部 12チーム

- 1 オルカ鴨川FC
- 2 小川貴史
- 3 6回目
- 4 4回戦
- 5 國香想子・渡部那月・成岡真鈴・鶴見綾香・新井純奈・南山千明・浦島里紗・深澤里紗・齊藤彩花・吉良知夏・河瀬淑乃・吉田亜寿佳・齋藤敏子・晚清流・洲上野乃佳・児玉耀・正野可菜子・河野有希・古館知都・三田幸望・山田優衣・山田彩未・横濱なな子・山幅あや・大間由樹・鈴木陽

- 1 スフィアダ世田谷FC
- 2 神川明彦
- 3 9回目
- 4 4回戦
- 5 石野妃芽佳・根本彩夏・柏原美羽・戸田歩・渡辺瑞穂・下山山志帆・中山さつき・熊谷汐華・堀江美月・大竹麻友・長崎茜・金川ゆい・瀧下まひる・三本紗矢香・奈良美沙季・竹島加奈子・安田祐美乃・榎本芹菜・岸星美・村上真生・伊藤綾花・白崎唯・野村智美

- 1 日体大FIELDS横浜
- 2 大茂茂久
- 3 23回目
- 4 1回戦
- 5 伊能真弥・毛利美佑・金平莉紗・関口真衣・富岡千宙・松永未衣奈・森田美紗希・大西若菜・李誠雅・久保田明未・鷺澤未来・丸山ちづき・高原天音・軍司美玖・金子麻優・高橋亜美・谷口清夏・岡本亜子・渡部麗・田村かのん・加藤ゆあ・高橋恵美理・千葉菜々々・小牧明日香・八木実有・加藤明星・森文佳・知久奈菜穂・森本紗也佳・三浦晴香

- 1 ニッパツ横浜FCシーガルズ
- 2 要田勇一
- 3 8回目
- 4 2回戦
- 5 小暮千晶・高村ちさと・中條結衣・中居未来・吉田風沙・権野貴子・小林ひなた・宮下七海・平川杏奈・内田美鈴・大島瑞穂・小須田瑠菜・今田怜那・片山由菜・越後希波・小原由梨愛・浦海綾・小田川真奈・渡辺琉那・山本珠優・丸尾梨菜・沖野のり・富田美波・室井胡心・田倉麗珠

- 1 大和シルフィード
- 2 藤巻睦子
- 3 5回目
- 4 1回戦
- 5 水口菜優・菅能夏海・西山春香・武田菜津美・小針夏夏・富山瞳・榎谷岬・中野ひかり・松浦渚・堀長江・長瀬あゆ・山根唯・須志裕貴子・高橋夏純・平岡瑞希・濱本まりん・梅津美絵・白井未来・鈴木佑和子・須田胡桃・島村友妃子・新田寿瑞・早狩夏菜・長谷川愛

- 1 NGUラブリッジ名古屋
- 2 磯村健
- 3 14回目
- 4 2回戦
- 5 都倉瑠里・菅百花・瀬倉春陽・伊藤優海・安部由希子・高島瑠里子・田島光代・市原理奈・竹林佑真・三浦桃・加藤もも・八神友梨弥・長谷川朋佳・横澤真衣・濱田百華・清水あかね・江崎杏那・上田寿里・市川実季・木下菜摘・河合英恵・水野亜美・牧原玲奈・平尾愛穂・山本ゆり・川尻真由・阿部理絵

- 1 伊賀FCくノ一三重
- 2 大嶺直人
- 3 33回目 / 3回
- 4 4回戦
- 5 竹下奏彩・常田菜那・東菜月・鈴木千尋・西川明花・乃一綾・森仁美・作間琴莉・沖野くれあ・杉田亜未・小川志保・宮迫たまみ・片山真鞠・町田朱里・藤田涼加・常田麻友・江頭一花・山崎愛海・三橋明香・西林里恵・島野美央・渡邊凛・中村ひかる・村上夏奈瀬・米川愛梨・秦美結

- 1 コノミヤ・スベランツァ大阪高槻
- 2 種田佳織
- 3 21回目
- 4 2回戦
- 5 長谷好美・櫻田彩乃・上西可奈子・宮地明日翔・谷本景・浅野未希・中野真奈美・島田善愛・保坂のどか・永末真理子・渡邊佳奈美・町田雅・澤田由佳・左子五月・朝井出祐子・北浦美帆・森瀬希咲・小山紗也加・森迫あやめ・高橋悠・小黒桃華・狭間美佳・辻美穂

- 1 チーム名
- 2 監督名
- 3 皇后杯出場回数(今大会含む) / 過去優勝回数
- 4 第43回大会成績
- 5 第43回大会登録選手(30名)

WEリーグ 11チーム

- 1 マイナビ仙台レディース
- 2 松田岳夫
- 3 10回目
- 4 4回戦
- 5 齊藤彩佳・北原佳奈・市瀬菜々・高平美憂・西澤日菜乃・原衣吹・隅田凜・池尻菜由・宮澤ひなた・浜田遥・長野風花・福田ゆい・國武愛美・宮本華乃・松本真未子・武田菜々子・奥川千沙・佐藤楓・白木星・福田まい・万屋美穂・佐藤瑞夏・成田恵理・船木里奈・西野朱音・矢形海優

- 1 三菱重工浦和レッズレディース
- 2 楠瀬直木
- 3 17回目
- 4 優勝
- 5 池田咲紀子・長船加奈・南萌華・佐々木蘭・上野紗稀・栗島朱里・高橋はな・猶本光・菅澤優衣香・安藤梢・清家貴子・福田史織・長嶋玲奈・植村祥子・柳澤紗希・水谷有希・遠藤優・柴田華絵・塩越柚歩・高橋美紀・文道美音・一法師央佳・柴山史菜・島田芽依・河合野乃子

- 1 大宮アルディージャVENTUS
- 2 岡本武行
- 3 2回目
- 4 進々決勝
- 5 望月ありさ・坂井優紀・鮫島彩・長嶋洸・乗松瑠華・有吉佐織・山崎円美・上辻佑実・井上綾香・阪口夢穂・小島ひかる・仲田歩夢・大熊良奈・環愛季・鳥海由佳・田嶋みのり・村社沙理・日野李保・スタンポー華・今村南海・久保真理子・源間葉月・村上真帆・杉澤海星・高橋美夕紀・クレリス エリン カトラー・野口彩佳

- 1 ちふれASエルフェン埼玉
- 2 半田悦子
- 3 22回目
- 4 4回戦
- 5 浅野菜摘・木下菜・松久保明梨・橋沼真帆・瀬戸口梢・瀬野有希・山本絵美・河野朱里・山本菜桜美・サリナ・ホルデン・荒川恵理子・又吉果奈・加藤千佳・浅田真理奈・松井彩乃・橋麗衣・西川裕香・岸みのり・船田麻友・小島美玖・中村ゆしか・吉田莉香・祐村ひかる

- 1 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
- 2 猿澤真治
- 3 24回目
- 4 準優勝
- 5 清水菜・藤代真帆・市瀬千里・林香奈絵・田中真理子・今井裕里奈・南野亜里沙・岸川奈津希・大滝麻未・鴨川実歩・小澤寛・曾根七海・大熊環・程思瑜・安齋結花・アレックス ティリアック・大澤春花・石田菜々海・井上千里・広瀬桜・城和怜奈・藤尾きらら・クインリー クエザダ

- 1 日テレ・東京ヴェルディレベラーズ
- 2 竹本一彦
- 3 39回目 / 15回
- 4 進々決勝
- 5 田中桃子・清水梨紗・村松智子・土光真代・菅野奏音・宮川麻都・中里優・三浦成美・植木理子・小林里歌子・遠藤純・松田紫野・北川菜々美・西村清花・岩崎心南・山本柚月・木下桃香・黒沢彩乃・宇津木瑠美・若清水梓

- 1 ノジマステラ神奈川相模原
- 2 北野誠
- 3 10回目
- 4 4回戦
- 5 久野吹雪・鈴木綾華・石田みなみ・畑中美友香・大賀理紗子・松原有沙・平田ひかり・北方沙映・脇阪麗奈・佐々木美和・野島咲良・井上陽菜・工藤真子・池尻風沙・小林海青・福住青空・石田千尋・松本菜奈加・下山莉子・伊東珠梨・中山未咲・西郡菜優・シンディ ケーニヒ・ロベス サンデイ・根本望央

- 1 AC長野パルセイロ・レディース
- 2 小笠原唯志
- 3 10回目
- 4 4回戦
- 5 池ヶ谷美美・肝付萌・五嶋京香・池田玲奈・大河内友貴・大久保舞・八坂芽依・住永楽夢・中村恵実・瀧澤聖聖・三谷沙也加・小林和音・泊志穂・瀧澤莉央・鈴木日奈子・岡本祐花・伊藤めぐみ・藤田理子・村上日奈子・伊藤有里彩・新井翠・中員夢・橋谷優里・奥津礼菜・國生乃愛・小鍛冶治・福村雪乃・川船晚海・國澤志乃

- 1 アルビレックス新潟レディース
- 2 村松大介
- 3 19回目
- 4 進々決勝
- 5 平尾佳佳・浦川瑠子・三浦紗津紀・川村優理・茨木美都葉・園田瑞貴・石淵萌実・児野楓香・上尾野辺めぐみ・道上彩花・加藤菜・北川ひかる・イヒョギョン・園田悠奈・滝川結女・中江萌・田中美和・山谷瑠香・高橋智子・田中朱里・山本結菜・長沢菜月・武田あずみ・沼尾圭都・千野七海

46 準決勝

ジェフユナイテッド市原・千葉レディース | 日テレ・東京ヴェルディレベラーズ

1 [前半1-0 後半0-0] 0

●2022年1月5日 19:03 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●[主審]小泉朝香[副審]中本早紀/一木千広[第4の審判員]曾根未宇 ●マッチコミッショナー:中島正人 ●観衆:1,006人

[GK] 1 清水菜	出	[GK] 1 野田にな
[DF] 14 大熊環	場	[DF] 37 青木夕菜
[DF] 4 林香奈絵	場	[DF] 3 坂部幸菜
[DF] 3 市瀬千里	選	[DF] 4 熊谷美布
[MF] 5 田中真理子	選	[DF] 5 池上聖七
[MF] 8 岸川奈津希	手	[MF] 7 木村彩那
[MF] 6 今井裕里奈		[MF] 14 眞城美香
[MF] 2 藤代真帆		[MF] 8 大山愛笑
[MF] 10 鴨川実歩		[MF] 11 松永未夢
→ 61'(7)南野亜里沙		[FW] 9 樋渡百花
[MF] 13 曾根七海		[FW] 10 土方麻穂
→ 61'(18)安齋結花		
[FW] 20 大澤春花		
→ 84'(24)城和怜奈		

8 鴨川実歩(1-0) 得点

47 決勝

三菱重工浦和レッズレディース | ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

1 [前半0-0 後半1-0] 0

●2022年2月27日 14:04 ●サンガスタジアム by KYOCERA(京都府立京都スタジアム) ●試合時間:90分 ●[主審]千葉恵美[副審]手代木直美/緒方実史[第4の審判員]草刈和江 ●マッチコミッショナー:布瀬直次 ●観衆:1,375人

[GK] 1 池田咲紀子	出	[GK] 1 清水菜
[DF] 11 清家貴子	場	[DF] 14 大熊環
[DF] 7 高橋はな	場	[DF] 4 林香奈絵
[DF] 3 南萌華	選	[DF] 3 市瀬千里
[DF] 4 佐々木蘭	選	[MF] 5 田中真理子
[MF] 18 柴田華絵	手	[MF] 8 岸川奈津希
[MF] 10 安藤梢		[MF] 6 今井裕里奈
→ 90+2'(5)上野紗稀		[MF] 2 藤代真帆
[MF] 16 水谷有希		→ 78'(9)大滝麻未
→ 81'(17)遠藤優		[MF] 13 曾根七海
[MF] 8 猶本光		→ 65'(18)安齋結花
[MF] 19 塩越柚歩		[FW] 7 南野亜里沙
[FW] 9 菅澤優衣香		[FW] 10 鴨川実歩
		→ 65'(20)大澤春花

67 菅澤優衣香(1-0) 得点

80 安藤梢 警告



決勝・三菱重工浦和レッズレディース vs ジェフユナイテッド市原・千葉レディース

第3部 参加48チーム・登録選手

① 追手門学院高校

- ② 大橋忠仁
- ③ 初出場
- ④ 1 回戦
- ⑤ 西尾今日子・島野杏梨・東優希・小堀菜緒・森早苗・草水胡桃・富江満帆・中内花咲・安田直生・徳弘海羽・太田風紗・北野未優・金谷こころ・石橋花子・藤田祐穂・松田ゆきの・西杏琳・堤楓花・中野涼花・秋田悠里・庄司佐和子・京田七海・福留瑠那・高谷瑠那・大田原結香・永井寧来・馬場光優・伊左治さくら・杉山杏梨沙・木田陽花

① 大阪体育大学

- ② 石居宜子
- ③ 14 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 松井小夏・樋口佳那子・藤田菜那・居場真奈美・野村美巴・荒木実瑛・山根夢乃・萩野ねね・的場望杏・宮本春花・神門奏奈・黒田一紗・安藤奈都美・小山莉穂・矢野梨紗・加井菜月・津田明日朔・白尾朱寧・速見リカコ・平岩依々菜・川村桃子・桐葉々笑・桂亜依・加藤未来・岡村陽舞莉・辻原莉音・赤尾侑里・長谷原彩音・石川真愛永・黒松りぼん

① ディアヴォロツ広島

- ② 真清健一
- ③ 初出場
- ④ 1 回戦
- ⑤ 清水亜紀・池崎愛・安東麻耶・石川詩織・宮崎祥子・西園雪乃・西尾麻奈美・岡野有里子・赤嶺美月・足立英梨子・今井新那・山崎萌子・川越あきら・内藤友花

① ディオツサ出雲 FC

- ② 塚陽二
- ③ 3 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 長竹亜依・井上葉月・柳生千亜希・伊藤明里・住徳彩・山本早織・坂田絵里・友近真那・清野彩・定国佳奈・神山ゆい・浅海早希・市原佳菜・是枝佑紀・佐藤瑞貴・柳瀬絵莉・川相愛里・岸原理菜・大政七生・前田香名子・竹下稚那・池田汀菜・多田彩華

① 徳山大学

- ② 田中龍哉
- ③ 6 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 湯浅里香子・中村友香・原田結奈・松久保葵子・神谷佳穂・下地菜穂・谷穂花・杉岡真里奈・久山玲奈・伊藤玲奈・矢島由芽・八田七海・高橋美樹・池澤のの・椎屋美瑠・川瀧麗・宮武里奈・坪根妃瑠・近藤千寛・木村中里奈・母部真帆・篠田梨々花・油布亜優美・松井優佳・大西朝菜・石井里奈・河野友香

① 吉備国際大学 Charme 岡山高梁

- ② 太田真司
- ③ 17 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 杉野陽咲・岡田愛海・余田清華・鶴木瑠南・阿部楓子・高島瑞希・川名みのり・小山莉奈・長部汐莉・加戸由佳・西村留夏・西川紗奈・井原夏稀・中村怜愛・板倉楓・川名遥香・山田あかり・中野咲・西原紀恵・蜂須賀桃花・石成優希・古谷優理亜・逸見桃子

① 四国学院大学 香川西高校

- ② 菊地亜紗子
- ③ 3 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 秋山来実・松村紗弥・浜浦美穂・松永一紗・松田愛莉・金銅望海・西山菜々・人見有咲・杉本美和・酒野円花・石橋春果・上田空那・市川幸来・橋詰心楓・低田妃莉音・山本英玲奈・山村彩乃・原田愛理・石橋鈴菜・山崎愛花・清岡千彩・川満恋音・小栗暎遥・野村愛菜・原琴音

① 東海大学付属福岡高校

- ② 山本ひろな
- ③ 2 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 池田航希・津田杏桜子・小緑瑠夏・高橋望華・井上麗叶・梅崎彩色・西川綾子・吉村あかり・松崎こころ・香椎彩香・上永ひかり・西崎帆花・津田和奏・宮里心潮・村上純夏・山名暎理・徳永深南・中村亜海・松田てんり・浜崎こころ・赤嶺愛海・谷口瑠依・久本千紗・徳永めい・高木萌・山田心優・今村涼風・井手口里穂・黒野美紅・吉村あひ

① ヴィアマテラス宮崎

- ② 秋本範子
- ③ 初出場
- ④ 1 回戦
- ⑤ 河邊花観・西美咲・永野桃子・鈴木美夏・切通真央・有馬りこ・嘉数飛鳥・野部佑奈・永置裕梨・橋谷伊織・松岡杏・島田綾子・馬場ひなの・福久智子・齊藤夕真・松元泉穂・飯内瑠那・伊藤ゆき・坂本理保・村上すず・税田琳花・田中娃李・倉谷也海・倉田悠愛・森千晴・坂松麗伽・川口莉心・中尾菜・黒木彩純・田中真子

① 福岡 J・アンクラス

- ② 河島美絵
- ③ 15 回目
- ④ 3 回戦
- ⑤ 朝山美帆・安田早希・相田さくら・成合瞳・宮川真莉乃・浮田琴音・須田綾香・加藤真理・佐藤美月・岡末沙子・矢野アマダ由嘉利・根本梨香子・柳田詩織・奥田真歩・和嘉莉愛・水流あやか・宮本樹奈・河野瑠奈・平坂咲希・林玲花・藤崎愛乃・佐藤アイリーン・田頭陽子

① ジェフユナイテッド市原・千葉レディース U-18

- ② 山下翼
- ③ 4 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 佐々木里玲・内田果菜・鈴木京響・伏谷香穂・塚本美来・谷口真由・稲山美優・遠藤真緒・高松芽衣・山崎綾乃・錦織美紀・菅野日向葵・増田咲良・池田藍子・宮崎ひかり・足立楓・岩下梨・大塚彩希・田村亜沙美・原媛凜・吉岡里奈子・宮内愛美・大熊茜・吉福紗帆・辻彩花・荒井珠穂・宇野杏奈・根津里莉日・山本奈波・吉野心

① 筑波大学

- ② 平嶋裕輔
- ③ 4 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 清村珠幸・中戸川紗理・谷井沙樹・朝倉陽菜・蓮輪真琴・野嶋彩未・安部美菜乃・千葉玲海菜・大橋夏希・長谷川瑞穂・稲富真菜・太田芽依・押崎歌・月東優季乃・森下遥菜・玉村如捺・野島優希子・河部真依・梶井風薫・佐伯香穂・山田未優羽・菅野希咲・羽岡愛望・山口かの子・大海優希・三好真由・森本梨梨・荒井由芽・園道多起・大池布々子

① 神奈川大学

- ② 澤野宏之
- ③ 8 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 森藤凜・本多実夏子・鈴木彩心・磯部美夏・平井杏幸・池口響子・鈴木智樹・望月麻央・岡岡理子・小野奈菜・高橋杏奈・松井里央・若杉千里子・荒川結日・蓮見真悠・川北美空・平田ひなの・松本梨枝・津田真凜・高野瀬紫苑・渡邊澪・吉田優菜・金子麻希・片野彩花・鈴木寛那・加田菜・宮田あすか・堀井綾乃・長友優・中館郁帆

① SEISA OSAレィア湘南 FC

- ② 柄澤俊介
- ③ 初出場
- ④ 2 回戦
- ⑤ 浅越千裕・夏目萌由・池座綾花・高橋未有・百武初樹・山室佳代・遠藤彩穂・高橋沙矢香・塩野海風・鈴木陽笑・黒古ひとみ・加藤弥紀・長山明花・内海佑南・高井咲都・森美礼亜・阿久井泉・武莉子・鈴木真央・國部碧・宮本和心・中島咲友菜・国吉花吏笠・小川琴子・山本怜・出濱花音・坪井菜凜・中野希音・小石川叶夢・遠藤希々花

① JAPANサッカーカレッジレディース

- ② 繁田真名美
- ③ 8 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 土屋咲綺・兜純香・鈴木優心・大貫楓夏・大井花鈴・森田心・面来佑夏・山本菜枝・岩田こもぎ・伊藤凜莉・北沢明未・田中ことみ・砂川莉里佳・峰岡穂華・白井愛莉・荒川結香・山崎真美・村松真帆・旭実月・柚留木咲希・清水美来・武田夏凜・高木流華・斉藤百音

① JFAアカデミー福島

- ② 山口隆文
- ③ 14 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 服部茜沙香・佐藤朱莉・石川くらら・石川璃音・内村心優・佐々木里玲・林愛花・濱野穂乃香・松窪真心・太田萌咲・中村晏実・藤田智陽・米田百佳・谷川萌々子・吉岡心・古賀塔子・金成瑠那・鹿島彩莉・長田莉香・長縄莉央・福田真央・樋口梨花・木村未来・名木野桃香・筒井まつり・原ひばり・松井望花・柳愛花・旭田好里・林椿

① 静岡SSUアスレジーナ

- ② 本田美登里
- ③ 13 回目
- ④ 3 回戦
- ⑤ 山田優衣・金丸翔子・塩澤優・矢野粧子・森田和伽・渡辺彩香・土屋佐津季・平野麻美・三輪玲奈・高島純香・兼越令奈・原海七・河合菜奈・藤田桃加・三好茜・小池真理・宮下愛蓮・高橋美菜・小泉玲奈・藤原加奈・岩本有叶・川畑あ・彦坂桃花・村上賀梨・佐々木彩乃・中林美南海・小島知佳子・島田有季帆・長谷川愛花・浅井絵里香

① 藤枝順心高校

- ② 中村翔
- ③ 15 回目
- ④ 3 回戦
- ⑤ 小野未織・松崎花菜・伊豆丸和香・吉田美優・井手ひなた・河村菜奈・栗田桃子・堀内意・齋藤花菜・窓岩日菜・兵庫生芽・仁藤智一・浅田幸子・安藤麻那・山田歩美・三宅怜・正野瑠菜・ペアド・サマー・鈴木心菜・中井佑姫奈・菊地優杏・加島希夏・濱野ゆき・鈴木愛理沙・久保田真生・青井麻衣・大川和流・高岡澤・中出朱音・下吉優衣

① ヴィアアイン三重レディース

- ② 森岡三
- ③ 2 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 切畑琴乃・市川苑佳・河合美月・津永佳琳・坂崎希・小松優希・山口紗矢・福本純子・森文乃・押田彩・伊藤実咲・長谷川優・加藤優子・中村恋菜・南知穂・矢橋美央・西村結・清水紀良里・杉本真希・大宮司晴菜・馬場愛唯美・川口あみ・片野田珠・佐々木彩・菱田恋・本間愛佳

① セレツ大阪堺レディース

- ② 竹友也
- ③ 7 回目
- ④ 準決勝
- ⑤ 福永絵梨香・森中陽菜・田畑晴菜・筒井梨香・前川美紀・松本奈己・救久保優里・田中智子・善積わらい・小山史乃・百瀬実結香・高和芹夏・古澤留衣・岩本まりの・中谷莉奈・宮本光梨・四海結緒奈・玉櫻ことの・山下莉奈・白垣の・浅山菜穂・西中麻穂

① AS/ハマルレピオン

- ② 坂元要介
- ③ 8 回目
- ④ 3 回戦
- ⑤ 垣内愛菜・沼田倫子・恒益泰実・小島和希子・小池快・吉田紫穂・本多由佳・武田裕季・新堀華波・千葉園子・巴月優希・大久保萌・杉田めい・米田早希・岡倉海香・中野里子・青山美里・久永望生・高木惠生・米里ひなた・増田玲那・高橋楓姫・嶋林美花・谷島利実・村山彩・川野愛華・入江未希

① アンジュヴィオレ広島

- ② 中村宏紀
- ③ 9 回目
- ④ 3 回戦
- ⑤ 渡部豊子・富田実佑・小川優花・有田佳奈・山岸夢歩・松田遥奈・本藤理佐・阪中澤・斉藤礼佳・神田若帆・宮本果実・後藤亜瑞・松田早和・金重理沙・田中幸奈・清水杏奈・竹ノ谷好美・松山夢・鈴木双葉・出口春奈・新城舞・吉吉茜音・杉原遥波・島田優依菜・島村公美子・渡谷祥乃・川崎咲耶

① 愛媛 FC レディース

- ② 赤井秀一
- ③ 13 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 三田一紗代・松永早姫・上村彩華・井口遥菜・大矢門佳・阪本未雨・大矢歩・松本苑佳・井之脇朱音・高橋杏奈・村上朱音・鈴木紗理・仲松叶実・山田仁衣奈・横山亜依・佐藤比香理・三木良美・藤根有彩・山中紗織・桜井由衣香・荒島彩佳・加藤美咲・今蔵綾乃・鈴木淳菜・吉原南平・塚万貴・佐喜真真・安藤百合香・河本紗菜

地域代表 25 チーム

① ノルディア北海道

- ② 窪岡美樹
- ③ 12 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 青柳麻理鈴・行田瑠衣・尾崎千春・湊明穂・松山智・永松沙季・渡邊真結子・渡邊明日香・三浦唯・音石千尋・大家梨穂・丸形梨恵・上村咲実・大沼萌百葉・澤田法味・鈴木麻理菜・鈴木環子・宇野麗依・姜美蘭・最上愛里・森優菜・井久保菜枝・本間麻那・西野菜々華・本間詩帆・大関美優

① 北海道文教大学附属高校

- ② 清野訓晴
- ③ 12 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 高見咲希・鶴間みのり・河瀬悠良・金井里和・篠原百穂・小椋沙弥・及川小枝・中島智香・宮下侑奈・江藤里桜奈・猪又月菜・河瀬望乃加・澤野帆乃佳・小林悠夏・高谷こころ・國井麻耶・佐々木愛・榎木真帆・坂東南・藤沢萌・赤松佑衣・駒水那名・生井千晶・坂尾光梨・井園美咲・清家音々・佐藤菜月・野田愛華・江田依鞠・矢津田明莉

① 仙台大学

- ② 黒澤尚
- ③ 7 回目
- ④ 1 回戦
- ⑤ 齊藤菜々香・小沼優真・藤田真帆・金子紗季・三条理緒・加藤愛・豊後彩香・後藤渚月・小河原彩花・山口歌子・釜坂慧・館崎里帆・脇田紗紗・齋藤美月・山田萌々花・加村ななみ・渡邊さくら・北山夢佳・加藤更紗・西村笑理菜・伊東萌衣・菅尾舞雪・石谷萌々菜・奥山空・千葉美咲・齋藤千夏・新開花帆・佐藤和

① 日テレ・東京ヴェルディメニーナ

- ② 坂口佳祐
- ③ 17 回目
- ④ 準決勝
- ⑤ 野田にな・坂部幸菜・熊谷美布・池上聖七・安積和季・木村彩那・大山愛笑・樋渡百花・土方麻那・松永未夢・小島里子・川口歩夢・眞城美希・本多桃華・ウルフジエカ結実・伊藤花恋・鈴木温子・新井萌未・久山紗季・松岡瑛菜・林心春・石川麗奈・佐藤色・式田和・朝生珠実・須長穂乃果・梅本恵・今野直香・青木夕菜・今ゆづり

① FCふじざくら山梨

- ② 菅野将晃
- ③ 初出場
- ④ 1 回戦
- ⑤ ツァイ ミンロ・松原ゆき・松岡沙由理・高山紗希・杉村美星・工藤麻未・田中里穂・金井奈苗・清水千陽・中塚理加・風間優希・鈴木和遥・南條里緒・戎谷亜美・辻野友子・井原美波・広沢実佳子

① 早稲田大学

- ② 福田あや
- ③ 14 回目
- ④ 2 回戦
- ⑤ 近澤澤菜・船木和夏・堀内璃子・後藤若菜・ブラフ シヤーン・蔵田あかり・並木千夏・廣澤真穂・加藤希・高橋穂・黒柳美裕・真田彩葉・関陽南子・吉野真央・石田心菜・井上萌・三谷和華奈・笠原純乃・浦部美月・丸山翔子・夏目歩美・渡邊奈美・大森美南・藤田智里・木南花菜・栗田彩令・白井美羽・田頭花菜・築地育・生谷幸々



日本サッカーの発展のため、
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER

TOYOTA



molten[®]
For the real game

TECHNICAL PARTNER

GREENPROJECT PARTNER

PHILIPS

TOA
東亜道路工業

FUJITA
Daiwa House Group[®]

JYD SUPPORTER

 **日本総研**
The Japan Research Institute, Limited

Deloitte.
デロイト トーマツ

The Pokémon Company

JYD





JFL便り

JFL事務局

<http://www.jfl.or.jp/>



第24回大会について

日本フットボールリーグ 事務局長 上保 毅彦

昨シーズンのJFLは一昨年同様新型コロナウイルス感染症の影響からシーズン中もリモートマッチ（無観客試合）で開幕しました。また有観客になってからもさまざまな制限がある中での試合開催となりました。ホーム&アウェイの2回戦総当たりのリーグ戦は3月14日に開幕し12月5日に終了。そして12月18日にはJFL・地域入れ替え戦も開催され、全日程を無事終了することができました。

第24回となる2022シーズンは、大会方式を昨年同様1シーズン制の2回戦総当たりリーグ方式（ホーム&アウェイ方式）で実施しました。チーム構成は全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2021を勝ち抜き、JFLとの入れ替え戦にも勝利したクリアソン新宿が新たに入会。第23回JFLで優勝したいわきFCがJ3に昇格し、昨シーズン17位でクリアソン新宿との入れ替え戦で敗れたFC刈谷は残念ながら地域リーグへ降格しました。これにより計16チームがアマチュアサッカーの頂点を目指して戦います。

第16回大会以来となる前年覇者不在のリーグ戦で、最多9回の優勝を誇る昨年2位のHonda FCが3年ぶりの優勝なるか、また、新入会チームの上位進出はあるのか。そしてJリーグ百年構想クラブのJ3入会を目指した戦いには、三浦知良選手が加入した鈴鹿ポイントゲッターズをはじめ、今シーズンも注目が集まりそうです。

今シーズンもコロナ禍の影響により、試合運営や観戦においてもさまざまな制限があるかもしれませんが、試合においては「これぞ全国リーグ」というプレーで来場者や視聴者を元気づけるとともに、満足感のあるリーグ戦にしたいと考えております。

第24回JFLのキャッチフレーズ「ひと味違うプレーで魅せろ！」が表す通り、日頃から厳しい練習を積み重ねた選手たちによって生まれる「ひと味違った」鮮やかなプレーがスタジアムを盛り上げていくことでしょう。

また、リーグとして毎年目標としている「異議を示さない」こと、JFLに関わる人々（サッカーに関わる皆さん）と共に「リスペクト」の気持ちを持ち、スタジアムに来場するファン・サポーターのみならず、試合映像を見ても「満足」してもらえるような試合を、北は青森県から南は宮崎県まで各試合会場にて繰り広げたいと思います。



第24回大会のビジュアル

JFL便り

ヴィアティン三重

<https://www.veertien.jp/fc/>



理念と共に、悲願のJへ

ヴィアティン三重 選手兼営業担当 穂積 諒

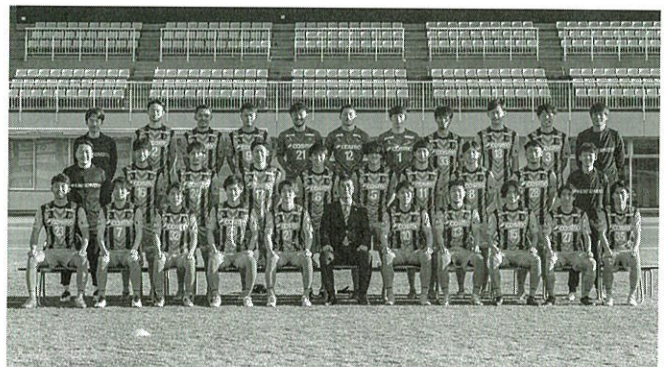
ヴィアティン三重は、サッカーをはじめとした10競技にわたるスポーツチームを運営する総合型地域スポーツクラブです。「子どもたちを笑顔に、地域と共に夢と感動を。」の理念を掲げ、地域に根ざした活動を続けています。

2012年1月14日に創立した当クラブは、今年で10周年を迎えました。創立当初から活動している男子サッカーは、三重県初となるJリーグチーム誕生を目標にしており、今年はJFL6年目のシーズンを迎えます。

2020年にJリーグ百年構想クラブに認定され、J3ライセンスを取得しましたが、順位条件だけ達成できず昇格まであと一步のところまで涙をのみました。より昇格の期待が高まった2021年はクラブ初となるシーズン途中での監督交代がありました。監督交代後は7試合負けなしと巻き返しを図りましたが、リーグ終盤は勝利を積み重ねることができず11位でシーズンを終えました。

そして今年は、「SYMBOL OF MIE - 三重の象徴たれ -」(シンボル オブ ミエ)をスローガンに掲げ、三重県を象徴する強いチームを目指します。監督には新たに地元・三重県出身の樋口靖洋が就任しました。横浜F・マリノスなどJリーグクラブを率いた経験、そして実績のある名将です。さらに、新加入選手には地元三重県にゆかりのある選手も多く、樋口監督の下、躍動感と一体感のある攻撃的なサッカーに、悲願のJ3リーグ昇格へ期待が高まります。地元の三重県志摩市出身、加入1年目でキャプテンを務める谷奥健四郎選手は「どのチームよりもチャレンジし、チャレンジしたことで起こった失敗は全員でカバーする、そんなひたむきなチームをつくりたい」と決意を固めています。

また、今年クラブ創立10周年を記念としたグッズやイベントも開催予定で、これまでクラブを支えていただいた皆さまへの感謝を届けるシーズンです。10周年という節目を迎え、あらためて、子どもたちの憧れ、そして地域の皆さまの生きがいとなる、居場所となる、愛されるクラブを目指します。そのために、選手・スタッフは地域の皆さまと共に歩んでいきます。クラブに関わる全ての皆さまと一体感を持って臨む2022シーズン、ぜひ熱い応援をよろしくお願いいたします。



樋口靖洋監督を迎え、これまで培ってきたものを踏襲しつつ、新たなスタイル構築を図っていく

なでしこリーグ便り

ディアヴォロッソ広島
<https://diavorosso.com/>



次なるステージへ

ディアヴォロッソ広島 監督 貞清 健一

2011年のFIFA女子ワールドカップで優勝し、日本中に夢と希望を与えてくれた「なでしこジャパン」に国民栄誉賞が授与され、その副賞として熊野筆が贈られました。2019年にその熊野町から誕生したチームがディアヴォロッソ広島です。

ディアヴォロッソとは、イタリア語の“ディアヴォロ・ロッソ”<赤い悪魔>の造語です。赤の持つエネルギーでアグレッシブなイメージとともに、悪魔のように、対戦する相手を翻弄し、ファンを魅了するチームでありたいという思いを込めています。

われわれディアヴォロッソ広島は、2021年9月に行われた皇后杯JFA 第43回全日本サッカー選手権大会中国地域大会で優勝し、初めて皇后杯に出場しました。2021プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会、10月にはプレナスなでしこリーグ入替戦を勝ち抜き、まだ通過点ではありますが、悲願のなでしこリーグ2部昇格を勝ち取りました。9月、10月と厳しい試合が続いた中、結果を出せたのも日々のトレーニングの積み重ねのたまものと思っています。

ディアヴォロッソ広島は「ZERO-BALANCE(ゼロ・バランス)サッカーフィールド」で活動しています。自社にて人工芝サッカーグラウンド2面、クラブハウスを保有し、日々トレーニングに打ち込んでいます。週末には多くのお客さまが来られ、公式試合などで多くの皆さまにもご利用いただいています。

今後はトップチーム強化のみならず、アカデミーの育成にも力を注ぎたいと考えています。2021年にはディアヴォロッソ広島U-15を立ち上げ、2022年には幼稚園、保育園の巡回指導をスタートし、2024年にスクール開講を目指します。活動場所がなくサッカーから離れていく子どもたちが、一人でも多くサッカーを続けていけるような環境を整えていきたいと思えます。

「子どもたちがサッカーをする環境を整えたい」

「女子サッカー選手の環境を変えたい」

この強い思いから実際に行動に移した結果、現在のZERO-BALANCEサッカーフィールド、ディアヴォロッソ広島が存在します。今シーズンより、なでしこリーグ2部に参戦します。困難な状況が続くかと思いますが、粘り強く戦い抜いてまいります。ぜひとも会場で温かいご声援をお願いいたします。



広島県安芸郡熊野町にあるZERO-BALANCEサッカーフィールド

なでしこリーグ便り

朝日インテック・ラブレッジ名古屋
<http://loveledge.jp/>



朝日インテック・ラブレッジ名古屋のチャレンジ

株式会社LOVELEDGE 代表取締役 堀田 崇

当クラブは、他のクラブと少し変わった特色を持っています。

2021シーズンから運営法人をNPO法人から株式会社に変更しましたが、代表取締役である私は弁護士であり、普段は法廷に立ち、また企業の顧問業務などに従事しています。他の取締役も、古紙のリサイクル業をはじめとする複数の企業の経営者、歯科医師、ブランディングを手掛ける株式会社の代表取締役であり、それぞれの業界、社会で日々研さんを積んでいます。

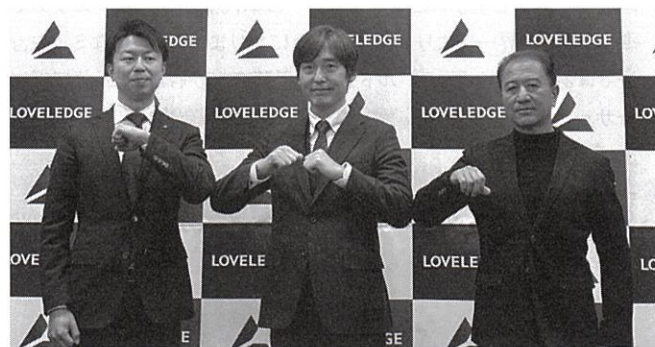
取締役たちは、それぞれの経験やキャリアを生かして、クラブの発展のために尽力しています。サッカー界に継続的に携わってきた人材が取締役にいないのはマイナスかもしれませんが、各取締役がその業界で培った知見を結集し、力を合わせてクラブの発展のために力を尽くすことにより、一味違うサッカークラブとして発展する可能性を秘めていると考えています。

当クラブは、2022シーズンより、朝日インテック株式会社とネーミングライツパートナー契約(3年間)を締結し、チーム呼称を「朝日インテック・ラブレッジ名古屋」に変更しました。朝日インテックは、愛知県瀬戸市に本社を置き、主に心臓血管治療用のガイドワイヤー、カテーテルなどの医療機器等の開発・製造・販売を事業内容とし、東証一部、名証一部に株式を上場しています。

ネーミングライツ契約についてさまざまな議論があることは承知しておりますが、当クラブおよび女子サッカー界の現状からすれば、社会的信頼を獲得している企業とのネーミングライツ契約は、クラブの価値・認知度・信頼度の向上に役立ち、ひいては女子サッカー界にも良い影響をもたらすものと確信しています。

今回のネーミングライツ契約は、資金提供がメインではありません。私たちの理念は、愛知県内の女子サッカー界の発展、女性アスリートの環境改善、地位向上にあります。瀬戸市出身の棋士・藤井聡太5冠の言葉を借りれば、「まだ森林限界手前」というのが現状です。朝日インテックには、今後、当クラブが上記の理念実現に向けて行うさまざまなチャレンジを支援していただく予定です。

この地域に愛され、応援され、そして目標とされる存在になるべく、これからも挑戦を続けてまいります。



2022年2月1日に行われたネーミングライツパートナー契約締結の記者会見の様子(写真左から朝日インテック株式会社 梅村佳範広報担当、株式会社LOVELEDGE 代表取締役堀田崇、朝日インテック・ラブレッジ名古屋 監督 磯村健)



日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟
<http://jbsf.or.jp/>



日本ビーチサッカーの新しい景色に向けて②

日本サッカー協会ナショナルコーチングスタッフ/
ヴィアティン三重BS 田畑 輝樹

●国内でプレーするビーチサッカー選手の評価

世界で戦えるスキルを備えた選手が現れることを期待しています。そして、同時に育てていくことの重要さも感じています。各地域でプレーする選手は、志と野心を持って努力し続けてほしいと思います。日本代表チームで会えることを楽しみにしています。

●日本ビーチサッカーが取り組むべき課題

(ビーチサッカーの“Japan's Way”とは?)

日本のストロングポイントは、一人一人の献身性、戦術理解度・戦術変更への柔軟性と対応力だと思います。ウイークポイントはいろいろありますが、不必要なファールをすところ。なぜならFKを与えて失点につながる人が多いからです。逆に日本はFKの決定率が低い点もウイークポイントの一つだと思います。今後、個々のプレーヤーの質を上げること、他国と比べてチームとしての優位性や知力を高めていくことが必要だと思っています。

●与論島での少年時代

私の少年時代は今ほど便利なものにあふれている時代ではなかったもので、自然の中で遊び、サッカーや野球など友だちと好きなスポーツに没頭していました。遊びもサッカーもどうしたら楽しめるか、どうしたらうまくなるか、どうしたら勝てるか、を考えたり、うまい人の真似をしたりして練習していた記憶があります。

海に行くことも多かったのですが、裸足でボールを蹴ることは少なかったと思います。ただ裸足になって走ったり遊んだりしていました。裸足が良いことか当時は分かりませんでした。今思えば人間本来の野性的というか本能が養われていた気がしますし、感覚が研ぎ澄まされるという意味では裸足は良いと思います。ビーチサッカーはボールタッチやボールコントロールなどの基本技術の向上につながり、バランス感覚やナチュラルな体幹やフィジカルの強化にも有効だと思います。

●全国のビーチサッカーファミリーへ

世界中がさまざまな困難に立ち向かう今の時代に、ビーチサッカーファミリーの皆さんと心をついに絆を大切にこの困難を乗り越えていきましょう。ビーチサッカー日本代表がワールドカップで準優勝し、世界をより意識するようになりました。簡単なミッションではありませんが、ワールドカップ優勝をつかむために、共にビーチサッカーを盛り上げ、そして世界一を勝ち取りましょう。



ビーチサッカーファミリーの心をついに絆を大切に乗り越え世界一へ

日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟
<http://www.jff-futsal.or.jp/>



東北U-15選抜フットサル大会

福島県フットサル連盟 理事長 池田 義人

東北地域ではフットサルのアンダーカテゴリー(U-15、U-18など)のリーグ戦は開催に至っておりませんが、独自の選抜大会を開催しています。2021年度は新型コロナウイルスの影響によりU-18とU-23の選抜大会は中止となってしまいましたが、2021年12月11日・12日に第4回東北U-15選抜フットサル大会は開催することができました。

新型コロナウイルスの影響で山形県選抜が辞退したことから、青森県選抜、秋田県選抜、岩手県選抜、福島県選抜、宮城県選抜の5県総当たりのリーグ戦を行いました。会場となった花巻市民体育館(岩手県花巻市)は新しい施設ではありませんが、競技者にとってより安全で快適性に優れた最新のタラフレックスコートに張り替えられており、プレーするには素晴らしい会場でした。

また、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、各ピリオド終了後にはベンチの消毒を実施。厳冬期ではありましたが窓を開けて換気し、リモートマッチ(無観客試合)で開催しました。

私もU-15福島県選抜の監督としてこの大会に参加しました。コロナ禍で十分なトレーニングを積むことはできませんでしたが、先般のJFA 第27回全日本U-15フットサル選手権大会東北大会で福島県勢が優勝と準優勝のワンツーフイニッシュ(2年連続)を飾っており、自信を持って臨みました。

初戦は青森県選抜と対戦しました。試合開始1分あまりで失点し、第1ピリオド終了時には3-5と2点を追う展開に。ハーフタイムに若干のアドバイスをし、なんとか6-5で逆転勝利をすることができましたが、この年代の指導は難しいと感じました。

続いて秋田県選抜と対戦した第2戦は、決して調子は悪くなかったものの、序盤から失点を重ねて0-8の完敗でした。

その後は1勝1敗で3位という結果に終わり、監督としての未熟さを痛感させられました。

それでも各県のフットサル選抜チームと交流ができ、意義深い大会となりました。まだまだ、新型コロナウイルス感染の収束は見えませんが、今後は選抜大会のみならずリーグ戦が開催できることを祈っております。



第4回東北U-15選抜フットサル大会で優勝した秋田県選抜



第4回東北U-15選抜フットサル大会では、3位で大会を終えた福島県選抜

全日本大学女子サッカー連盟便り

関東大学女子サッカー連盟
<https://juwfa-kanto.jp/>



関東大学女子サッカー連盟の取り組みについて

関東大学女子サッカー連盟 理事長 大槻 茂久

関東大学女子サッカー連盟の活動理念や取り組みについて紹介します。

連盟の活動理念は、「人として、学生として、スポーツ選手として」成長させることを柱に、

1. 関東地域に於ける大学女子サッカーの水準向上と普及に努めること
 2. 加盟チーム相互の親睦共励をはかること
 3. 広く社会に貢献できる学生を育成すること
- としています。そして、「選手強化・育成・普及」「指導者・審判員・トレーナー養成」「運営スタッフ養成」「広報活動」「選抜活動」「国際交流」など多岐にわたる目標を掲げて活動しています。

その中で、最近の具体的な取り組みとして、例年8月下旬より1回戦総当たりで実施していた関東大学女子サッカーリーグ戦(1部～3部リーグ：計29大学)を2021年度第35回大会から通年リーグ(ホーム&アウェイ方式)での開催とし、大学生同士の年間を通した真剣勝負の機会を増やすことによって選手の強化・育成を目指すこととしました。

また、普及を目的とした新たな取り組みとして、関東大学女子サッカーCiE(Creation is Encouraged)リーグを2020年度からスタートさせることができました。このCiEリーグは現在7大学が参加しており、全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)を頂点に形成されたピラミッドの他に、新しい枠組みをつくろうということで創設。登録や人数の規制を緩めることで人数の少ないチームや他大生がいるチームでも大学生同士で試合をできる場となっています。

2020年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの制限の中での活動が強いられました。しかしながら、そのような状況下から、学生発案の高校生対象の大学女子サッカー合同説明会をオンラインで開催、公式戦をライブ配信するなど、コロナ禍で生まれた新たな活動が今後も継続的に取り組んでいくべきものとなりました。

そして、選手は競技者としてだけでなく、学生主体の大会運営や連盟活動を行うことで、連盟の理念である「人として、学生として、スポーツ選手として」成長し、将来女子サッカーのみならず、広く社会に貢献できる人材を多く輩出することが大学女子サッカー連盟の使命と考えています。



関東大学女子サッカーリーグ1部・日本体育大学対早稲田大学より

日本障がい者サッカー連盟便り

日本CPサッカー協会
<http://jcpfa.jp/>



CPサッカー女子始動！ 初の女子CPサッカー国際大会へ向けて

日本CPサッカー協会 理事 神 一世子

2022年1月22日および23日、横浜市内で「2022 IFCPF Women's World Cup選手選考会兼女子CPサッカー選手発掘プロジェクト」を開催しました。まん延防止等重点措置が実施されている中、健康管理や感染対策を徹底し、関西から2人、関東から4人、高校生から40代まで年齢もサッカー経験もさまざまな選手、合計6人が参加しました。

女子CPサッカーは、2017年、それまでパラリンピックの種目だったCPサッカーが東京パラリンピック種目から除外されたことを機に、国際CPサッカー連盟(IFCPF)がその普及に着手し始めました。

2018、2019年は女子選手の発掘・普及を目的にスペインやオランダで国際キャンプを開催し、これをきっかけに日本でも女子選手の発掘・普及の取り組みをスタートしました。それまで国内チームの中に数少ないいなかった女子選手が、国際キャンプへの参加や普及イベントを開催する中で、現在は十数名に増えました。しかし、国内で女子チームの試合ができるような環境からはほど遠く、まずは女性の参加への敷居を低くし、選手の発掘や普及を図っていく必要性を感じています。

そんな中、今年5月にスペインで「2022 IFCPF Women's World Cup」が開催されることとなりました。本来は、2017年からの女子CPサッカー普及の一環として、2020年に初の国際大会として開催されるはずでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2年延期されての開催となります。

日本だけでなく、世界的にも女子CPサッカーの普及や選手発掘は取り組み始めたばかりです。女子選手が活動する国やチーム数は限られていますが、この大会が開催されることで、女子選手の目標となる大会や、そこへの出場を目指す過程でCPサッカーに興味を持ち、自分もやってみよう!と思う女性が一人でも増えること、性別問わず、世界でポピュラーなスポーツであるサッカーを楽しめる人が増えることにつながることを願っています。

コロナ禍で思うような活動ができない状況ではありますが、初の女子CPサッカー国際大会で、まずは日本の女子選手がその舞台に立つこと、そして、その世界の舞台で生き生きとサッカーができるよう準備をしていきます。



女子CPサッカートレーニングの様子



中川 英治

監督（ブラインドサッカー男子日本代表）

指導者として積み上げた知恵と言葉を磨き、選手たちと歴史をつくる

2022年1月15日、ブラインドサッカー男子日本代表監督に就任した中川英治さん。指導者としてさまざまなキャリアを積んだ後、ブラインドサッカーに携わるようになった。指導者として転機となった出来事や監督としての思いを聞いた。

○オンライン取材日：2022年2月16日

憧れの指導者に導かれて コーチの道へ

——サッカーとの出会いを教えてください。

中川 小学5年生のとき、地元の北海道静内町（現、新ひだか町）の静内サッカー少年団でサッカーを始めました。練習は週1回で、コーチの家に押しかけて「もっと練習したい」とせがんでみんのでボールを蹴ったことを今でも鮮明に覚えています。ボールを追うのが楽しくて仕方ありませんでした。

僕の最初の指導者であり、後の人生に大きな影響を与えたのが北海道の高校でサッカー部の監督をしていた和田昇さんです。和田さんは筑波大学蹴球部で活躍された後、強豪校での指導を経て地元で教員として戻ってこられたのですが、小柄なのにテクニク

や体の使い方がすごく上手なんです。

リフティングや足元にびたつと収まるトラップ、コンパクトで速いキックなど、まるでマラドーナみたいで、子どもながらに衝撃を受けました。そんな和田さんに憧れて、和田さんが指導していた高校に進学したんです。当時はまだJリーグもなく、ただ高いレベルでサッカーを続けたいと考えていました。

——高校卒業後は地域リーグでプレーされました。指導者の道に進まれたのはいつですか。

中川 18歳になった年にJリーグが開幕したのですが、その下に位置する日本フットボールリーグ（JFL）でプレーすることを目標に地域リーグで頑張っていました。実は、指導者としてのキャリアをスタートさせたのもこ

の頃なんです。和田さんに声を掛けて

もらい、北海道静内小学校サッカーチームで指導を始めました。町役場で働きながら、終業後に子どもたちとボールを蹴り、週末は地域リーグというような充実した日々を過ごしました。

——指導者としてスタートした当初の思い出はありますか。

中川 国内でサッカーが盛り上がるにつれ、僕が小学生の頃は1チームしかなかった少年団が、3チームに増えていました。そのうちの1つが静内小学校です。当時は試合で中心になる高学年の人数が少なかったのですが、子どもたちには「サッカーがうまくなることで楽しさを感じてもらいたい」という思いでキャリアをスタートさせ

ました。

基礎を重んじる僕の指導に対して

「試合で勝たなければ意味がない」と保護者に指摘されることもありました。

そういう保護者には、技術の習得には時間がかかること、子どもたちがサッカーに夢中になることで勝つ確率も上がっていくことを説明するしかありません。ボールを意のままに操ることができれば、いろいろな攻撃ができます。和田さんからも助言をいただきながら続けていくうちに次第にメンバーも増え、試合でも結果を残せるようになりました。何より子どもたちが自信を持ってプレーするようになったことがうれしかったですね。

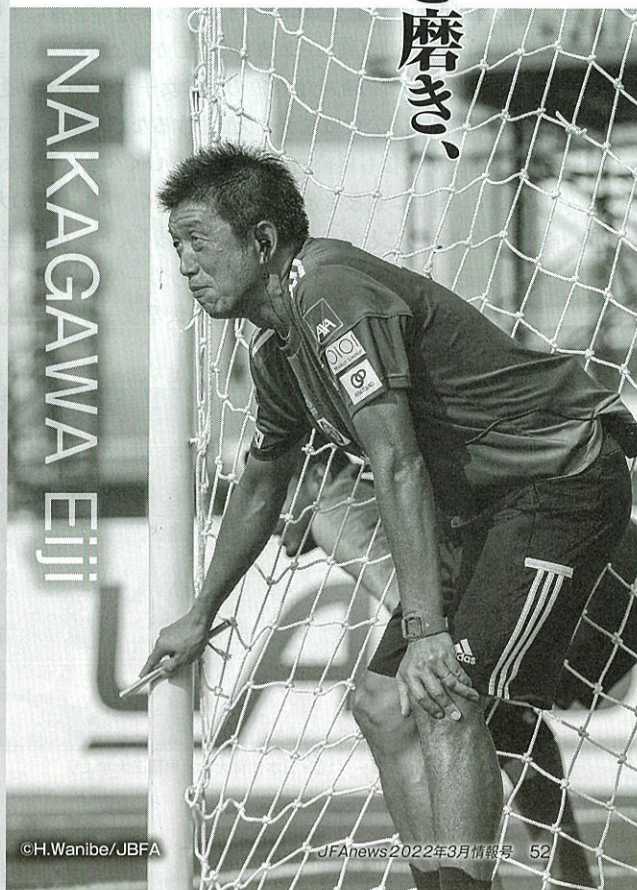
「二流のコーチになりたい」 選手から指導業に専念

——その後、上京してスクールのコーチとなります。選手を引退して

指導業に専念したいと思ったきっかけがあったのでしょうか。

中川 プレーすることはすごく楽しかったのですが、同時に、指導の奥深さも感じていました。選手として限界も見えてきた24歳で区切りをつけ、指導者のプロを目指すことを決意したんです。大きな葛藤もなく、スムーズにシフトチェンジできたのは、「選手としては一流になれなくても、コーチとしては二流になれる」と思うことができたからです。もっとサッカーの勉強がしたいという思いが強くなり、25歳のときに、現在、世界で40カ国、日本でも154カ所でサッカースクールを運営しているクーバー・コーチング・サッカースクールで働くことになりました。

当時は、民間にサッカークラブなんてほぼなかった時代です。公務員として安定した収入を得ていたこともあ



NAKAGAWA Eiji

り、周りからは反対されましたが、他に例がないからこそ、コーチを職業にできるのではないかと前向きに捉えていました。

——海外のスクールでも指導され、Jリーグの選手や日本代表(男女)の指導にも関わってこられました。思い出深い出来事はありましたか。

中川 約20年前のことですが、アメリカのサマーキャンプでカルチャーショックを受けました。9歳のグループに対してデモンストレーションを行い、「これできる人いる?」と聞くと、全員が手を挙げるんです。でも実際にやってみるとうまくできる子はいません。一方、日本で同じことをするとみんな下を向いて手を挙げない。しかし、実際にやってみるとみんなできる」といったことがあって、国や地域でこ



国内だけでなく海外の子どもたちにもサッカーを教える中で、目の前の子どもたちと向き合う大切さを身を持って知った(写真:本人提供)

んなに違いがあるのかと驚きました。

オーストラリアで指導した時には、現地のコーチから日本らしい練習をリクエストされたので、16歳の選手たちにボゼッションの練習をしようと投げかけたところ、やる気を見せてくれませんでした。そこで「なぜそれをするのか」という目的を伝えなければ誰も動いてくれないのだということ、身をもって知ったんです。練習の目的をしつかり伝えることで、トレーニングの中で条件を変えても選手たちは自分で考えたり、判断できるようになり、試合でのパフォーマンスも上がります。目的意識があるのとないのでは同じ練習をしても雲泥の差が出ます。練習の目的を伝えることは非常に大切なことだと学びました。

ブラインドサッカーは 原点を思い起こさせる場所

——ブラインドサッカーにはいつ出会ったのですか。

中川 現在はクーバー・コーチングの指導者養成機関であるクーバー・アカデミー・オブ・コーチングのヘッドマスターとしてコーチの研修を行ったりに、卒業後に現場で活躍しているコーチにトレーニングをしたりしています。選手としてどんなにキャリアを積んできたとしても、良い指導者になれるわけはありません。解剖学や栄養学なども含めた知識をしっかり学ぶことがコーチングの土台になります。

そうした学びの一環として、クーバー・アカデミー・オブ・コーチングでも障がい者サッカーを講義に取り入れようと考えたことが関わりの始まりです。2014年に日本ブラインドサッカー協会の方を招いて講義を行ったのですが、そこで出会った当時ブラインドサッカー男子日本代表の強化指定選手だった加藤健人選手にパーソナルコーチをしてほしいと頼まれ、引き受けることになりました。

——ブラインドサッカーに関わるようになって得た気づきなどはありますか。

中川 2015年11月に前監督の高田敏志さんから声を掛けていただき、ブラインドサッカー日本代表のヘッドコーチ兼ガイドに就任しました。選手たちと過ごす中で、一人一人と向き合うことの大切さを再認識させられました。彼らが歩んできた道はさまざまです。指導する上では、その人の背景も含めてよく理解することが不可欠です。サッカークラブの子どもだって生まれ育った土地や家庭環境は全く異なりますので、それは障がいがあってもなくても同じです。

これまで子どもたちを相手に、自分のパフォーマンスを見せてまねしてもらおう、という指導をやってきましたが、盲目の選手にデモンストレーションは通用しません。そこでやはり大事になるのが、「言葉」です。ブラインドサッカーの選手と関わるようになってから

は、伝えたいことを分かりやすく、具体的に言語化する能力が鍛えられました。特に試合中は一瞬で場面が変わりますからより短く的確に伝えることが大切になります。

——ゴール裏で選手に情報を伝える「ガイド」としてピッチに立った東京2020パラリンピックはいかがでしたか。

中川 日の丸を背負うプレッシャーはありましたが、サッカーができる楽しさもありました。結果は5位。大会後、練習を再開した選手たちを指導するにあたり、試合の動画を見たのですが、それを見て悔しさがこみ上げてきました。指導者としてもっとできることがあったのではないかと自責の念に駆られたんです。そんなときに監督の打診が来て、それで引き受けることにしました。

——ブラインドサッカー男子日本代表監督としての目標を聞かせてください。

中川 選手たちと話をしていると、コーチの家に押しかけるほどサッカーに熱中していた少年時代の自分を思い出します。決して競技歴が長い選手ばかりではありませんが、だからこそ、うまくならないという熱量や向上心を僕にぶつけてきてくれます。そんな選手たちに心を動かされました。初出場した東京パラリンピックは開



ブラインドサッカーと出合っ言葉をいかに伝えるかを学んだ。監督としてチームを率い、再び世界を目指す

<プロフィール>
中川 英治(なかがわ えいじ)
1974年7月6日生まれ/北海道出身

■主な指導歴
1993~1998年 北海道静内小学校サッカースポーツ少年団
1993~1998年 北海道静内選抜チーム
1996~1998年 北海道苫小牧地区日高トレセン
1999年~ クーバー・コーチング・サッカースクール
2004~2019年 暁星中学校サッカー部
2005年~ クーバー・アカデミー・オブ・コーチング(指導者養成)
2021年~ 東京ホテル・ウェディング&IR専門学校チームビルディング・基礎体力講師
2015年11月~2021年9月 ブラインドサッカー男子日本代表ヘッドコーチ・ガイド
2022年1月~ ブラインドサッカー男子日本代表監督

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの) Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会



ビーチサッカー NAVI



ビーチサッカー日本代表の茂矜羅オズ監督兼選手による連載コラム。
隔月でお届けします。

変化する 世界のビーチサッカー

「4秒ルール」で戦い方が変わった

今年のビーチサッカー日本代表は、国内でのトレーニングキャンプや海外遠征で強化を図りながら、10月にアラブ首長国連邦(UAE)のドバイで予定されている「インターコンチネンタルカップ2022」に出場します。FIFAビーチサッカーワールドカップロシア2021準優勝の経験も生かし、再び世界強豪との対戦に臨みます。

昨年末に行われたBeach Soccer Worldwide (BSWW)のBeach Soccer Stars 2021授賞式で、2021年の年間最優秀選手賞を受賞しました。子どもの頃から「世界一の選手になる」という夢を持ってプレーしてきたので、一つの目標を達成することができてとてもうれしいです。

さて、今回のコラムは、「変化する世界のビーチサッカー」がテーマです。サッカーのトレンドがこの10年間で大きく変わってきているように、ビーチサッカーも常に変化しています。昨年のルール改正で「GKは自陣内で4秒以上ボールを保持できない」というルールが加わったことで、FIFAビーチサッカーワールドカップでも戦い方に変化が生まれました。

GKがボールを持てる時間が短くなったため、すぐにボールをリリースしなければならず、よりスピーディーでダイナミックな試合が繰り広げられるようになりました。実際に両チーム合計で10点以上入るような試合も増えましたね。その分、フィールドプレーヤーにとっては、スピードや体力などのフィジカル要素がより求められるようになっていきます。また、消耗が激しくなり、選手交代も増えるので、選手層の厚さも重要です。そういう意味では今後、例えばフィジカルに長けたアフリカの国々などが台頭してくることも考えられます。

余談ですが、ゴールが入るとそのたびに時計が止まるので、1試合あたりの試合時間も長くなってきており、選手の負担を考慮し、「試合間のインターバルをもっと長くしなくてはならない」という話も出ているようです。

砂の上でサッカーをやっている

どの国にもサッカー経験者やサッカーから転向してきた選手が多くいるので、その面での変化も見られます。ビーチサッカーでは基本的にボールを浮かしたプレーが多いのですが、砂の上でも普通にパスを回してサッカーをしているチームもあります。最近だと、ワールドカップで対戦したセネガル代表がそうでした。

僕はフィクソという守備のポジションで、相手のピヴォをマー

クするのですが、ビーチサッカーだけをやってきた選手の動きならだいたい読めますが、サッカー経験者は少し対応が異なります。ワールドカップやドバイ(UAE)で行われた「Tecnotree Intercontinental Beach Soccer Cup 2021」では、背中を向けてボールを保持しているピヴォが、左右どちらにもターンしてきたり、体の当たりがすごく強かったり、これまであまり対戦したことのないタイプの選手と対峙(たいじ)する場面も多くなりました。僕自身はすごく面白くなってきたなと思っていますし、守備のやり方をもっと考えなくてはいけないなと感じています。

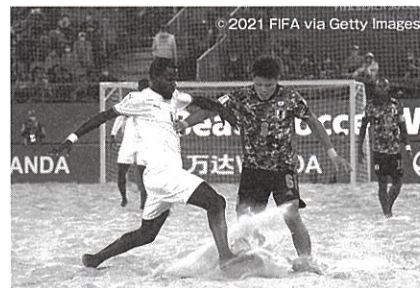
どの国にも世界一のチャンスがある

各国の「本気度」もここ10年で変わってきたように思います。国内リーグができた、国を超えた移籍も増えたり。過去の大会では、真剣勝負の中でもビーチサッカー特有のアクロバティックなプレーを意識的に見せようとする雰囲気もありました。今では、本当の意味で「競技」になっていると感じます。

ワールドカップも2009年まではブラジルが常に優勝に近い位置にいましたが、ここ10年の間にロシアやポルトガルが優勝するなど、ヨーロッパやアジアなどの国が台頭するようになりました。ブラジルでは幼少期からサッカーもビーチサッカーもできる環境にあると以前に話しましたが、ヨーロッパなどでも環境が整備され、20歳前後の選手も代表チームにいて育成にかなり力を入れてきているのがよく分かります。

どの国にも優勝のチャンスがあるのは、発展の途上にあるスポーツだからこそ。例えばタヒチは、サッカーでは強豪国ではありませんが、ビーチサッカーでは急速に力をつけています。2013年のワールドカップ開催国となり、2015年と2017年に2大会連続で準優勝。自国開催に向けて代表チームを結成するまでは多くの選手が漁師をしていたそうです(笑)。練習を見ても何か特別なことをしているわけでもないのですが、センスのある良い選手がそろっている印象です。

そういった意外性のある国の活躍もビーチサッカーの面白さの一つです。ここに挙げたさまざまな変化にも注目しながら、ビーチサッカーを楽しんでもらえたらうれしいですね。



©2021 FIFA via Getty Images
フィジカル面でアドバンテージのあるアフリカ勢や成長著しいタヒチなどFIFAビーチサッカーワールドカップ優勝のチャンスはどの国にもある

その瞬間、39歳のイタリア人レフェリー、マルコ・セラは頭が真っ白になってしまいました。自信を持って吹いたファウルの笛。しかしその直後に、ファウルを受けた側のチームがこぼれたボールをゴールにたたき込んでいたのです。

試合は1月17日、イタリアのセリエAで首位を争うACミランが下位のスペツィアを迎えたホームゲーム。ミランにとって、同じ町のインテル・ミラノとのつばぜり合いで遅れをとらないためにも、絶対に勝っておかなければならない試合でした。

しかしミランは前半にPKを失敗、ようやく前半終了直前に先制点を入れたものの、相手GKの好守もあって追加点が取れないまま、同点ゴールを許します。そして試合は後半のアディショナルタイム。相手ペナルティエリア前でパスを受けたミランのMFレビッチがシュートの態勢にはいります。

セラ主審は、レビッチの後ろからスペツィアのバストニが追うのを目に入れていました。ファウルの予感。果たして、シュートしようとしたレビッチの右足に、伸ばしたバストニの右足がかかり、シュートはできませんでした。セラ主審は迷わず笛を吹きました。

連載 Vol.107

いつも心に

大住良之
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT
大切に思うこと

絶望を救う励まし

ところが、次の瞬間、ペナルティエリアに転がったボールにミランのメシアスが迫り、左足を二振。ボールは美しい弧を描いてゴール右上隅に吸い込まれたのです。

セラ主審は茫然としました。当然、アドバンテージをとり、ミランの得点を認めなければならなかったケースです。しかし自分が先に笛を吹いてしまったことで、その得点は認めることができなくなってしまったのです。「なんてことをしてくれました」と詰め寄るレビッチ。セラ主審は両手を上げ、ただ、「すまない」と謝るしかありませんでした。

そのまま試合が終われば、まだ救われたかもしれませぬ。しかしセラ主審にとって残酷なことに、アディショナルタイムの6分、カウンターアタックをかけたスペツィアが逆に決勝点を取ってしまったのです。

当然、その晩と翌日、メディアは大騒ぎになります。「ミランは勝ち点3を奪われた」「優勝争いに大きな影響を与える大誤審」など厳しい調子でした。イタリア審判協会のトレンタランジエ会長も誤審を認め、公式に謝罪しました。

セラ主審は眠れぬ夜を過ごしたといいます。しかし同時に、

彼は「より良いレフェリーになって恩返しをしよう」という強い気持ちになっていました。それは、試合直後に、ミランの選手たちが次々と彼の更衣室を訪れ、励ましてくれたからです。

フロレンツィという選手は、敗戦の大きなショックにうなだれつつ、セラ主審をただ抱き締めました。セラ主審の部屋の前を歩きながら、「サッカーでは起り得ることだよ」「誰でも間違いを犯す。大事なものは立ち上がることだ」などと言葉をかけていく選手たちもいました。そして最後に、ミランのエースであり、主審に対する暴言で退場になるなどたびたび物議をかもし出すイブラヒモビッチがやってきました。40歳の彼は、1歳年下の主審に向かって、強い口調でこう言いました。

「今こそ、あなたの強さを示すときだ。立ち上がれ」

そうした選手たちの言葉を、セラ主審はただ茫然と聞いていました。しかしひと晩経たず、彼は「サッカーの仲間」からかけられた温かな言葉に、感謝してもしきれない思いを抱いたのです。

痛い敗戦を喫したミランでしたが、その後、インテルとの直接

対決を2-1で制し、首位の座を取り戻しました。そしてセラ主審も、2月12日のセリエB、ペルージャとフロジノーネの試合で見事復帰を果たしました。



写真：AFP/アフロ
1月17日セリエA・ACミラン対スペツィアを担当したマルコ・セラ主審（中央）。得点を認められず詰め寄るミランの選手に両手を上げて謝った。しかし試合直後にはセラ主審を励ますミランの選手たちの姿があった

言葉が届きました。しかし自分のミスでいちばん大きな被害をこうむったはずのミランの選手たちからの励ましほど、絶望的な状況で力づけになったものはありませんでした。ミランの選手たちの深い人間性に、私は強い感銘を受けるのです。



NADESHIKO
JAPAN



AFC女子アジアカップインド2022 大会レポート

女子ワールドカップ 出場権を獲得も 大会3連覇はならず

なでしこジャパン（日本女子代表）は1月20日から2月6日にかけて開催されたAFC女子アジアカップインド2022に臨んだ。FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023のアジア地区予選を兼ねた同大会で出場権を獲得するも優勝はならず、ベスト4という成績で大会を終えた。

※なでしこジャパンメンバーおよび公式記録などは32～33ページに掲載

**アジア女王を目指して
大差を付けての白星発進**

2021年10月に池田太監督が新たに就任したなでしこジャパンは国内合宿とオランダ遠征を経て、大会直前に高円宮記念JFA夢フィールドでの5日間の事前合宿を行い、大会3連覇を目指してインドに向かった。

チームは初戦の4日前にインド入りし、現地の暑さに慣れるべく練習を開始した。今回はサムライブルー（日本代表）の専属シェフである西芳照氏がチームに同行。長谷川唯（ウェストハム・ユナイテッド）が「前回大会は食事で苦労したが、その心配がないのは心強い」と笑顔で話すなど、栄養面からも選手をサポートした。しかし、居住地のイングラッドからインド入りした岩淵真奈（アーセナル）が、到着時の検査で新型コロナウイルス陽性反応が認められ、大会序盤は欠場する事態となった。

グループCの日本は初戦のミャンマー戦で、GK山下杏也加（NAC神戸レオネッサ）、熊谷紗希（FCバイエルン・ミュンヘン）など東京オリンピックに出場した選手のほか、長野風花（マイナビ仙台レディース）や植木理子（日テレ・東京ヴェルディベレーザ／東京NB）ら、池田監督の下でFIFA U-20女子ワールドカップフランス2018優勝を経験した選手が先発メンバーに名を連ねた。

日本は22分、植木がヘディングで代表初得点を決める。これが新生なでしこジャパンの1点目となった。「代表でゴールが欲しい気持ちはずっとあった。初陣で決められたのは個人的にうれしい」という植木を筆頭に、攻撃陣はその後もチャンスを多くつくった。前半途

中で林穂之香（A-Kフットボール）が負傷交代を余儀なくされたが、後半に長谷川が追加点を挙げ、林に代わって出場した猶本光（三菱重工浦和レズレディース）も直接FKで代表初ゴールを決めた。さらに途中出場の成宮唯（I神戸）もミドルシュートで代表初ゴールを決めるなど5-0とし、池田監督体制での初勝利をつかんだ。2得点を決めてプレーヤーオブザマッチに選出された長谷川は「スコアを取っていく気持ちで後半は臨み、それが得点につながった」と、大量得点の要因を語った。

日韓戦で引き分けるも首位突破を決める

第2戦のベトナム戦は、先発メンバーを8人入れ替え、GK田中桃子（東京NB）、高橋はな（浦和）、遠藤純（エンジェル・シティFC）など代表経験がまだ少ない選手を起用した。

日本は初戦に続いて攻撃を仕掛ける時間が長く、前半に成宮が先制点を決め、後半には熊谷が国際Aマッチ2得点目となるゴールで2-0とすると、58分には成宮がFKに合わせて3-0に。日本は、ベトナムのカウンターにもしつかり対応し、2連勝を収めた。国際A

マッチ3試合目で3得点目をマークした成宮は、「きれいな形ではなかったが、隙を逃さず自分の良さでもある抜け目なさが発揮できた」と2得点を喜び、「なでしこジャパンとして臨む初の大会なので、何がなんでも

チームの結果に貢献して得点するという目標を持ってこられた」と意気込んだ。

第3戦の韓国戦は、ベトナム戦から先発メンバーを7人変更し、猶本と長野がボランチを形成。前線には植木と長谷川が入り、グループステージ首位突破を懸けて2連勝同士の日韓戦を迎えた。日本は開始後、約30秒でスコアを動かす。左サイドバックの三宅史織（I神戸）からのロングパスに植木が反応し、スピードに乗ったままシュートを放つと、これがゴール左に決まって幸先よく先制。しかし、池田監督が「サポートの数やボールを動かすテナポの部分でもっと成長できたら。もう少しコンビネーションも磨きたい」と試合後に課題を挙げたように、そこから追加点が奪えない。後半は前掛かりになる韓国に対し、GK山下の活躍などでピンチをしのいでいたが、85分に

■グループC 第1戦
2022年1月21日 13:30 (現地時間)
Shree Shiv Chhatrapati Sports Complex

日本 **5-0** ミャンマー

22 植木理子
47' 90+2' 長谷川唯
53 猶本光
70 成宮唯

1-0
4-0

GK ⑯ 山下杏也加
DF ② 清水梨紗
③ 南萌華
④ 熊谷紗希
⑤ 三宅史織
MF ⑭ 長谷川唯
⑮ 長野風花

MF ⑯ 林穂之香
→ 43' ⑯ 猶本光
⑳ 宮澤ひなた
→ 69' ⑯ 成宮唯

FW ⑪ 田中美南
→ HT ⑯ 遠藤純
⑰ 植木理子
→ 69' ⑯ 菅澤優衣香

■グループC 第2戦
2022年1月24日 19:30 (現地時間)
Shree Shiv Chhatrapati Sports Complex

日本 **3-0** ベトナム

38', 58' 成宮唯
50' 熊谷紗希

1-0
2-0

GK ⑫ 田中桃子
DF ② 清水梨紗
④ 熊谷紗希
⑥ 宮川麻都
⑩ 乗松瑠華
⑫ 高橋はな
MF ⑦ 隅田凜

MF ⑧ 猶本光
→ 63' ⑮ 長野風花
⑬ 遠藤純
⑰ 成宮唯

FW ⑨ 菅澤優衣香
→ HT ⑫ 宮澤ひなた
⑪ 田中美南
→ 77' ⑰ 植木理子



大会初戦のミャンマー戦で代表初ゴールを決めた成宮(右)。右サイドでの突破力は相手の脅威となった

大差で準々決勝を制しワールドカップ出場を決める

CKから今大会初失点を喫し、1-1の引き分けで終了した。日本は得点差で韓国を上回ったためグループステージで首位通過を決めたが、長谷川は「満足できない部分の方が大きい。もっと良いプレーを目指して戦ってきたい」とノックアウトステージを見据えた。

今大会は出場チームが8チームから12チームに拡大され、初出場のイランをはじめ、数大会ぶりの出場となったチャイニーズ・タイペイ、インドネシア、ミャンマーなど多彩な顔ぶれとなった。しかし、グループステージでは女子アジアカップで実績を残してきたチームが勝利を重ねた。

グループAでは、大会7連覇の経験を持つ中国が無失点で連勝し1位通過。ホスト国のインドはチーム内に多くの新型コロナウイルス感染者が出たため、規程によりグループステージの途中で大会を辞退することとなった。グループBでは東京オリンピック4位のオーストラリアがインドネシアに18-0で勝

■グループC 第3戦
2022年1月27日 13:30 (現地時間)
Shree Shiv Chhatrapati Sports Complex

日本 **1-1** 韓国

1' 植木理子
85' Seo Ji-Youn

1-0
0-1

GK ⑯ 山下杏也加
DF ② 清水梨紗
③ 南萌華
④ 熊谷紗希
⑤ 三宅史織
MF ⑥ 猶本光
→ 80' ⑦ 隅田凜

MF ⑮ 長谷川唯
⑯ 長野風花
⑰ 成宮唯
→ 90+2' ⑮ 高橋はな
⑳ 宮澤ひなた

FW ⑰ 植木理子
→ 62' ⑪ 田中美南

■準々決勝
2022年1月30日 17:00 (現地時間)
D.Y. Patil Stadium

日本 **7-0** タイ

27'、65'、80'、83'
菅澤優衣香
45+2'宮澤ひなた
48 隅田凛
76 植木理子

2-0
5-0

GK ⑩ 山下杏也加
DF ② 清水梨紗
③ 南萌華
④ 熊谷紗希
⑤ 宮川麻都
MF ⑦ 隅田凛
⑧ 長谷川唯
→ HT ⑩ 道本光

MF ⑮ 長野風花
→ 58' ⑩ 林穂之香
⑳ 宮澤ひなた
→ 69' ⑨ 宝田沙織
FW ⑩ 岩渕真奈
→ HT ⑩ 植木理子
⑪ 田中美南
→ 9' ⑩ 菅澤優衣香



利するなど、力の差を見せつけ、3連勝で首位通過。フィリピンは初戦のタイに勝利したことで弾みをつけ、2位でノックアウトステージに進んだ。

日本は準々決勝を前に戦いの場を移し、勝

利すれば女子ワールドカップ出場が決まるタイ戦に臨んだ。左サイドバックに宮川麻都(東京NB)が入り、田中美南(一神戸)と療養から復帰した岩渕が2トップを組んだ。日本は岩渕のドリブルなどでボールを保持して試合を進めるが、9分に田中美が負傷により途中交代を余儀なくされる。しかし、代わって出場した菅澤優衣香(浦和)が先制点を挙げると、前半終了前にも宮澤ひなた(仙台)が代表初得点を決めた。

後半はゴールラッシュとなる。隅田凛(仙台)が代表初ゴールを決め、その後は菅澤がPKを成功させるなど4得点を挙げ、7-0の大勝で9大会連続9回目の女子ワールドカップ出場を決めた。それでも、菅澤は「女子ワールドカップ出場は最低限の目標。チャンピオンになれるよう頑張りたい」と気持ちを引き締め、宮澤も「どう崩すかのアイデアやいろいろなる形の得点シーンがあった。これからも目の前の試合に集中していく」と、準決勝に目を向けていた。

後半はゴールラッシュとなる。隅田凛(仙台)が代表初ゴールを決め、その後は菅澤がPKを成功させるなど4得点を挙げ、7-0の大勝で9大会連続9回目の女子ワールドカップ出場を決めた。それでも、菅澤は「女子ワールドカップ出場は最低限の目標。チャンピオンになれるよう頑張りたい」と気持ちを引き締め、宮澤も「どう崩すかのアイデアやいろいろなる形の得点シーンがあった。これからも目の前の試合に集中していく」と、準決勝に目を向けていた。

後半はゴールラッシュとなる。隅田凛(仙台)が代表初ゴールを決め、その後は菅澤がPKを成功させるなど4得点を挙げ、7-0の大勝で9大会連続9回目の女子ワールドカップ出場を決めた。それでも、菅澤は「女子ワールドカップ出場は最低限の目標。チャンピオンになれるよう頑張りたい」と気持ちを引き締め、宮澤も「どう崩すかのアイデアやいろいろなる形の得点シーンがあった。これからも目の前の試合に集中していく」と、準決勝に目を向けていた。

リードを生かせず ベスト4で敗退

中国との準決勝は拮抗した一戦となった。日本は負傷していた林が先発に戻り、左サイドバックに乗松瑠華(大宮アルディージャVENTUS)、2トップは岩渕と植木が組んだ。日本は清水梨紗(東

京NB)のオーバーラップなどで中国を押し込み、26分に宮澤のクロスボールから植木がヘディングで先制する。しかし、後半立ち上がり同点ゴールを許すと、そのまま延長戦に突入した。日本は延長前半も攻撃を続け、長谷川が蹴ったFKから相手ディフェンスラインの裏に抜けた植木がヘディングシュート。これがゴールネットに突き刺さる。VAR(ビデオアシスタントレフェリー)のチェックに時間を要したが2-1と勝ち越した。しかし、延長後半の終了間際、再び中国にサイド攻撃を許して2-2の同点とされ、勝負の行方はPK戦へ。先攻の日本は、1本目の熊谷と5本目の南萌華(浦和)のキックを相手GKにセーブされ、PK3-4で敗戦。日本はベスト4で今大会を終えた。

今大会チーム最多5得点を挙げた植木は、「周りの仲間たちが自分のやりやすいように動いてくれた」とその要因を話しながらも、「結果として負けてしまったことが全て」と敗退を悔やんだ。池田監督は「痛い敗戦となったが、それは受け入れなければならぬ」と結果を直視。「シュートを決めるところや、時間帯を考えてゲームコントロールする部分をもっと磨いていきたい」とチームの課題を見据えつつ、「(攻守の)切り替えの速さをみんなの共通イメージとして持つことができているので、手心えはある」と収穫も得た様子だった。

その後、中国は韓国との決勝で3-2の劇的な逆転勝利を収めて9回目のアジアの頂点に立ち、中国のWang

その後、中国は韓国との決勝で3-2の劇的な逆転勝利を収めて9回目のアジアの頂点に立ち、中国のWang

■準決勝
2022年2月3日 19:30 (現地時間)
Shree Shiv Chhatrapati Sports Complex

日本 **2-2** 中国

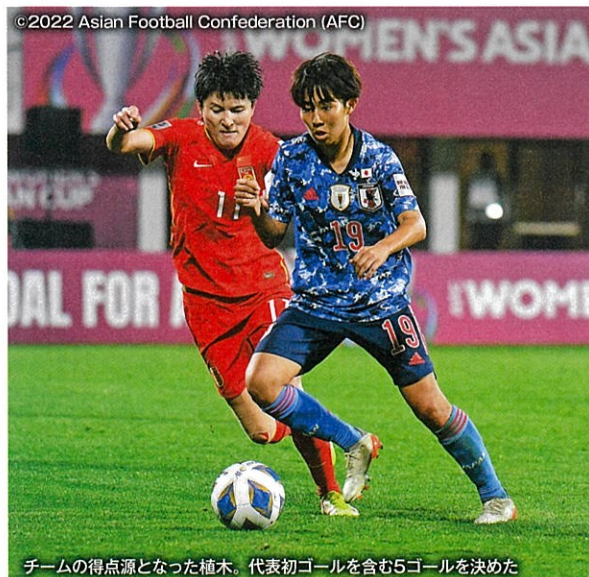
26'、103'植木理子

1-0
0-1
延長
1-0
0-1
PK
3-4

46'Wu Chengshu
119'Wang Shanshan

GK ⑩ 山下杏也加
DF ② 清水梨紗
③ 南萌華
④ 熊谷紗希
⑤ 乗松瑠華
MF ⑭ 長谷川唯
⑮ 長野風花

MF ⑩ 林穂之香
→ 98' ⑦ 成宮唯
FW ⑩ 岩渕真奈
→ 64' ⑩ 遠藤純
⑪ 植木理子
→ 112' ⑩ 高橋はな



Shanshanが大会MVPを受賞。準決勝に進出したフィリピンと、プレーオフで2勝したベトナムの女子ワールドカップ初出場が決定した。また、今大会では日本の山下良美審判員がグループBインドネシア対タイ、プレーオフのベトナム対チャイニーズ・タイペイの2試合、小泉朝香審判員がグループAチャイニーズ・タイペイ対イランの1試合でそれぞれ主審を担当した。

この経験をワールド ドカップに生かす

なでしこジャパン（日本女子代表）を率いて初の国際大会に臨んだ池田太監督。残念ながら優勝は叶わずベスト4で大会を終えたが、なでしこジャパンは9大会連続のFIFA女子ワールドカップ出場権を手にした。

この大会を通じて得られた手応えや課題について指揮官に聞いた。

○オンライン取材日：2022年2月9日

池田太 なでしこジャパン監督 インタビュー



NADESHIKO
JAPAN

©2022 Asian Football Confederation (AFC)



アジアの頂点を目指して
良い準備をしてインドに入る

——大会に向けてどのように準備を進めたのでしょうか。

池田 2021年に実施した国内トレーニングキャンプでコンセプトの落とし込みを行い、11月のオランダ遠征では、日本国内と海外それぞれでプレーしている選手の融合も考えながらアイスランドとオランダと対戦しました。女子アジアカップまで時間がなく、短期間にさまざまなことを考えて進めなければならなかったのですが、大会に向けて良いシミュレーションとなりました。

所属チームの成績により、皇后杯JFA全日本女子サッカー選手権大会を終えた時期が選手によって異なっていたので、インド出発前の国内トレーニングキャンプではコンディションを整えるところから入りました。フィジカルコーチやメデイカルチームと連携し、高円宮記念JFA夢フィールドでしっかり調整して現地入りすることができました。インドは気温が高かったのですが湿度はそれほど高くなく、むしろ乾燥して喉が渇くほどでしたので、

選手の水分補給に特に気を使いました。

——大会の目標はどこに定めて臨んだのでしょうか。

池田 FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023のアジア地区予選を兼ねる大会でしたので、もちろんその出場権を獲得すること、そして、アジアでも日本の力を示して頂点を目指そうとチームの目標を掲げました。

——グループステージ初戦はミヤ

ンマーとの対戦でした。

池田 初戦特有の硬さがありましたが、前半からチャンスはつくれていました。ところが、なかなか得点できず、それがプレーの硬さにつながったように思います。しかし、私たちが掲げる攻守の切り替えの速さやボールを奪い取るころはしっかりできていました。前半中盤で植木理子選手（日テレ・東京ヴェルディベレーザ）がダイナミックな代表初ゴールを決め、それでチームに勢いが付きました。後半は、途中出場の選手も得点してくれましたし、猶本光選手（三菱重工浦和レッズレディース）、成宮唯選手（INAC神戸レオネッサ）も初ゴールで勢いを加速させてくれました。しかし、もう少しスコアにつなげることもできたのではないかと。そこは課題として残りました。

——第2戦のベトナム戦も前半は1-0でした。ハーフタイムはどのような声掛けをしましたか。

池田 ベトナムがマンマーク気味の守備をしてきたので、それを飛ばすようなパスを狙うイメージが入りました。ただ、前半はその意識が強すぎたのでハーフタイムではそこを修正してボールをテンポよく動かそうと伝えました。また、今大会は中2日で試合が続くことが多かったので、

©2022 Asian Football Confederation (AFC)



グループステージ第1戦と第2戦はいずれも前半を1-0で折り返し、後半に追加点を奪って連勝を飾った

体力の消耗を考えると全員の力が必要になります。セットプレーも鍵になると考えていたので、トレーニングしてきた形でセットプレーから点が取れたことは収穫でした。

選手を入れ替えながら世界大会の切符を獲得

——第3戦の韓国戦はともに2勝で迎えました。どのようなプランで試合に臨みましたか。

池田 グループステージを1位で突破しようとチームで目標を共有しました。もちろん試合前は得失点差で日本が優位であることも選手には話していたので、引き分けでも1位になることを念頭に置きつつ、先制点を奪いにいこうと臨みました。

——韓国戦は開始約30秒で先制しましたが、試合終了間際に失点してしまいました。

池田 先制点を取れたことはチームに余裕を与えましたし、その後も前半はゲームコントロールできていたと思います。結果的にグループステージ1位通過はしましたが、後半の失点シーンのような、相手がパワーを持って攻めてきたときの回避方法やボールの動かし方に課題が残りました。その点を改善できれば、

安定した戦いにつながったんじゃないかと感じています。

——準々決勝のタイ戦は、勝利すれば女子ワールドカップ出場という試合でした。

池田 タイ戦の日は気温が高く、ピッチレベルの温度計では40度ほどだったので難しい試合になると思っていました。「女子ワールドカップ出場が懸かるチケットマッチだ」と選手に話して、ここで出場を決めることを強調した一方、準々決勝以降はVAR（ビデオアシスタントレフェリー）が導入され、サッカーは何が起こるか分からないとチーム内で再認識して臨みました。少し慎重に入った印象でしたが、落ち着いてボールを動かし、前半に2点を取ることがゲームを安定させたように思います。選手たちは、ワールドカップ出場という最低限のミッションをクリアして喜びを分かち合いながらも決して浮かれることはなく、次の準決勝へと切り替えていました。

——準決勝の中国戦は拮抗し、延長戦、PK戦の末に敗れました。

池田 失点したタイミングが後半の立ち上がりと延長後半終了前だったので、そういった時間帯にもっと慎重かつ緻密なプレーをしなければならぬとあらためて思い知ら



©2022 Asian Football Confederation (AFC)

9大会連続9回目のワールドカップ出場を決めたタイ戦。終わってみれば7-0の大勝となった

されました。FKの後のポジションにこだわらないと思えますし、どのよう試合をコントロールしていくかは、チームとして意思を統一しながら練習上げていく必要があると考えています。

攻守の切り替えに手応え 課題克服に着手する

——今大会を振り返っての収穫と課題を教えてください。

池田 昨年10月に立ち上げたチームですが、さまざまな選手の組み合わせで選手同士が試合やトレーニングを通して、互いを深く知り、コン

ビネーションの積み上げはできたと思います。また、トレーニングしてきた攻守の切り替えなどは、試合中にいくつか形として見えてきた手応えもあります。しかし、韓国や中国のようにパワーを持って攻めてくる相手に対して、それを跳ね返しながらゲームコントロールやマネジメントするところは、今後身に付けていかなければならない点だと思いました。

——女子ワールドカップで重要な部分はどこでしょう。

池田 先ほどの課題克服に加え、駆け引きや日本の選手の良さである俊敏性やスピードを発揮できることが重要です。加えて、スピードが上がってもぶれない技術を求めています。賢く体を使い、体格で上回る相手をかいくぐる俊敏性やスピードと技術を、これからも磨いていきたいと思っています。

——大会前に岩渕真奈選手（アーセナル）が新型コロナウイルス陽性判定を受け、大会後半には宮本ともみコーチも陽性となるなど、コロナとの戦いもありました。

池田 感染対策は常に徹底してきましたが、それでも毎試合2日前のPCR検査で全員が陰性だと拍手が



©2022 Asian Football Confederation (AFC)

長野風花(写真)や植木理子といったFIFA U-20女子ワールドカップ優勝メンバーも台頭した

起きるほどで、みんな緊張していたんだと思います。仮に私が陽性だった場合、誰が指揮を執るかなどを含め、事前にミーティングを重ねて対策してきました。そういった備えがあったことも、チーム内に混乱を生じさせないことにつながりました。また、今回はサムライブルー専属シエフの西（芳照）さんに同行していただきました。感染対策での衛生面はもちろん、疲労回復につながる栄養面やおいしさは、バブル形式で過ごす中で、選手やスタッフのパワーや楽しみになりました。優勝できなかった事実は受け入れなければなりません。この経験をこのからの活動や来年の女子ワールドカップに必ず生かしていきたいと思っています。



皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会

優勝

¥10,000,000



WINNERS



皇后杯 JFA WOMEN'S CHAMPIONSHIP

皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会

三菱重工浦和レッズレディースが悲願の初優勝

皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会が2021年11月27日から2022年2月27日にかけて行われ、三菱重工浦和レッズレディースが6度目の決勝進出で悲願の初優勝を果たした

序盤から波乱

昨年11月27日に開幕した皇后杯 JFA 第43回全日本女子サッカー選手権大会は、WEリーグ所属の11チーム、なでしこリーグ1部の12チーム、そして全国の地域予選を勝ち抜くなどして選出された25チームの計48チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争った。

WEリーグ開幕シーズンとあって、プロ対アマチュアの対決など新たな見どころも増えた今大会。初出場チームのうち、追手門学院高校(関西/大阪)、ディアヴォロッソ広島(中国/広島)、ヴィアマテラス宮崎(九州/宮崎)などが初戦で敗退する中、SEISA OSAレリア湘南FC(関東/神奈川)が奮闘する。2021シーズンのなでしこリーグ1部で4位の日体大FIELDS横浜(神奈川)を相手に、PKで得た1点を守り抜い



1回戦、初出場の湘南FCがなでしこリーグ1部の日体大に勝利

て皇后杯初勝利。湘南のゲームキャプテン夏目萌由は「ハードワークをやり切った」と、チームの歴史を塗り替える1勝を喜んだ。その他JFAアカデミー福島(東海/静岡)と徳山大学(中国/山口)がそれぞれなでしこリーグ1部チームにジャイアントキリングを起こし、2回戦に進んだ。

2回戦は、2021シーズンのなでしこリーグ1部優勝の伊賀FCくノ一三重(三重)が登場し、同リーグ得点王の西川明花の2得点などで筑波大学(関東/茨城)に4-0と完勝。なでしこリーグ1部同士のニッパツ横浜FC(シエガルズ/神奈川)とオルカ鴨川FC(千葉)の対戦は、浦島里紗のロングシュートでオルカが勝利を収めた。元なでしこジャパン(日本女子代表)で、引退を表明していたニッパツの小原由梨愛は、早すぎる敗退に涙を見せた。

首位のINAC神戸レオネッサ(兵庫)に対し、試合終了間際に勝ち越し点を奪って1-2と競り勝ち、大きな話題を集めた。1神戸に次ぐWEリーグ2位のマイナビ仙台レディース(宮城)はサンフレッチェ広島レジーナ(WEリーグ/広島)に敗れ、ノジマステラ神奈川相模原(WEリーグ/神奈川)はセレッソ大阪堺レディース(なでしこ1部/大阪)との打ち合いに屈した。

メニーナが快進撃 準決勝に進出

準々決勝でも波乱は続く。大会5連覇を目指す東京NBがジェフユナイテッド市原・千葉レディース(WEリーグ/千葉)に0-3の完封負け。東京NBの竹本一彦監督は「チャンスはあったが決められず、次の失点につながっていった」と悔やんだ。一方、妹

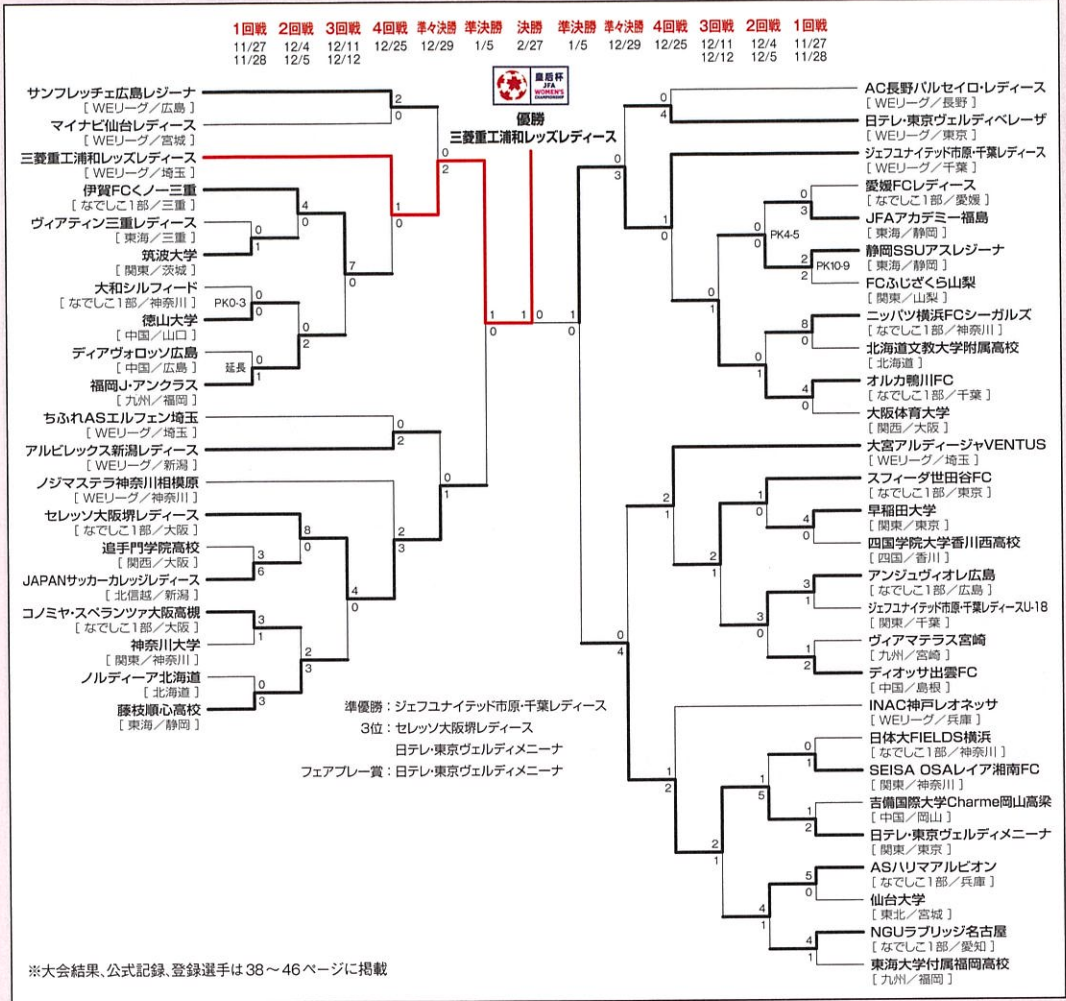


WEリーグチームに2勝するなど躍進を選んだメニーナが準決勝に進出した

メニーナの快進撃は、WEリーグチームが登場した4回戦以降も止まらない。WEリーグ

分のメニーナの快進撃は続き、的確なポジションングと判断の早さで大宮アルディージャVENTUS（WEリーグ／埼玉）を攻略してWEリーグチームに連勝。C大阪堺も小山史乃観の決勝ゴールでアルビレックス新潟レディース（WEリーグ／新潟）に勝利し、ベスト4進出を決めた。

準決勝は、C大阪堺とメニーナのアマチュアチームが、三菱重工浦和レッズレディース（WEリーグ／埼玉）と千葉のプロチームにそれぞれ挑戦する構図となった。浦和とC大阪堺の対戦は、浦和が主導権を握って試合を進める。76分、浦和の塩越柚歩がシュートを放つと、このボールがC大阪堺の選手の手に入ったとし



初の決勝進出を目指したC大阪堺。準決勝で敗れ、あと一歩及ばなかった

てPKに。キッカーの菅澤優衣香はこの試合で一度、PKを失敗していたが、ここは冷静に決めてチームを3大会連続の決勝に導いた。敗れたC大阪堺のキャプテン、筒井梨香は「今シーズンはず



初優勝を目指す2チームの対戦となった決勝は1点を争う接戦となった

破してチャンスをつくり出していく。すると67分、清家のクロスから菅澤がボレーシュートを決めて浦和が先制。千葉は、リーグ戦で好調の大澤春花や、出産後、公式戦初出場となる大滝麻未らを投入して攻撃を活性化するが、浦和は南萌華や高橋はなが素早いカバーリングでこれをしのぎ、1-0で試合終了。浦和が6度目の決勝進出で悲願の初優勝を果たし、予選を含めて今大会に参加した438チームの頂点に立った。また、浦和は、天皇杯JFA第101回全日本サッカー選手権大会を制した男子チームとのアベック優勝となった。

らしいことが多かったが、若い選手が加わって昨シーズンよりも良いチームになった」と、チーム最高位のベスト4に成長を感じた様子。躍進を支えた小山は今大会最多の7得点を挙げた。千葉とメニーナの対戦は、千葉が鴨川実歩のゴールで先制する。メニーナも人数をかけて攻め、松永未夢、土方麻椰ら上位進出に貢献した選手がゴールを狙い続けた。しかし、WEリーグでも好調を維持する千葉は粘り強い守備で得点を許さず、1-0のままタイムアップとなった。敗退したメニーナの坂部幸菜キャプテンは「（WEリーグで）無敗だった1神戸に勝つなど貴重な経験ができた。今後に生かしたい」と前を向いた。格上を次々に破ったメニーナはフェアプレー賞を受賞。その大躍進は今大会の大きなトピックスとなった。

初優勝を目指す2チームが 決勝で対戦

AFC女子アジアカップインド2022を挟み、準決勝から約1カ月半後に迎えた決勝の舞台は、前回大会と同じくサンガスタジアムby

3試合連続得点の菅澤は「皇后杯のタイトルだけが取れていなかったの何としても獲得したかった」と笑顔を見せると、ボランチで活躍した安藤梢も「チーム移管前の」さいたまレinasFC時代から、あと一歩で逃してきたタイトル。歴史に名を刻めてうれしい」と喜んだ。一方、準優勝となった千葉の猿澤真治監督は「自分たちの成長を考えれば大きな成果。これをリーグ戦に生かしたい」と、翌週から始まるWEリーグ後期に視線を向けた。

バルドラール浦安ラス・ボニータスが堂々の2連覇達成!



昨年6月に開幕した日本女子フットサルリーグ2021-2022は、プレーオフを制したバルドラール浦安ラス・ボニータスが連覇を飾った。

2021・2022シーズンはアスレジーナユニアオあいち一宮が参加休止を表明したことにより、10チームが参加した。開幕戦から新型コロナウイルス感染症の影響で延期される試合が出たことに加え、プレーオフの形式も変更されるなど、昨シーズンに続き、「コロナ禍でのイレギュラーな対応を余儀なくされた。今シーズンから新たに動画配信サービスSPONZONEで試合の無料ライブ配信を実施。試合後もアーカイブで高品質な映像が視聴できるとあってファン・サポーターにとってはうれしい試みとなった。

リーグ戦は西宮が無敗で駆け抜ける

年間優勝チームを決めるプレーオフにはリーグ戦上位の3チームが進出した。序盤から連勝し、7節時点で全勝のSWHレディース西宮は2試合を残してプレーオフ進出を決定した。残り2枠はバルドラール浦安ラスボニータス、福井丸岡ラック、立川府中アスレティックFCレディースの3チームが最終節まで争う展開に。勝利すれば自力でプレーオフ進出が決定する昨年の覇者・浦安は、流経大メニーナ龍ヶ崎に完勝して堂々の2位通過。残り1枠は、勝ち点、得失点差で並ぶ福井丸岡と立川・府中の争いになった。先に試合を行った立川・府中が5-1とエスポラーダ北海道イルネーヴェに勝利し、勝ち点3を

積み上げる。福井丸岡は善戦するも、かつてリーグ3連覇を成し遂げた神戸の牙城を崩せず、2-1でタイムアップ。この瞬間、立川・府中のプレーオフ進出が決定した。

プレーオフ形式の変更も

順位は異なるものの、上位に進出した3チームは昨シーズンと同じ顔触れとなった。本来のレギュレーションでは、リーグ2位の浦安と3位の立川・府中の間でプレーオフ準決勝を2試合行い、勝ち抜いたチームが首位の西宮とプレーオフ決勝2試合を行う予定だった。しかし新型コロナウイルスの新規感染者が再び増加傾向を見せ始めたことから、準決勝、決勝をそれぞれ1試合とし、無観客で開催する形式に変更された。また、立川・府中の選手複数名に「コロナの陽性反応が出たこと」で、準決勝が中止となり、一発勝負で年間チャンピオンを決定する方式に変更。西宮と浦安が雌雄を争った。



今シーズンも持ち前の得点力を発揮し、2年連続の得点王となったSWHレディース西宮の江口未珂

と、さらに追加点を挙げて1stレトリオドを2-0で折り返す。2ndレトリオドも篠井りさのゴールで西宮を突き放す。3点差になったことで西宮もパワープレーで応戦。37分に三津山美有のゴールで1点を返し、西宮は一気に士気が上がる。しかし浦安は、直後に松本直美の強烈なプレスからパワープレー返しで再びリードを広げ、その後も西宮の反撃を1点に抑えて4-2でタイムアップ。浦安が宿敵の西宮を下して2連覇を果たした。

得点王は、西宮の江口未珂が17点を挙げて2年連続4回目の受賞に輝いた。フェアプレー賞は流経大が2年連続で受賞。昨年同様、コロナ禍の影響を大きく受けたシーズンだったが、レベル向上が表れた大会となった。

■日本女子フットサルリーグ2021-2022

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得点	失点	得失差
1	SWHレディース西宮	25	8	1	0	55	15	40
2	バルドラール浦安ラス・ボニータス	22	7	1	1	52	11	41
3	立川・府中アスレティックFCレディース	20	6	2	1	29	8	21
4	福井丸岡ラック	18	5	3	1	37	20	17
5	アルコ神戸	13	4	1	4	26	25	1
6	フウガドールすみだレディース	12	4	0	5	23	18	5
7	さいたまサイコロ	7	2	1	6	17	33	-16
8	エスポラーダ北海道イルネーヴェ	6	2	0	7	19	36	-17
9	ミネルパ宇部	6	2	0	7	18	53	-35
10	流経大メニーナ龍ヶ崎	1	0	1	8	6	66	-57

<プレーオフ>

SWHレディース西宮 2-4 バルドラール浦安ラス・ボニータス

※戦績表は35ページに掲載

molten
For the real game

AFC ASIAN QUALIFIERS™
ROAD TO QATAR

OFFICIAL MATCH BALL SUPPLIER

Run through the Asia



試合の流れを掌握 浦和レッズがタイトル獲得

FUJIFILM SUPER CUP 2022



WINNERS

12 February 2022 Nissan Stadium



臨機応変な対応を ピッチで体現

新シーズンの到来を告げる「FUJIFILM SUPER CUP 2022」は、白熱必至の1年を予感させる、手に汗握るゲームとなった。

当日は新型コロナウイルス感染予防対策のため入場者数制限があったものの、2月12日の日産スタジアムに詰めかけた1万8558人の観衆は開始早々から熱狂し、会場には大きな拍手が響き渡った。

先手を取ったのは2021年度の第101回JFA天皇杯全日本サッカー選手権大会の覇者・浦和レッズ。高い位置から積極的にプレスをかけて試合の主導権を握った。7分、右サイドを駆け上がった酒井宏樹のクロスボールを江坂任が右足で合わせて先制する。浦和は1点をリードしてからも右サイドから好機をつくり出し、明治安田生命J1リーグを連覇している川崎フロンターレを苦しめた。

後半は川崎Fがボールを持つ時間が長くなったが、試合のペースを握っていたのは浦和だった。自陣で守備ブロックを組んで付け入る隙をほとんど与えなかった。ボランチの岩尾憲、柴戸海が中央を固め、状況に応じて左サイドハーフの伊藤敦樹もすかさずフォロワーに入る。イレブン全員がリカルド・ロドリゲス監督の求める臨機応変な対応を体現。1-0で迎えた81分には明本考浩のパスを受けた江坂が自身2点目とな

るゴールを挙げて、追いつがるJ1王者を突き放した。

2-0の勝利を収めた試合後、浦和のロドリゲス監督は「選手たちには、厳しく、高い要求をしたが、非常によく戦ってくれた。みんなの頑張りの結果にながった」と、満足そうな表情で試合を振り返り、川崎Fの攻撃陣を無失点に抑えた手応えを感じている様子だった。

一方、ノーゴールで敗れた川崎Fも、リーグ開幕前に課題が明確になった点をプラスに捉えていた。今回の一戦では北海道コンサドーレ札幌から加入したタイ代表のアタッカー、チャナティップが早速先発出場。攻撃のコンビネーションはまだすり合わせている段階だ。「J1の開幕に向けて修正するための良い試合だったと思う」。リーグ3連覇に照準を合わせる鬼木達監督は敗戦の中にも光明を見いだしていた。



2得点を挙げ、浦和の勝利に大きく貢献した江坂(写真右)が歓喜のラン。周囲との連携もスムーズに行っていた

【試合結果】
川崎フロンターレ 0-2 浦和レッズ
【得点者】
7' 江坂任
81' 江坂任



2022シーズンの主役を探る

2月18日、川崎フロンターレ対FC東京の「多摩川クラシコ」でJ1リーグが開幕した。J1、J2、J3それぞれのリーグと今季のJリーグYBCルヴァンカップを展望する。

明治安田生命
J1 LEAGUE

3連覇を狙う川崎F それを阻む対抗馬たち

史上最多タイとなるリーグ3連覇を目指す川崎Fを阻むチームは現れるのか。前年度王者は、第9節で横浜F・マリノスに土を付けられたが、レアンドロ・ダミアンを軸とする強力な攻撃陣は健在で、昨季、J1リーグを独走した強さは変わらない。対抗馬は3年ぶりの覇権奪回を誓う横浜F.M、初制覇を狙うタレント集団・ヴィッセル神戸か。川崎Fも含めて昨季の上位3チームは体制を継続しており、大崩れる要素は少ない。

新体制でリスタートした強豪からも目が離せない。鹿島アントラーズはスイス人のレネ・ヴァイラー監督、名古屋グランパスは長谷川健太監督、サンフレッチェ広島はドイツ人のミヒャエル・スキッベ監督、ジュビロ磐田は伊藤彰監督の下で独自のサッカーに取り組んでおり、試合を重ねるごとに連係が磨かれるだろう。FC東京もスペイン人のアルベル・ブッチ・オルトネタ監督を招へいし、戦い方も陣容も大幅に変化している。

勢いがあるのは12年ぶりにJ1復帰を果たした京都サンガF.C.だ。就任2年目の曹貴裁監督に率いられ、第1節で浦和レッズを撃破している。昨季は15位に沈んだ柏レイソルも百戦錬磨のネルシーニヨ監督の下、虎視眈々と上位を狙う。手堅いサッカーで開幕から2連勝を飾っており、リーグをかき回す存在になるかもしれない。今季も上位から下位まで拮抗した戦いが繰り広げられそうだ。



鹿島以来のリーグ3連覇を狙う川崎F。選手層が厚く、即戦力となる大卒の選手がフィットしている点はプラスになる

明治安田生命
J2 LEAGUE

J1級の戦力を誇る 横浜FC 東北勢の奮闘にも注目

J1から降格した4チームの戦力は充実している。特に横浜FCは川崎Fから長谷川竜也、磐田から小川航基らを獲得するなど、J1クラスの選手がざらりと並ぶ。四方田修平監督の下でスムーズにチームをつくり、開幕から2連勝と順調な滑り出しを見せている。監督が交代した大分トリニータは、主力のほとんどが残留した。経験豊富な下平隆宏監督は昨季の基盤を生かして上位をうかがう。主要メンバーがざらりと変わったのは、徳島ヴォルティスとベガルタ仙台。共に監督は続投したが、選手たちが互いの特徴を理解し、本領を発揮するまでには少し時間が必要だろう。

昨季4位のV・ファーレン長崎は堅実なサッカーで昇格を目指す。松田浩監督が率いるチームは4年ぶりの昇格に向けて、J1/J2通算101得点(2月27日時点)を挙げているブラジル人FWクリスティアーノを獲得。堅守が持ち味のチームにプラスをもたらすことができるか。流麗なパスサッカーを見せるモンテディオ山形も台風の目となり得る。就任2年目となるピーター・クラモフスキー監督の戦術が成熟すれば、上位戦線に食い込んでくる可能性もある。東北勢は今季も熱い。J2初挑戦となるいわてグルージャ盛岡は、開幕戦でジェフユナイテッド千葉を下すなど波乱を起こしている。昨季、昇格したブラウブリッツ秋田と共に勢いを維持することはできるのか注目だ。

大型補強に成功したFC岐阜 J初挑戦のいわきFCも 見どころ

J3リーグは、J1・J2から約3週間遅れて3月12日に開幕した。開幕前から話題を集めているのは、大型補強を進めたFC岐阜。神戸から完全移籍で田中順也を、浦和から宇賀神友弥らを獲得し、豪華な陣容をそろえた。中盤で攻撃を司る柏木陽介も健在で、戦力はJ2屈指と言っている。

J2から降格した4クラブも負けず劣らずの戦力を誇る。高木琢也監督率いるSC相模原、名波浩監督が指揮を執る松本山雅FCは、昨季から継続してチームをつくっており、すでに土台はできている。天野賢一監督を招へいたギラヴァンツ北九州、石丸清隆監督を迎えた愛媛FCは、チームを再建する指揮官の手腕に期待がかかる。攻守の歯車が噛み合えば昇格争いに絡んでくるはずだ。

昨季、上位争いをしたカタール・雷山もJ2昇格の有力候補だ。「昇格請負人」の異名を持つ石崎信弘監督に鍛えられたチームの完成度は高く、21年のJ3得点王に輝いた川西翔太を獲得するなど戦力を上積みしている。昨季、J3昇格組として旋風を巻き起こしたテゲバジャーロ宮崎は、高崎康嗣新監督の下で再スタートを切る。多くの選手が入り替わった今季は真価が問われる年になりそうだ。今季からJ1リーグに参戦するいわきFCにも注目だ。福島県2部リーグから一步一歩這い上がってきたチームは、フィジカルを前面に押し出したサッカーで勝負する。プロの世界にセンセーションを起こせるか、見どころは尽きない。

2022明治安田生命J1リーグ(18チーム)

チーム名	チーム名
北海道コンサドーレ札幌	ジェビロ磐田
鹿島アントラーズ	名古屋グランパス
浦和レッズ	京都サンガF.C.
柏レイソル	ガンバ大阪
FC東京	セレッソ大阪
川崎フロンターレ	ヴィッセル神戸
横浜F・マリノス	サンフレッチェ広島
湘南ベルマーレ	アビスパ福岡
清水エスパルス	サガン鳥栖

2022明治安田生命J2リーグ(22チーム)

チーム名	チーム名
いわてグルージャ盛岡	横浜FC
ベガルタ仙台	ヴァンフォーレ甲府
ブラウブリッツ秋田	アルビレックス新潟
モンテディオ山形	ツエーゲン金沢
水戸ホーリーホック	ファジアーノ岡山
栃木SC	レノファ山口FC
ザスパクサツ群馬	徳島ヴォルティス
大宮アルディージャ	V・ファーレン長崎
ジェフユナイテッド千葉	ロアッソ熊本
東京ヴェルディ	大分トリニータ
FC町田ゼルビア	FC琉球

2022明治安田生命J3リーグ(18チーム)

チーム名	チーム名
ヴァンラーレ八戸	アスルクアロ沼津
福島ユナイテッドFC	FC岐阜
いわきFC	ガイナレ鳥取
Y.S.C.C.横浜	カマタマーレ讃岐
SC相模原	愛媛FC
松本山雅FC	FC今治
AC長野パルセイロ	ギラヴァンツ北九州
カタール・雷山	テゲバジャーロ宮崎
藤枝MYFC	鹿児島ユナイテッドFC

【大会概要】

大会方式：ホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりリーグ戦
 開催期間および試合数：
 J1リーグ 2月18日～11月5日【34節/合計306試合】
 J2リーグ 2月19日～10月23日【42節/合計462試合】
 J3リーグ 3月12日～11月20日【34節/合計306試合】
 試合会場：原則として各クラブのホームスタジアム
 試合方式および勝敗の決定：90分間(前後半各45分)の試合を行い、勝敗が決しない場合は引き分けとする

<J1クラブ・J2クラブの入れ替え>

- ・J1における年間順位の低位2クラブがJ2に降格し、J2における年間順位の上位2クラブがJ1に昇格する
- ・J1における年間順位16位のJ1クラブとJ2における年間順位3位から6位のJ2クラブが参加するJ1参入プレーオフに優勝したJクラブがJ1に残留または昇格する

<J2クラブ・J3クラブの入れ替え>

- ・J2における年間順位の低位2クラブがJ3に降格し、J3における年間順位の上位2クラブがJ2に昇格する

優勝を目指す清水など、今シーズンは創設30周年を迎えるクラブが多く、タイトルへの重みも変わってくる。伝統のカップタイトルを争う戦いから目が離せない。



ルヴァンカップでゴールを挙げた柏の真家(写真右35番)。若手の活躍がカップ戦を盛り上げる

前回大会を制した名古屋、1996年以来的の優勝を目指す清水など、今シーズンは創設30周年を迎えるクラブが多く、タイトルへの重みも変わってくる。伝統のカップタイトルを争う戦いから目が離せない。

前回の大会を制した名古屋、1996年以来的の優勝を目指す清水など、今シーズンは創設30周年を迎えるクラブが多く、タイトルへの重みも変わってくる。伝統のカップタイトルを争う戦いから目が離せない。

前回の大会を制した名古屋、1996年以来的の優勝を目指す清水など、今シーズンは創設30周年を迎えるクラブが多く、タイトルへの重みも変わってくる。伝統のカップタイトルを争う戦いから目が離せない。



J.LEAGUE
YBC Levain CUP

伝統のカップ戦で 若きタレントが 早くも躍動

ブレイク前夜の若手たちが躍動してきた伝統のカップ戦は、今季もニュースター誕生の予感。2月23日に開幕し、早速ルーキーたちがその存在をアピールしている。柏でトップチームへの昇格を果たしたばかりの真家英嵩(18歳)は第1節の京都戦で初ゴールを記録。連覇を狙う名古屋も18歳の甲田英将がデビューを飾り、前回大会準優勝のC大阪は17歳の北野颯太が先発に名を連ねるなど、活きのいい選手たちの活躍が目立つ。昨季はグループステージで好セーブを連発した浦和のGK鈴木彩艶がニューヒーロー賞を受賞。個人賞の行方も気になるところだ。

■プレーオフステージ

グループステージを勝ち上がった8チームにより、ホーム&アウェイ方式の2試合を行う。プレーオフ勝者4チームがプライムステージに進出する。
 第1戦 6月4日/第2戦 6月11日

■プライムステージ

プレーオフステージを勝ち上がった4チーム、およびACLに出場する4チーム(川崎F、浦和、横浜FM、神戸)を加えた計8チームにより、ホーム&アウェイ方式のトーナメント戦を行う。(決勝は1試合のみ)
 ※プライムステージの組み合わせは、プレーオフステージ終了後に抽選で決定する。

準々決勝：第1戦 8月3日/第2戦 8月10日
 準決勝：第1戦 9月21日/第2戦 9月25日
 決勝：10月22日

【大会概要】

大会方式&日程：
■グループステージ
 ACLに出場する4チーム(川崎F、浦和、横浜FM、神戸)を除くJ1の14チームとJ2の2チーム(前年度J1の17位、18位)の16チームを4グループに分け、各グループで2回戦総当たり(ホーム&アウェイ方式)のリーグ戦を行う。各グループ上位2チームの8チームがプレーオフステージに進出する。
 Aグループ(4チーム)：鹿島/C大阪/G大阪/大分
 Bグループ(4チーム)：清水/名古屋/広島/徳島
 Cグループ(4チーム)：札幌/柏/京都/鳥栖
 Dグループ(4チーム)：FC東京/湘南/磐田/福岡
 第1節 2月23日/第2節 3月2日/第3節 3月26日
 第4節 4月13日/第5節 4月23日/第6節 5月18日

エモーションは 大きな影響を与える それをうまく活用しポジティブな力に

アジアサッカー連盟（AFC）が中心となって展開している「AFCエモーションズプロジェクト」。日本サッカー協会（JFA）は同プロジェクトのパイロットFAとして、2021年から取り組みを進めている。前編に続き、同プロジェクトメンバーであり、日本での取り組みを先導する小野剛JFA副技術委員長にJFAでの活動内容や今後のビジョンなどについて聞いた。

○インタビュー日：2022年1月20日



リスニングアビリティを 大事にする

——日本でAFCエモーションズプロジェクトを広げていく活動についてお聞きします。JFAでは「エモーション」をテーマとした指導者養成用のプログラムを作成し、A級コーチ養成講習会で実施したとのことですが、どのような流れでプログラムを構築していったのでしょうか。

小野 最初は本当に手探りででした。まずはA-Perfコーチ養成講習会の1セッションで、アンディ・ロクスブルクさん（AFCテクニカルダイレクター）とマーク・ミルトンさん（AFCエモーションズプロジェクトリーダー）にもオンラインで参加してもらって一緒に行いました。まずはAFCエモーションズプロジェクトについての簡単なレクチャーをしてもらった後、受講者がペアを組み、一人が話し手、もう一人が聞き手となって「ペアトーク」を行い、そのトーク内容をフィードバックしながらさらに理解を深めていきました。

こうした取り組みを他の講習会でも実施し、それをベースにマークさんとはほぼ週に1回のペースでミーティングを重ね、プログラム全体の内容を詰めていきました。ヨーロッパサッカー連盟（UEFA）も「マスター・オブ・エモーション」と

いう冊子を教科書にしているのですが、その日本語版を作るための翻訳作業も並行することで自身身の理解も深まり、指導者養成講習会の講義で実施する日本版90分間のプログラムを作成しました。

——日本に合った形のプログラムを作られたと。

小野 AFCエモーションズプロジェクトのパイロットFAに日本とカタルが選ばれたのですが、その理由の一つに両国のメンタリティーの違いがあります。カタルFAでは、選手がすぐにカットとなって試合中に感情を爆発させてしまうことがあるので、それを抑えたい。一方、日本の選手は感情のコントロールには長けている面があるものの、逆に感情を思い切り外に出すことやや苦手です。

同じ「エモーション」というテーマでも、カタルと日本が抱えている課題はそれぞれ異なります。AFCは、両者が抱える課題をうまく高められるような形を目指しており、アンディさんやマークさんからは、「国民性や文化、教育的なバックグラウンドに合わせたプログラムを作っていこう」と言われていました。

——プログラムで行っているペアトークとそのフィードバックはどのような形で進めているのでしょうか。

小野 まずはエモーションにまつわるテーマを与えて、話し手に自由に話してもらいます。先ほどの講習会ときは、「エモーションが試合に大きな影響を及ぼした経験はあるか」といったテーマにしました。話す内容はもちろん大事ですが、ここでは、聞き手がしっかりと相手の話を聴くこと、つまり「リスニングアビリティ（聴く力）」を重視します。

そして、どちらか一方が話した後、互いに感じたことをフィードバックします。すると、聞き手からは「自分の意見を挟まずに、聞き続けることは思ったより難しかった」「つい話をしたくなる自分がいた」、話し手からは「聞いてもらっていると安心感があった」「最初は何か話すように言われても不安だったが、もっと話してみたいと思った」などといった声が上がりますね。

大抵の人は、会話をしていると、相手の話を聞いているようで実は聞いていないんです。聞きながら徐々に「次、自分は何を話そうか」と考えてしまう。つまり、「聴く」という行為が途中で中断されるのです。「聴く」ということにフォーカスしていくと、相手の話しているその時の情景が自然と見えてきます。そして、徐々にそこに話している相手のエモーションを共有することができ、場合によっては、その裏側

A-Proコーチ養成講習会の講義で行われた「エモーション」をテーマとしたセッション



——受講者の反応はいかがでしたか。

小野 自分が想像していた以上に反響がありました。受講者の中にはJリーグでプレーした経験のある人も多くいましたが、フィードバックは非常にポジティブで、かなりのインパクトがあったと思います。ペアトークだけを見ても、話が止まらなくなっている場面をよく目にしました。先ほど、日本人の特徴として感情を露出することが苦手だと言いましたが、相手が話を聞いてくれているという「安心できる空間」をつくれれば、それは改善されることを実感できました。

私たちは試合のハーフタイムなどに選手に「もつと話せ」と簡単に言うてしまいがちですが、集団としてリスニングアビリティを高める、立場が違っても相手のことを理解しようとする力を高めていくことが、話す力、そしてエモーションを発揮する力にもつながっていくのだと気付かせてもらいました。

日々少しずつでもエモーションと向き合う

——JFAアカデミーの選手たちにもエモーションに関するセッションを実施しました。その内容とは？

小野 基本的には指導者養成のプログラムと大きく変わりません。エ

モーションはどのようにして湧き上がるのか、エモーションがどのような影響を与えるのか。それを知り、理解することができれば、たとえどのようなエモーションであっても、それ自体が悪いものではないことが分かります。そして、自分に対する認識能力が高まり、エモーションの裏側にあるものを把握できれば、次にどういうアクションをすればいいかが見えてくる、ということとを伝えました。エモーションに振り回される前に、それをうまく利用しようということですね。その中で、分かりやすい例を用いたり、映像をアレンジしたり、選手用にカスタマイズして実践していただきました。

大学の選手向けにも実施していて、対象が指導者なのか選手なのか、選手の場合は年代に合わせる形で都度内容をマイナーチェンジしています。

——選手に行くことで具体的な成果はありましたか。

小野 即効性があったというよりは、刺激になっていいると考えます。日々の生活の中で沸き起こるいろいろな感情に対して「これはなぜだろう」と考えてその原因を把握し、対処していく。エモーションの裏側にあるニーズや追い求めたい価値観を認識するきっかけになっていきます。何かあるたびに少し考えることで、自分を客観視してみる。

その積み重ねがスキルになっていくわけです。選手たちと日常的に接しているアカデミーのコーチからも「時々、こういう言葉が出るようになった」と、選手の変化や気づきの報告があります。日々少しずつでもエモーションと向き合い、考えることが大事だと言えますね。

——今後、指導者や選手を含めてどのように広げていく方針でしょうか。

小野 まずはこのプログラムを担当する講師（チューター）を増やしていきたいと考えています。指導者養成の観点でいえば、A級コーチ養成講習会では引き続き行っていく予定ですし、リフレッシュ研修会などにも取り入れていきたい。また、選手にも若いうちはこのプログラムを受けてもらいたいですね。われわれJFAが開催するイベントや選手育成の取り組みの中で機会をつくっていったらと思います。同時に、各地域や都道府県への展開、グラスルーツでも保護者などに広げていきたいですね。あとは、プロの選手。うちの選手たちにやってほしい」という要望も届いているので、それらも含めて幅広く展開

していきたいと考えています。

——AFCエモーションズプロジェクトを日本全国に広げていく足がかりとして、「マスター・オブ・エモーション」の日本語版を発行しました。

小野 マークさん執筆の「マスター・オブ・エモーション」が基になっているのですが、それをただ翻訳したのではなく、日本代表でキャプテンの経験を持つ長谷部誠選手や熊谷紗希選手、内田篤人さん、宮間あやさん、またサムライブルー（日本代表）の森保一監督、なでしこジャパン（日本女子代表）の池田太監督らにも協力していただき、その経験から導き出された、生きた珠玉の言葉を盛り込んでいます。UEFAで用いられているものと骨子は変わ



日々少しずつでもエモーションと向き合い、考えることが大事だ

りませんが、オリジナルの日本バージョンで、自分たちにぴったりの教材ができたと思っっています。

この教材は、エモーションを分かりやすく理解できる1冊です。図解が豊富で学術書ではなく実践的な構成になっていますので、理解が深まる上に、身近ですぐ実践できる内容になっていると思っっています。ぜひ多くの皆さんに読んでいただきたいと思っいます。

——日常生活でも応用できる内容
ということでしょうか。

小野 アンデイさんが狙っているのは、まさにそれです。サッカーが社会に貢献しようと。そのため、このAFCエモーションズプロジェクト



「サッカーでは至る所にエモーションが溢れている。エモーション満載の劇場空間」と小野副委員長は言う

をカスケード効果(※)で広げていく予定です。カスケード効果とは、一本の細い滝が下へと流れていくうちに連なって広がりを持つていくことなのですが、AFCのワーキンググループからJFAの関係者、そして日本全国の指導者や選手、グラスルーツ、ひいてはサッカー以外の方へと波及していくことが理想です。

サッカーに関するただだからといってサッカー界のなかだけで完結しては、本当の価値を引き出せません。サッカーが世の中に貢献する存在であればあるほど、サッカーの価値が高まることとなります。サッカーで取り組んでいることが世の中でも役に立つ。そして、多くの人がより良く生きていける。そうしたことをサッカー界から発信したり、貢献できるようにしなければうれいしですね。

※自然の小さな滝が段々と下流へ流れる様子から由来。小さな刺激が段階的に次々と増幅して大きな効果を引き起こすこと、人の行動や心理が他の人にも連鎖していくことなどを指す

エモーションは 時として技術や戦術を 凌駕する

——あらためて、エモーションがサッカーのパフォーマンスに与える影響をどのようにお考えでしょうか。

小野 2019年に行われたAFCアジアカップ(UAE)準決

勝の日本対イランの例を挙げたように、エモーションは直接、勝敗にも関わってくる大切なものと認識しています。

先日、AFCのエリートコーチフォーラムに出席した際、UEFAテクニカルスタディグループのリーダーだったファビオ・カペッロさんがUEFA EURO 2020の分析を紹介してくれる機会がありました。

イングランドとイタリアの決勝では、イングランドがイタリアのプレスをものともせず、素晴らしい展開からゴールを決めたのですが、徐々に押し込まれ、最終的には追いつかれてPK戦で負けてしまいました。この試合についてカペッロさんの分析では、技術・戦術面よりも「怖れ」という言葉がキーワードで語られていました。あれだけポゼッションをしていたのに、イングランドはそれを放棄してしまっった。それは序盤のリードが重荷になって、それが「怖れ」を産み出し、相手にゲームを支配されことにつながってしまったという事です。これはまさに、「エモーションをコントロールすることにつながる」という話で、とても興味深く聞かせてもらったことを覚えています。

試合はもちろん、トレーニングでも、日常生活でも、あらゆる場面でエモーションは大きな影響をもたら

します。そのエモーションをマスターすることができれば、どれだけ得か。逆にエモーションに振り回されてしまったら、どれだけ損をするか。このプロジェクトを通して、エモーションは、時として技術や戦術を凌駕するほどのものと再認識しました。

——エモーションをコントロールする、マスターするために最も大事なことは？

小野 エモーションは非常に大きなエネルギーを持っています。だからこそ、上手に活用してポジティブな力に変えてほしい。これはメンタルが強い・弱い、生まれつきどうだといふものではなく、誰もがマスターできるものです。そういう思いを持って取り組んでいただけたらと思っいます。

——最後に、サッカーに携わる方へメッセージをお願いします。

小野 AFCエモーションズプロジェクトが立ち上がり、そのパイロットFIFAとして選ばれたJFAのこれまでの取り組みに対してAFCからは、「どのような道筋でやっていけばいいかを各国にも示してくれ、素晴らしい仕事をしてくれた」と、感謝の言葉をいただいています。

そしていよいよ今年にはAFC全体でこのプロジェクトがスタートし、私はAFCの活動に軸足を置き、国内では西川誠太JFA指導者養成ダ

イレクターを中心に進めていくことになっていきます。

今までみんなが大事だと気付かなかったものを、誰もが理解でき、実践できる形にしています。ぜひ、指導者講習会などに参加したり、本を手にしていただいたりして、新しい世界に足を踏み入れてください。サッカーの面でも人生においてもプラスになるものと信じています。

サッカー界が世の中に貢献できる一つのアプローチでもありますので、多くの方を巻き込んで展開していきたいと思っっています。よろしくお願っします。

「マスター・オブ・エモーション」(日本語版)



「AFCエモーションズプロジェクト」の一環としてEducation for Peace (スイスNPO団体) とアジアサッカー連盟 (AFC)、日本サッカー指導者協会 (JFCA)、日本サッカー協会 (JFA) が共同で制作したもので、現在、電子書籍版 (e-book) が販売されている。右のQRコードからアクセスし、購入できる。

傾聴や共感といったコミュニケーションスキルに加え、自身の感情や思考をどのようにコントロールして自らの行動に役立てるかということに関して、極めて実践的な情報が掲載されている。



読者プレゼント

応募締切：2022年4月15日(金)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「CONDIVO21 トラックジャケット(チームパワーレッド/ホワイト、0サイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「アスパス! ミニタオル」と「アスパス! スポーツタオル」をそれぞれ1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

JFA STORE



プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/hpqNbPHYfMG8ut8S9>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスして
ご応募ください。



■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス
公益財団法人日本サッカー協会・広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnews
のご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2022年4月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予めご了承ください。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた書葉は返却いたしません。

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

日本サッカー協会(JFA)は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑制し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2022年4月情報号は、2022年4月18日発売予定

[特集]

女子サッカー育成年代の環境整備

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の

購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。





KIRIN

IMUSE

さあ、 免疫ケアで 健康管理!



機能性表示食品

健康な人の免疫機能の維持をサポート
[プラズマ乳酸菌の研究報告]



果汁1%

【届出表示】本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC (プラズマサイトイド樹状細胞) に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

免疫のひみつ スペシャルムービー

声優に花江夏樹さん、竹達彩奈さんらを起用。「免疫のひみつ」について楽しく学ぶことができます。

詳しくはこちら!



キリンホールディングス株式会社
〈お客様相談室〉 ☎ 0120-770-502

受付時間10:00~16:00 (土日祝日除く)

イミューズ IMUSE <https://www.imuse-p.jp/>

のんだあとはリサイクル。



特集

日本フットサルの未来



発行人 須原清貴
発行所 公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311
東京都文京区サッカートーン通り(本郷3丁目)0番15号 JFAハウス
電話03501(2018)1990(代)



定価600円(本体545円)